

ス故ニ一旦認可ヲ得タルモノト雖モ尙ホ時効ノ制裁アルハ明カナリ然ルニ條例改正ニ依リ斯ノ時効ヲ變更シ二十二年一月ヨリ更ニ時効ヲ起算シタルハ違法ナリト決定シ以テ從前取扱銀行ニ與ヘタル指令ヲ更正シタリ

其後明治三十年八月償還元金ニ對スル月割利金ノ時効期間計算方ニ關シテ日本銀行ヨリ伺出テタルニ對シ大藏大臣ハ凡テ元金償還ノ月ヲ以テ該利金ノ時効期間計算ノ起點ト爲スヘシトノ指令ヲ與ヘタリ又曩ニ地方廳取扱中諸公債利賦金ニ關シ受取方猶豫ノ認可ヲ與ヘタルモノ延テ十數年ノ後ニ及ヒ日本銀行ニ於テ之カ取調ヲ爲スモ當ニ認可ノ事由年月日等分明ナラサルノミナラス利賦札ノ記番號又ハ本人ノ所在不明ナルモノアリ仍テ日本銀行ハ總テ之ヲ期滿免除トシテ處分ス可キノ意見ヲ以テ明治三十一年七月之ヲ伺出テタルニ大藏大臣ハ之ニ對シ利賦札ノ記番號不分明ナルモノハ二人以上ノ保證人ヲ立テシメ之カ仕拂ヲ爲シ本人所在不明ノモノハ期滿免除トシテ整理シ若シ後日正當ノ理由ヲ以テ利賦金ノ請求ヲ爲スモノアルトキハ其取消ヲ上申ス可キ旨ヲ指令セリ

第二項 元利拂手數料及雜費

第一 元利拂手數料

國債元利金ノ仕拂ヲ銀行ニ命任スルトキハ之ニ相當ノ報酬ヲ與ヘサルヘカラサルハ固ヨリ言ヲ俟タサル處ニシテ是レ即チ元利拂手數料ノ由テ起リタル所以ナリ凡ソ内國公債ニ就キテハ明治十一年ニ起業公債ヲ募集シ其取扱ヲ第一國立銀行及三井銀行ニ命任シタルヲ始メトシ明治十六

年ニ至テハ中山道鐵道公債及金札引換無記名公債ニ係ル條例ヲ公布シ翌十七年ヨリ之カ證券ヲ發行スルヤ其取扱ヲ日本銀行ニ命任シ尋テ明治十九年ニ至リ記名諸公債元利金ノ仕拂事務ヲ同行ニ移スニ及ヒ公債元利金ノ仕拂ハ全ク銀行ノ取扱ニ屬シタリ以上各種公債元利金ノ仕拂ニ對シ支給スヘキ手數料ハ何レモ元利金ノ仕拂高若クハ證券券面金額ニ應シテ計算スルノ例ニシテ其率ハ公債ノ種目ニ從ヒ多少ノ異動ナキ能ハス又一ノ公債ニ就キテモ時ニ或ハ其率ヲ改正シタルコトアリ然レトモ概ネ元金ニ對シテハ仕拂高ノ千分ノ一、利子ニ對シテハ同千分ノ三ヲ支給スルヲ以テ通例トナセリ而シテ此例ニ依ラサルモノヲ摘記スレハ凡ソ左ノ如シ

舊公債 賦金仕拂高千分ノ三

起業公債 元金仕拂高千分ノ五、利子仕拂高千分ノ十

中山道鐵道公債 二十二年度マテ起業公債ニ同シ

金札引換無記名公債 同上

國債證券買入銷却 初メ買入證券ノ券面金額千分ノ一ニ買入レ當期分ノ利子高ニ應シ其千分ノ三ヲ算出加給セシト雖モ三十年度以降之ヲ改メ單ニ買入證券券面金額ノ千分ノ一ヲ支給セリ

日本銀行倫敦代理店ニ於テ仕拂ヲ爲ス公債 元金仕拂高千分ノ三、利子仕拂高千分ノ五

起業公債、金札引換無記名公債及中山道鐵道公債ノ三種ニ限リ其元利拂手數料ノ支給率カ他ノ公債ノ例ニ比シ著シク多額ナルハ是レ畢竟其歴史ヲ異ニスル所アルカ故ナリ蓋シ往時内國公債元利金ノ仕拂其他公債ニ關スル事務ハ都テ地方廳ノ管理ニ屬シ隨テ別ニ元利拂手數料ノ所要ナカ

リシ時ニ方リ此三公債ハ獨リ一般ノ例ニ反シ起債ノ初ヨリ特ニ其取扱ヲ銀行ニ命任シタルモノナレハ之カ爲メニ要スル元利拂手數料ノ支給率ハ他ニ標準ノ據ルヘキモノナカリシヲ以テ取扱銀行ニ於テ要ス可キ費額(元利仕拂取扱店経費新開廣ヲ概算シ之ニ基キテ其率ヲ量定セシナリ然ルニ降テ十九年諸記名公債ノ元利賦金拂渡事務ヲ日本銀行ノ取扱ニ移スヤ其元利拂手數料ハ全ク日本銀行カ地方廳ノ事務ヲ繼承スル爲メニ生スル所ノ費用ヲ支給スルモノナレハ復タ起業公債等ノ例ニ依準スルノ必要ナキヲ以テ専ラ從來地方廳ニ於テ要シタル費額(官吏俸給旅費ヲ概計シ之ニ應シテ手數料ノ支給率ヲ定メタルナリ此ノ如クニシテ元利拂手數料ノ支給率ニハ二種ノ區別ヲ生シタリト雖モ之ヲ實際ニ徵スルニ日本銀行ニ於テ諸公債事務ヲ取扱フニ當リ甲乙ノ間毫モ其取扱手數ニ繁閑ノ差別アルニアラス殊ニ汎ク各種公債(起業公債ヲ除ク)ヲ舉ケテ之ヲ同行ノ取扱ニ委任シタル上ハ其仕拂ノ處ノ元利金高巨額ニ達シ隨テ之ニ應スル手數料モ大ニ増加シ復タ曩ニ僅ニ金札引換無記名及中山道鐵道ノ兩公債ノミヲ取扱フ時ノ比ニアラス而シテ其費用ハ取扱範圍ノ擴張ニ由リ實際ニ於テ多少融通スル所ナキニアラサルヲ以テ遂ニ二十三年度以降各種公債ヲ通シテ元金ニ付テハ仕拂高ノ千分ノ一(舊公債ノ三)利子ニ付テハ同千分ノ三ト定メ復タ公債ノ種類ヲ問ハサルコト、改メタリ

國債證券買入銷却ノ場合ニ於ケル手數料ニ付テハ明治二十九年二月二十八日大藏大臣ハ日本銀行ニ命令シ二十八年年度ニ於テハ當初買入證券ノ額面高ヲ以テ他ノ一般支給率ニ於ケル元金拂額ト看做シ又利子ハ別ニ仕拂ヲ爲サスト雖モ買入代金ノ内ニハ自ラ買入當期分ノ利子ヲ包含セルモノナルヲ以テ該證券ニ附帶スル當期分(即チ買入當月マ)ノ利子額ニ應シ各公債ニ於ケルト同シ

割合ヲ以テ手數料ヲ支給スルモノト爲シ而シテ翌二十九年年度ニ於テモ之ヲ因襲セリ然レトモ實際仕拂高ハ常ニ證券額面高以内ニ在ルニモ拘ラス既ニ其額面高ニ應シテ手數料ヲ支給スルニ加ヘ尙ホ實際支拂ヲ爲サル處ノ利子ニ對シテモ手數料ヲ支給スルハ稍厚キニ失スルノ嫌アルニ由リ三十年度以降之ヲ改メテ買入銷却ニ係ル仕拂手數料ハ買入證書額面高ノ千分ノ一ト爲シタリ而シテ又三十年五月開始シタル日本銀行倫敦代理店ニ於テ取扱フ公債元利金ノ仕拂事務ニ對シテハ同代理店ニ於テハ役員ノ給料ヲ始メ借家料其他ノ雜費ヲ要スルコト多額ニシテ内國ノ取扱店ト目ヲ同フシテ論スヘカラサルヲ以テ特ニ事務取扱上ニ要スル郵便電信料及廣告料ノ實費ヲ支給シ尙元利拂手數料ノ支給率ニ當テモ大ニ其歩合ヲ増加シ元金仕拂高千分ノ三、利金仕拂高千分ノ五トナセリ

第二 雜費

内國公債ニ關スル雜費ハ當籤證券記番號ノ廣告料ニシテ明治十五年度乃至十八年度ノ四箇年度間ハ歲出中國債費ノ科目即チ元利金及元利拂手數料ト共ニ同一ナル大科目ヲ以テ包括整理シタルモノナリ而シテ明治十四年度以前及十九年度以降ハ大藏省經費ノ豫算内ヨリ支出シ國債費ニ編入セサリシモノナルカ故ニ姑ク之ヲ省略スルコト、爲シタリ

抑公債償還ノ爲メニ執行シタル抽籤ノ結果ハ速ニ世上一般ニ周知セシムルノ必要アルニヨリ大藏省布達若ハ告示ヲ發スルノ外明治十五年十一月以降東京日々新聞外三新聞紙上ヲ以テ大藏省ヨリ之ヲ廣告スルノ例ト爲セリ(此廣告ハ明治二十年五月以降廢止シタリ)是ヨリ先キ起業公債元利拂手數料ハ起業基金ノ内ヨリ支出セシト雖モ明治十四年度以降之ヲ常用部ノ支辨ニ移シ爲ニ國債費中ニ内國債雜

費ノ科目ヲ新設シタリ是レ内國公債ニ就キテ雜費ナル科目ヲ見ルノ創始トス然レトモ其實質ハ單純ナル元利拂手數料ニ外ナラサルヲ以テ茲ニ所謂雜費ニアラス故ニ國債費中ニ於テ其所謂雜費即チ廣告料ヲ支出スルニ至リシハ實ニ此十五年度ヲ以テ濫觴トス

前述セル廣告料ハ各當該新聞社ニ仕拂フモノナレトモ外ニ取扱銀行ニ支給シタルモノアリ即チ第一國立銀行及三井銀行ニ於テスル廣告費用ノ辨給ニシテ元來此費用タルヤ既ニ元利拂手數料ノ内ニ包含セルモノナレハ別ニ之ヲ支給スルノ要ナキニ似タリト雖モ手數料ニハ一定ノ率アリテ廣告ノ費用ハ時ニ或ハ多額ニ上リ必スシモ元利金ノ仕拂高ニ伴フモノニアラサルヲ以テ亦特別ノ處分ニ出テサルヲ得サルノ場合アリ故ニ明治十九年十月ニ於テ抽籤ヲ執行シタル起業公債ノ當籤廣告料ニ就キテハ取扱銀行ノ申請ニ由リ特ニ其實費ヲ支給シタリ

以上記載セル廣告料ノ外日本銀行ニ於ケル元利金仕拂濟證券及利賦札ノ遞送費並ニ同銀行在倫敦代理店ノ取扱ニ係ル同上遞送費郵便電信料及廣告料アリ此等ノモノハ終始國債費ノ科目ニ屬セサリシモノナリト雖モ亦國債ニ關スルヲ以テ聊カ此ニ之カ沿革ヲ附記セントス

日本銀行ニ於ケル元利金仕拂濟證券及利賦札ノ遞送費ニ付テハ明治十九年七月大藏省令第二十四號ヲ以テ諸記名公債ノ元利賦金拂渡事務ヲ日本銀行ノ取扱ニ移スニ方リ交付シタル命任書ニ於テ實費ヲ以テ之ヲ支給スヘキ旨ヲ規定シタルヲ以テ嚆矢トス而シテ此遞送費ノ支出請求ハ當初一箇月毎ニ取纏メ請求スヘキモノト定メタリト雖モ後明治二十三年三月命任書ヲ改正スルニ及ンテハ單ニ實費支給ノコトヲ示シタルマテニシテ請求期限ニ付テハ何等ノ規定アルヲ見ス是ヨリ先キ日本銀行ハ實際毎月之ヲ取纏ムルコト甚タ困難ナルヲ以テ二十年十一月毎年二回ニ之

ヲ請求センコトヲ京請シ大藏大臣ノ聽許ヲ得タリ然リ而シテ二十四年六月ニ至リ日本銀行ハ更ニ一步ヲ進メ實際遞送ノ枚數ニ應シ一定ノ割合即チ證券ハ十枚利賦札ハ千枚ニ付各六錢ヲ以テ實費額ヲ推算スルノ法ヲ京請シ二十四年度限り大藏省證券ヲ除ク外ニ付キテ之カ聽許ヲ得タリ越ヘテ其翌二十五年八月ニ至リ同年度ニハ支給ノ割合ヲ半減シ證券ハ十枚利賦札ハ一枚ニ付キ金參錢ノ割合ヲ以テ支給シ次テ二十六年七月ニ至リ同年度ニハ前年度ノ定率ヲ改メ證券十枚ニ付キ參錢ヲ貳錢ニ低減シ利賦札千枚ニ付キ金參錢ヲ五錢ニ増額セリ爾來毎年度日本銀行ヨリ京請シ來リタルモノニ對シ大藏省ニ於テ既往ノ實績ヲ查覈シ及將來ノ狀況ヲ豫測シ彼此較量スル處アリタリト雖モ偶一方ニ増加スヘキ事故アルモ一方ニハ減少スヘキ因由アルヲ發見シ結局著シキ變動ヲ認メサルヲ以テ常ニ前年度ノ例ヲ因襲シタリ又軍事公債假證券ノ遞送費ハ特ニ十五枚毎ニ金貳錢ノ割合ヲ以テ支給セリ而シテ又彼ノ日本銀行倫敦代理店ノ取扱ニ係ル仕拂濟證券及利札ノ遞送費其他事務取扱ニ要スル郵便稅電信料並ニ利子仕拂期日及證券紛失又ハ其發見ヲ公示スル爲メ要スル所ノ新聞廣告料ハ實費ヲ以テ支給スルモノトス

第二款 仕拂ノ實況

前ニ敘述シタル手續法ニ依リ明治六年以降每會計年度ニ於テ仕拂ヒタル内國公債ノ元利金元利拂手數料及雜費ノ金額ハ左表ノ如シ

年	度	元	金	利	子	手	數	料	雜	費	合	計
六	期	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

七	期	〇七、二〇〇、〇〇〇	一、二五九、九八八、七四二			一、五六一、一八七、四一
八	年	五三、八七五、〇〇〇	一〇、九一〇、〇九八			一、六二九、七七八、四八一
八	年	六二、八二七、五〇〇	一、一三〇、〇七九、九九九			一、七三九、八四九、四六九
九	年	一、九六二、五〇〇、〇〇〇	一、九二五、四八一、四六九			三、〇八一、七三六、四六九
十	年	二、九二六、七〇〇、〇〇〇	一、三、四二四、二二三、二七			一、六六四、三五〇、二二七
十	一年	三、七〇〇、四二四、〇〇〇	一、四、〇四〇、八三七、七三五			一、六七四、一三六、一七三五
十	二年	三、七八〇、八二〇、五〇〇	一、四、一〇八、二二九、三九〇			一、六八八、九一四、九八九〇
十	三年	三、九八〇、三九〇、〇〇〇	一、四、二二二、五二二、五七六			一、七二二、四〇八、七三〇
十	四年	四、二〇〇、五八〇、〇〇〇	一、四、〇〇六、四五六、五三五			一、八二二、九四〇、八七五、六
十	五年	四、五〇五、九六六、五〇〇	一、二、六〇六、六九九、八八〇			一、八二七、二九七、九六八〇
十	六年	五、〇一七、三八五、〇〇〇	一、三、三六二、九九八、〇三五			一、八三九、〇七〇、一四三
十	七年	五、八六七、〇八九、〇〇〇	一、三、五五五、六八九、四四四			一、七四二、八八〇
十	八年	四、六六三、一七五、五〇〇	一、四、四四四、四九五、三五五			一、七、八四九、四九七、二二
十	九年	九、六九九、九〇七、五〇〇	一、四、五〇九、七七六、〇二八			一、二、九七九、九四三、八八
十	十年	六、七九二、四六六、五〇〇	一、四、〇七五、七二一、七二五			一、二、三七〇、三九九、四八九
十	十一年	五、七九四、一五〇、〇〇〇	一、三、八〇三、四七五、七〇〇			一、九三三、一四四、八五八
十	十二年	二、九二四、二四七、五〇〇	一、三、一六九、四七五、六六四			一、六七六、三二一、八九五、一〇
十	十三年	六、一七九、七九二、五〇〇	一、三、一六九、四七五、六六四			一、九、四二五、八〇四、五七三

二十四年度	A	二〇〇、六四六、〇〇〇	一、一〇五、〇一三、八九六	五〇、六六七、七〇六		二、一三三、五六三、七〇六
二十五年度	A	六、四九九、一六四、〇〇〇	一、二七八、四八七、九一四	六五、五九一、〇六九		一、九三〇、九二四、二九八
二十六年度	A	一、二五六、三七七、〇〇〇	一、一、四四三、一〇二、三五五	四九、九七五、八八三		二、四〇五、六八二、五二八
二十七年度	A	二、三六〇、九二二、〇〇〇	一、一、三三三、八八二、三五七	三七、四八〇、七八六		一、四、五二二、二八五、一四三
二十八年度	A	四、〇七九、七三九、九〇〇	一、四二〇、八九一、六五〇	一三、一六五、二八八		一、八三〇、一八二、二六九
二十九年度	A	七、一四九、六九四、五〇〇	一、六七五、三三八、二四〇	三八、〇三二、一四〇		二、三、九四一、五三七、九九一
三十年度	A	六、九四八、八三〇、六〇〇	一、七九九、〇〇五、四〇三	七九、七五八、一四一		二、五〇一、七六四、二八三
三十一年度	A	七、六〇四、八〇二、八二〇	一、九、四八五、六七五、〇三三	八六、四六五、〇六七		二、七、一七六、九四二、九〇九
三十二年度	A	一、一〇六、五三三、四七三	一、九、一一一、九三六、七四四	六七、八五三、一八〇		三、〇、二四五、〇一四、六三六
合計	A	三、七九九、七九九、九二二	一、三、〇、三、四〇一、八七九	八、五五三、八〇三、五九三		七、八〇七、七六〇

備考
 本表仕拂額ハ決算額ノ内歳入へ編入シタル返納金額ヲ控除シタルモノトス第
 二項以下ノ各表ニ於テモ亦之ニ同シ
 三十二年度ノ仕拂額ニハ現金前後未精算高ヲ包含ス第二項以下ノ各表ニ於テ
 モ亦之ニ同シ

又右國債ノ元利金ハ何レノ地方ニ於テ最多ク仕拂ハレタルヤ且ツ年々其消長ノ模様ハ如何ノ現
 象ヲ呈シツ、アルヤ是等ノ觀察ハ國債證券集積ノ狀況ヲ窺ヒ延テ各地方經濟事情ノ一斑ヲ知ル

ニ於テ多少ノ價值ナキニアラサルヘシ然ルニ舊時各地方廳ニ於テ仕拂ヒタルモノハ今容易ニ精確ナル計算ヲ調査シ得サルヲ以テ暫ク日本銀行取扱ニ屬シタル日ノ翌年度即チ明治二十年度以降ノ計數ヲ取り之ニ第一國立及三井兩銀行取扱ノ金額ヲ合セ以テ地方別仕拂高一覽表ヲ作り左ニ之ヲ掲出セン

計	元利合計
四九、九〇四	一四、二七一、二四八、九〇四
八七、四〇九	二、三〇一、六〇三、三三三
四〇、九三三	一、七〇六、一〇四、九三三
四〇、二二二	六、三三〇、六六三
二六、二二二	四、六八八、〇二八
一六、九三〇	三、〇三〇、八五三
一〇、〇〇七	三、五八五、六〇九
六、〇〇五	一、五七五、七三三
六、〇〇五	一、五七五、七三三
三、〇〇二	一、三三二、二八一
三、〇〇二	一、一八四、〇二七
三、〇〇二	九、九七三、三六七
三、〇〇二	一、一九七、七五二
三、〇〇二	三、三三三、七七一
三、〇〇二	八、七七二、六五八
三、〇〇二	一、四〇一、九六三
三、〇〇二	六、五三三、七六六
三、〇〇二	三、三三三、七七一
三、〇〇二	三、〇五八、四四七
三、〇〇二	二、三〇五、七二七
三、〇〇二	七、八七二、四四〇
三、〇〇二	一、〇五二、七六四
三、〇〇二	五、〇九二、二四八
三、〇〇二	七、一一四、三三三
三、〇〇二	一、五二八、五二〇
三、〇〇二	一、〇一〇、三三〇
三、〇〇二	二、七二二、二八九
三、〇〇二	二、四三三、九〇〇
三、〇〇二	一、八〇一、二二六

地方名	二十年度	二十一年度	二十二年度	二十三年度	二十四年度	二十五年年度	二十六年年度	二十七年年度	二十八年年度	二十九年年度
東京府	6,843,331	6,831,464	6,959,670	6,990,937	6,873,021	7,009,748	6,856,576	6,936,582	7,093,884	7,144,642
京都府	1,551,355	1,483,875	1,559,164	1,585,833	1,525,649	1,633,174	1,539,599	1,616,582	1,753,368	1,783,368
大阪府	3,137,633	3,137,633	3,268,027	3,293,016	3,200,908	3,369,363	3,254,911	3,351,582	3,549,368	3,583,368
神奈川縣	1,237,700	1,237,700	1,283,931	1,293,016	1,268,027	1,323,174	1,283,931	1,338,027	1,423,368	1,453,368
兵庫縣	1,213,700	1,213,700	1,259,931	1,269,016	1,244,027	1,300,174	1,259,931	1,315,027	1,400,368	1,430,368
長崎縣	1,113,700	1,113,700	1,159,931	1,169,016	1,144,027	1,200,174	1,159,931	1,215,027	1,300,368	1,330,368
新潟縣	1,013,700	1,013,700	1,059,931	1,069,016	1,044,027	1,100,174	1,059,931	1,115,027	1,200,368	1,230,368
群馬縣	913,700	913,700	959,931	969,016	944,027	1,000,174	959,931	1,015,027	1,100,368	1,130,368
千葉縣	813,700	813,700	859,931	869,016	844,027	900,174	859,931	915,027	1,000,368	1,030,368
茨城縣	713,700	713,700	759,931	769,016	744,027	800,174	759,931	815,027	900,368	930,368
栃木縣	613,700	613,700	659,931	669,016	644,027	700,174	659,931	715,027	800,368	830,368
群馬縣	513,700	513,700	559,931	569,016	544,027	600,174	559,931	615,027	700,368	730,368
山梨縣	413,700	413,700	459,931	469,016	444,027	500,174	459,931	515,027	600,368	630,368
長野縣	313,700	313,700	359,931	369,016	344,027	400,174	359,931	415,027	500,368	530,368
青森縣	213,700	213,700	259,931	269,016	244,027	300,174	259,931	315,027	400,368	430,368
岩手縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
宮城縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
長門縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
香川縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
愛媛縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
高知縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
福岡縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
佐賀縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
熊本縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
鹿兒島縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
那霸縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
台北縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
澎湖縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
臺灣縣	113,700	113,700	159,931	169,016	144,027	200,174	159,931	215,027	300,368	330,368
合計	1,549,931	1,549,931	1,595,931	1,605,016	1,580,027	1,636,174	1,595,931	1,651,027	1,736,368	1,766,368

備考

本表三十年度以前及三十二年度ハ統計年ニ業公債ノ元利金ハ三十年代ナリ起ヨリ三十一年度分ハ各取扱額大藏省證券ノ元利金仕拂ハ日本銀行ノ取扱ニ係ルモノナリト雖モ本表ニハ之ヲ除ク

滋賀縣ハ明治二十八年年度中日本銀行大津代理店ヲ廢シテ京都出張所ノ取扱トナシ又三重縣ハ二十九年年度ヨリ前住該兩縣ニ於テハ第一國立及三井兩銀行ノ取扱ニ係ル起業公債ノ元利金ヲ除ク外仕拂高ナシ

第一項 新公債

新公債ノ毎年度元利金元利拂手數料及雜費支出ノ概況ハ左ノ二表ノ如シ

第一表 (元金)

年 度	償 還 額	仕 拂 額	期 滿 失 效	買 入 價 格 差 減	仕 拂 未 済 額
八 年 度	二九八,三〇〇,〇〇〇	三九八,一〇〇,〇〇〇	〇	〇	二〇〇,〇〇〇
九 年 度	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	〇	〇
十 一 年 度	二〇一,五七五,〇〇〇	二〇一,五七五,〇〇〇	〇	〇	〇
十 二 年 度	一六四,〇〇〇,〇〇〇	一六四,〇〇〇,〇〇〇	〇	〇	〇
十 三 年 度	一〇〇,四七五,〇〇〇	一〇〇,四七五,〇〇〇	〇	〇	〇
十 四 年 度	一〇〇,四七五,〇〇〇	一〇〇,四七五,〇〇〇	〇	〇	〇
十 五 年 度	一〇〇,四七五,〇〇〇	一〇〇,四七五,〇〇〇	〇	〇	〇
十 六 年 度	一〇〇,四七五,〇〇〇	一〇〇,四七五,〇〇〇	〇	〇	〇
十 七 年 度	九九,六〇〇,〇〇〇	九九,六〇〇,〇〇〇	〇	〇	〇
十 八 年 度	六二,五七五,〇〇〇	六二,五七五,〇〇〇	〇	〇	三三,五〇〇
十 九 年 度	一〇,〇〇〇,〇〇〇	九,九三三,〇〇〇	〇	〇	四,五〇〇,〇〇〇

年 度	利子仕拂額	手数料仕拂額	雜費仕拂額	合 計
二十一年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
二十二年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
二十三年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
二十四年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
二十五年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
二十六年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
二十七年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
二十八年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
二十九年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
三十年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
三十一年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
三十二年度	10,000,000	10,000,000	0	20,000,000
合 計	1,200,000,000	1,200,000,000	0	2,400,000,000

備考
 二十二年度ノ償還額ハ抽籤ノ執行明治二十二年三月ニ在リト雖トモ該計ノ都合ニ由リ二十二年年度豫算内ヨリ支出シタルモノナリ

第二表 (利子、手数料及雜費)

年 度	利子仕拂額	手数料仕拂額	雜費仕拂額	合 計
六 年 期	810,115,208	0	0	810,115,208
七 年 期	621,364,607	0	0	621,364,607
八 年 度	750,121,469	0	0	750,121,469
九 年 度	479,219,165	0	0	479,219,165
十 年 度	484,276,667	0	0	484,276,667
十一年度	466,591,668	0	0	466,591,668
十二年度	451,636,832	0	0	451,636,832
十三年度	445,759,646	0	0	445,759,646
十四年度	440,050,854	0	0	440,050,854
十五年度	435,788,029	0	7,110	435,795,139
十六年度	434,050,255	0	7,404	434,057,659
十七年度	428,359,195	0	4,275	428,363,470
十八年度	213,657,113	0	5,985	213,663,098
十九年度	423,175,038	644,070	0	423,819,108
二十年度	422,914,584	1,278,819	0	424,193,403

二十一年度	四二三、二二八、三三三	一、二七九、六四〇	〇	四二四、四九二、四七三
二十二年度	四二〇、二九四、五〇〇	六四三、一九四	〇	四二〇、九三七、六九四
二十三年度	四二三、五六四、六六三	一九〇六、一三三	〇	四二五、四七〇、七九六
二十四年度	四二五、四九八、九七二	一、二二二、二一〇	〇	四二六、七一、二八二
二十五年度	四二一、四一三、五六〇	一、三四九、七一八	〇	四二二、七六三、二七八
二十六年度	三六七、六七五、四七五	三〇九三、三五七	〇	三七〇、七六八、八三二
二十七年年度	三三二、四九〇、二九七	一、六七一、一二二	〇	三二四、一六一、四一九
二十八年年度	三四一、九六七、七五〇	一、四九三、五五〇	〇	三四三、六四一、三〇〇
二十九年度	一二五、三六一、二二六	七、七九三、四八五	〇	一三三、一五四、七二一
三十年度	四五三、三三三	四〇八七	〇	四九、四二〇
三十一年度	一〇五、〇〇〇	〇一四	〇	一〇、五一四
三十二年度	三、三三三	〇一九	〇	三、三三二
合計	一〇、五七八、六一八、五五二	二二、三六九、四一八	二四、七七四	一〇、六〇一、〇二七、四四四

備考
 八期即チ明治八年一月ヨリ六月マテハ仕拂ナシ
 利子支拂額順次遞減ニ至ラス年々多少ノ増減アルハ七年度以前ハ公債處分中ニシテ九年度以降ニ於テ追加處分ニ係ルモノニ對シ過年度ニ屬スル利子ノ仕拂アルト當該年度ニ於テ未請求ノ爲メ翌年度以後ニ仕拂ヲ爲セシモノアルトニ由ル

此公債ハ明治八年度ヨリ元金ノ償還ヲ始メタルヲ以テ前表中利子仕拂額ハ同年度以降順次遞減ス可キモノナルニ拘ラス年々多少ノ増減アルハ畢竟公債ノ處分數年ニ涉リシト當該年度内ニ於テ債權者ノ請求ナキカ爲メ翌年度以後ニ於テ仕拂ヲ爲セシモノ少カラサルトニ由ルナリ

第二項 舊公債

舊公債元金ノ償還ハ明治五年ヨリ五十四年マテノ五十箇年賦ヲ以テ仕拂フノ方法ニ依リタルカ故ニ其仕拂額ハ毎年度一定シテ敢テ異動アルコトナカルヘキナリ然リト雖モ既ニ敘述シタルカ如ク此公債ノ處分ハ十數年ノ久シキニ亘リ隨テ其間年々賦金額ニ増減異動ヲ來シ加フルニ債權者ノ請求ナキカ爲メ相當年度内ニ仕拂ヲ了ラサル金額モ亦少カラサリシニ由リ毎年度ノ仕拂額ハ固ヨリ多寡不動ニシテ一定セス今其仕拂額及之ニ對スル手數料ノ仕拂額等ヲ表出スレハ左ノ如シ但毎年度ノ仕拂未済額ハ各其當時ニ於ケル調定ノ賦金額ニ對シテ算出スルコト適實ナルニ似タレトモ今遠ク公債處分中ノ時代ニ遡リテ毎年度ノ賦金額ヲ調査勘算セントスルハ事頗ル繁雜ニ涉ルヲ以テ姑ク處分完結後ノ確定債額ニ依リテ算出シタル賦金額貳拾壹萬九千四百五拾四圓五拾錢ヲ基トシ此内ヨリ仕拂額及時効ニ罹リタル金額ヲ控除シテ之ヲ算定セリ
 (△印ハ未償)

年 度	仕 拂 額	期 滿 失 効	仕 拂 未 済 額	手 數 料 仕 拂 額	仕 拂 額 合 計
六 期	二八、三三〇、〇〇〇	〇	一五、五七九、〇〇〇	〇	二八、三三〇、〇〇〇
七 期	二七、一〇〇、〇〇〇	〇	六、七九〇、五〇〇	〇	二七、一〇〇、〇〇〇

八年度	五三八七五〇〇	〇	〇	一〇〇二六〇〇〇	〇	五三、八七五〇〇
八年度	三三八七五〇〇	〇	〇	四七五三〇〇〇	〇	三三、八七五〇〇
九年度	三三六五〇〇〇	〇	〇	六〇二五〇〇〇	〇	三三、六五〇〇〇
十一年度	二九三六七〇〇〇	〇	〇	六九〇〇〇〇〇	〇	二九、三六七〇〇
十一年度	二九五四九〇〇〇	〇	〇	五九五五〇〇〇	〇	二九、五四九〇〇
十二年	二九四七〇〇〇〇	〇	〇	五七九〇〇〇〇	〇	二九、四七〇〇〇
十三年	二九三六四〇〇〇	〇	〇	六七〇〇〇〇〇	〇	二九、三六四〇〇
十四年	二九一八〇〇〇〇	〇	〇	九四四〇〇〇〇	〇	二九、一八〇〇〇
十五年	二九〇三二五〇〇〇	〇	〇	一、三六七五〇〇〇	〇	二九、〇三二五〇〇〇
十六年	三三〇七一五〇〇〇	〇	〇	一〇七〇〇〇〇〇	〇	三三、〇七一五〇〇〇
十七年	三二九一八四〇〇〇〇	〇	〇	三六一、〇〇〇〇〇	〇	三二、九一八四〇〇〇
十八年	三二九三九五五〇〇〇	〇	〇	五〇五、〇〇〇〇〇	〇	三二、九三九五五〇〇
十九年	三二七四五二五〇〇〇	〇	〇	二、五〇七、〇〇〇〇〇	〇	三二、七四五二五〇〇
二十年	三二〇、三三、五〇〇〇〇	〇	〇	一、三三、〇〇〇〇〇	〇	三二、〇、三三、五〇〇
二十一年	三二九、六六、五〇〇〇〇	〇	〇	一、二四、〇〇〇〇〇	〇	三二、九、六六、五〇〇
二十二年	三二九、三三、七、五〇〇〇	〇	〇	一、五九、一〇〇〇〇	〇	三二、九、三三、七、五〇〇
二十三年	三二九、五五、七、五〇〇〇	〇	〇	一、四三、一〇〇〇〇	〇	三二、九、五五、七、五〇〇
二十四年	三二九、〇四、〇〇〇〇〇	〇	〇	一、三三、〇〇〇〇〇	〇	三二、九、〇四、〇〇〇

二十五年度	二九、八九四、〇〇〇	二九、五〇〇、〇〇〇	七、九八〇、〇〇〇	七〇、八六二、四〇〇	三三、〇、三、〇〇〇
二十六年度	二九、三三、〇〇〇	四六、五〇〇	八、七四〇、〇〇〇	六五、一〇七、五〇〇	三二、九、九八、〇〇〇
二十七年	二九、三三、〇〇〇	四九、〇〇〇	一、〇七三、五〇〇	六六、四、五五〇	三二、九、八七、五〇〇
二十八年	二九、四九、一、五〇〇	五三、〇〇〇	九、八二五、〇〇〇	六六、一、四〇〇	三三、〇、一五、九〇〇
二十九年度	二九、二五、五〇〇	五七、〇〇〇	一、七四四、〇〇〇	九六、六二二、九〇〇	三三、〇、一七、七〇〇
三十年	二八、八七、〇〇〇	五四、五〇〇	一、六九八、五〇〇	六五、三、五三三	三二、九、三、七、五〇〇
三十一年	二九、六二、八五〇	八、一五〇	一、四四三、〇〇〇	六六、九七三	三三、〇、一九、三三三
三十二年	三三、一三、五〇〇	六七、五〇〇	三、八五〇、〇〇〇	六四、七二九	三三、一、八六二、二九〇
合計	六、四四、八、三、〇〇〇	八、二九、〇〇〇	九、五一八、七五六	六、一五、三、八〇〇、七五六	

備考

六期ノ仕拂額及其仕拂未済額ハ明治五年及六年ノ兩年分賦金ニ對スル者ナリ
 八年度以前ニ於テ仕拂未済額ノ多キハ處分未了ノ爲メ證券ヲ交付セサルモノ
 多カリシニ由ル

三十二年度元金仕拂未済額ノ欄内朱字ノ金額ハ仕拂超過額ヲ示スモノニシテ
 此超過アル所以ハ同年度現金前渡仕拂命令濟額(即チ本表ニ掲ケタル)ノ内過
 年度所屬ノ賦金ニ當リ三十一年度ノ仕拂基金ヨリ仕拂ヲ爲シタルモノ(本表ニ
 六三十一年度仕拂額貳拾壹萬九千)及時効ニ罹リタルモノアルニ由ル故ニ此額
 六百貳拾八圓五拾錢ノ内ニ含有ス)及時効ニ罹リタルモノアルニ由ル故ニ此額
 過額ハ他日將第ノ上取扱銀行ヨリ返納スヘキモノナリ

第三項 金札引換公債

金札引換公債ノ元利金ハ明治二十六年年度ヲ以テ悉皆其仕拂ヲ完了シタルモノニシテ又元金ノ時
 效ニ罹リタルモノナシ故ニ毎年度ニ於ケル元利金元利拂手数料及雜費支出ノ概況ヲ掲クレハ左
 ノ二表ノ如シ

第一表 (元金)

年 度	償 還 額	仕 拂			計 額	仕 拂 未 済 額
		豫 算 償 還	整 理 償 還	額		
九 年 度	一三二,六〇〇	一三二,六〇〇	〇	一三二,六〇〇	〇	
十 一 年 度	一八二,二五〇	一八二,二五〇	〇	一八二,二五〇	〇	
十 二 年 度	五〇,四〇〇	五〇,四〇〇	〇	五〇,四〇〇	〇	
十 三 年 度	五〇,八〇〇	五〇,八〇〇	〇	五〇,八〇〇	〇	
十 四 年 度	五〇,二〇〇	五〇,二〇〇	〇	五〇,二〇〇	〇	
十 五 年 度	五〇,一五〇	五〇,一五〇	〇	五〇,一五〇	〇	
十 六 年 度	一〇〇,四〇〇	一〇〇,四〇〇	〇	一〇〇,四〇〇	〇	
十 七 年 度	一六七,五〇〇	一六七,五〇〇	〇	一六七,五〇〇	〇	
十 八 年 度	一一八,九〇〇	一一八,七五〇	〇	一一八,七五〇	一五〇	

十 九 年 度	三九,九五〇	三五,九五〇	〇	三五,九五〇	四,一五〇
二 十 年 度	一八,四五〇	二二,六〇〇	〇	二二,六〇〇	〇
二 十 一 年 度	一,二〇〇	一,二〇〇	〇	一,二〇〇	〇
二 十 二 年 度	二,〇〇〇	二,〇〇〇	〇	二,〇〇〇	〇
二 十 三 年 度	六,六〇〇	六,六〇〇	〇	六,六〇〇	〇
二 十 四 年 度	八,一〇〇	八,一〇〇	〇	八,一〇〇	〇
二 十 五 年 度	一〇六,七〇〇	六〇〇	一〇五,八〇〇	一〇六,四〇〇	三,〇〇〇
二 十 六 年 度	〇	〇	三〇〇	三〇〇	〇
合 計	一,〇八六,二〇〇	九八〇,一〇〇	一〇六,一〇〇	一,〇八六,二〇〇	

備考

本表償還額トハ現金ヲ以テ仕拂フ爲スヘキ元金額ヲ云フ故ニ證券交換ニ係ル
 元金額ヲ包含セス以下六分及七分ノ公債皆之ニ同シ
 十年度ハ償還額ナク又仕拂額ナシ
 二十二年年度ノ償還額ハ抽籤ノ執行明治二十二年三月ニ在リト雖モ歳計ノ都合
 ニ由リ二十二年年度ノ豫算内ヨリ支出シタルモノナリ

第二表 (利子、手数料及雜費)

年 度	利子仕拂額	手数料仕拂額	雜費仕拂額	合 計
六 期	四〇〇、五六〇〇	〇	〇	四〇〇、五六〇〇
七 期	一三三、六二四・一三四	〇	〇	一三三、六二四・一三四
八 年 度	六七、〇三一・五〇〇	〇	〇	六七、〇三一・五〇〇
八 年 度	六七、一五六・五〇〇	〇	〇	六七、一五六・五〇〇
九 年 度	一三一、六六一・〇〇〇	〇	〇	一三一、六六一・〇〇〇
十 年 度	一二六、三五七・〇〇〇	〇	〇	一二六、三五七・〇〇〇
十 一 年 度	一二三、六二三・二五〇	〇	〇	一二三、六二三・二五〇
十 二 年 度	一一六、四三〇・〇〇〇	〇	〇	一一六、四三〇・〇〇〇
十 三 年 度	三九六、四五九・〇〇〇	〇	〇	三九六、四五九・〇〇〇
十 四 年 度	三二五、〇〇七・〇〇〇	〇	〇	三二五、〇〇七・〇〇〇
十 五 年 度	三四二、六三四・七五〇	〇	九、四八〇	三四二、六四四・二三〇
十 六 年 度	三六一、四八〇・五〇〇	〇	一七、五三六	三六一、四九八・〇三六
十 七 年 度	三五八、九九二・五〇〇	〇	二五、二〇五	三五九、〇一七・七〇五
十 八 年 度	一七七、一七二・二五〇	〇	一四、二二五	一七七、一八六・四六五
十 九 年 度	三四五、三六六・〇〇〇	五、五三一・一〇四	〇	三四五、九一九・一〇四
二 十 年 度	二九一、五六三・八七五	八九七・二九二	〇	二九二、四六一・一六七
二 十 一 年 度	二四九、五一五・五〇〇	七四九・七四七	〇	二五〇、二六五・二四七

二 十 二 年 度	二三九、九七六・〇〇〇	七二一、九二九	〇	二四〇、六九七・九二九
二 十 三 年 度	二三九、二〇三・五〇〇	七三三、二二四	〇	二三九、九二六・七二四
二 十 四 年 度	二三八、四四四・〇〇〇	七二〇、〇四九	〇	二三九、一六四・〇四九
二 十 五 年 度	一三九、〇七二・〇〇〇	五二七、九四二	〇	一三九、五九九・九四二
二 十 六 年 度	四四、五〇〇	四八四	〇	四四、九八四
合 計	四、五一〇、八七〇・七五九	四、八九三、七七一	六六、四三六	四、五一五、八三〇・九六六

第四項 秩祿公債

秩祿公債ノ元金ハ明治三十年度ニ於テ、又利子ハ翌三十一年度ニ於テ各悉皆仕拂ヲ完了シタリ而シテ毎年度元利金、元利拂手数料及雜費支出ノ概況ハ左ノ二表ノ如シ

第一表 (元金)

年 度	償 還 額	仕 拂 額	期 滿 失 効	仕 拂 未 済 額
九 年 度	三九九、八五〇	三九九、八五〇	〇	〇
十 一 年 度	一九九七、〇五〇	一九九七、〇五〇	〇	〇
十 二 年 度	二、三四六、九五〇	二、三四六、九五〇	〇	〇
十 三 年 度	二、三一〇、六七五	二、三一〇、六七五	〇	〇

年度	合計	利息仕拂額	手数料仕拂額	雑費仕拂額	合計
十四年度	三,四六一,七七五	三,四二〇,〇〇〇	〇	〇	四,一七七五
十五年度	二,七八四,五〇〇	二,八二〇,〇〇〇	〇	〇	六,二七五
十六年度	三,二六五,〇五〇	三,二六四,七〇〇	〇	〇	六,六二五
十七年度	〇	二,四五〇	〇	〇	四,一七五
十八年度	〇	三七五	〇	〇	三,八〇〇
十九年度	〇	三,六〇〇	〇	〇	二,〇〇〇
二十年度	〇	一二五	五〇	〇	二,二五〇
三十年度	〇	二五	〇	〇	〇
合計	一六,五六五,八五〇	一六,五六五,八〇〇	五〇	〇	二,〇〇〇

備考
十四年度償還額中貳百四拾六萬千貳百圓ハ明治七年發行ノ證券ニ對シ明治十五年十一月滿期償還ノ爲シタルモノナリシカ國庫金融上ノ都合ニ由リ之ヲ十四年度豫算内ヨリ特別ニ支出シタルモノナリ

第二表 (利子、手数料及雜費)

年度	利息仕拂額	手数料仕拂額	雑費仕拂額	合計
七年度	五〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	〇	五〇〇,〇〇〇,〇〇〇

年度	利息仕拂額	手数料仕拂額	雑費仕拂額	合計
八年度	四二〇,〇六九,四八一	〇	〇	四二〇,〇六九,四八一
九年度	一,二九五,七四〇,〇〇〇	〇	〇	一,二九五,七四〇,〇〇〇
十年度	一,三二四,六〇一,三〇四	〇	〇	一,三二四,六〇一,三〇四
十一年度	一,二九三,三〇八,〇〇〇	〇	〇	一,二九三,三〇八,〇〇〇
十二年	一,三〇五,〇七三,七四六	〇	〇	一,三〇五,〇七三,七四六
十三年	一,一九六,一三五,四〇八	〇	〇	一,一九六,一三五,四〇八
十四年	一,〇〇七,三八〇,一二〇	〇	〇	一,〇〇七,三八〇,一二〇
十五年	九六四,四三八,九二六	〇	〇	九六四,四三八,九二六
十六年	五六八,四三七,八九四	〇	〇	五六八,四三七,八九四
十七年	二六二,七五一,七二一	〇	〇	二六二,七五一,七二一
十八年	三二四,三三二	〇	〇	三二四,三三二
十九年	二八,六六七	〇	〇	二八,六六七
二十年	〇,六六七	〇	〇	〇,六六七
二十一年	八,六六七	〇	〇	八,六六七
二十二年	二,〇〇〇	〇,三三一	〇	二,〇三二
二十三年	二,〇〇〇	〇	〇	二,〇〇〇
合計	九,七四九,二九二,九三三	一,八三二	一一八,三一〇	九,七四九,四一一,四二五

第五項 金祿公債

金祿公債ノ内六分以上利付ノモノハ既ニ償還済ニシテ即チ六分利付公債ノ元金ハ明治三十一年度同利子ハ三十二年(三十一年度末ニ於テ八圓七拾錢ノ仕拂未済額アリシカケテ)七分利付公債ノ元金ハ二十九年(二十九年同利子ハ三十一年度一割利付公債ノ元金ハ二十五年同利子ハ二十三年度ニ於テ各悉皆之カ仕拂ヲ完了シタリ而シテ毎年度元利金元利拂手數料及雜費支出ノ概況ハ左ノ三表ノ如シ

第一表 (元金)

年 度	種 類	償還額	仕 拂		計 額	期 満		計 效	買入價格	仕拂未済額
			豫算價還	整理價還		豫算價還	整理價還			
十五年 度	五分利付	1,074,000.00	1,074,000.00	0	1,074,000.00	0	0	0	0	0
	六分利付	1,874,000.00	1,874,000.00	0	1,874,000.00	0	0	0	0	0
	七分利付	3,110,000.00	3,110,000.00	0	3,110,000.00	0	0	0	0	0
	一割利付	4,700,000.00	4,700,000.00	0	4,700,000.00	0	0	0	0	0
	計	10,007,000.00	10,007,000.00	0	10,007,000.00	0	0	0	0	1,000,000.00
	五分利付	1,074,000.00	1,074,000.00	0	1,074,000.00	0	0	0	0	0
六分利付	1,874,000.00	1,874,000.00	0	1,874,000.00	0	0	0	0	0	

年 度	種 類	償還額	仕 拂		計 額	期 満		計 效	買入價格	仕拂未済額
			豫算價還	整理價還		豫算價還	整理價還			
十六年 度	七分利付	2,110,000.00	2,110,000.00	0	2,110,000.00	0	0	0	0	0
	一割利付	4,000,000.00	4,000,000.00	0	4,000,000.00	0	0	0	0	1,000,000.00
	計	6,110,000.00	6,110,000.00	0	6,110,000.00	0	0	0	0	1,000,000.00
	五分利付	1,100,000.00	1,100,000.00	0	1,100,000.00	0	0	0	0	0
	六分利付	1,070,000.00	1,070,000.00	0	1,070,000.00	0	0	0	0	0
	七分利付	1,940,000.00	1,940,000.00	0	1,940,000.00	0	0	0	0	0
十七年 度	一割利付	7,800,000.00	7,800,000.00	0	7,800,000.00	0	0	0	0	0
	計	7,800,000.00	7,800,000.00	0	7,800,000.00	0	0	0	0	0
	五分利付	1,100,000.00	1,100,000.00	0	1,100,000.00	0	0	0	0	0
	六分利付	1,070,000.00	1,070,000.00	0	1,070,000.00	0	0	0	0	0
	七分利付	1,940,000.00	1,940,000.00	0	1,940,000.00	0	0	0	0	0
	一割利付	5,700,000.00	5,700,000.00	0	5,700,000.00	0	0	0	0	0
十八年 度	一割利付	7,800,000.00	7,800,000.00	0	7,800,000.00	0	0	0	0	0
	計	7,800,000.00	7,800,000.00	0	7,800,000.00	0	0	0	0	0
	五分利付	1,100,000.00	1,100,000.00	0	1,100,000.00	0	0	0	0	0
	六分利付	1,070,000.00	1,070,000.00	0	1,070,000.00	0	0	0	0	0
	七分利付	1,940,000.00	1,940,000.00	0	1,940,000.00	0	0	0	0	0
	一割利付	3,700,000.00	3,700,000.00	0	3,700,000.00	0	0	0	0	0
十九年 度	一割利付	7,800,000.00	7,800,000.00	0	7,800,000.00	0	0	0	0	0
	計	7,800,000.00	7,800,000.00	0	7,800,000.00	0	0	0	0	0
	五分利付	1,100,000.00	1,100,000.00	0	1,100,000.00	0	0	0	0	0
	六分利付	1,070,000.00	1,070,000.00	0	1,070,000.00	0	0	0	0	0
	七分利付	1,940,000.00	1,940,000.00	0	1,940,000.00	0	0	0	0	0
	一割利付	3,700,000.00	3,700,000.00	0	3,700,000.00	0	0	0	0	0

合 計	二十八年度			二十九年 度			三十年 度			三十一年 度			三十二年 度		
	五分利付	七分利付	計	五分利付	七分利付	計	五分利付	六分利付	計	五分利付	六分利付	計	五分利付	六分利付	七分利付
計	1,470,000.000	0.000	1,470,000.000	2,460,000.000	1,400,000.000	3,860,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000
五分利付	1,470,000.000	0.000	1,470,000.000	2,460,000.000	1,400,000.000	3,860,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000
七分利付	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
計	1,470,000.000	0.000	1,470,000.000	2,460,000.000	1,400,000.000	3,860,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000
五分利付	1,470,000.000	0.000	1,470,000.000	2,460,000.000	1,400,000.000	3,860,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000
六分利付	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
計	1,470,000.000	0.000	1,470,000.000	2,460,000.000	1,400,000.000	3,860,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000
五分利付	1,470,000.000	0.000	1,470,000.000	2,460,000.000	1,400,000.000	3,860,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000	1,400,000.000	0.000	1,400,000.000
六分利付	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
七分利付	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

備考

本表償還額トハ現金ヲ以テ仕拂フ爲ス可キ元金額ヲ云フ故ニ證券交換ニ係ル元金額ヲ包含セス二十二年 度償還額ノ内五分利付公債壹萬圓六分利付公債貳千貳百五拾圓ハ抽籤ノ執行明治二十二年三月ニ在リト雖モ議計ノ都合ニ由リ二十二年 度豫算内ヨリ支出シタルモノナリ

二十四年度ハ一割利付二十八年度ハ六分利付公債ノ仕拂ナシ

第二表 (利子)

年 度	五分利付	六分利付	七分利付	一割利付	合 計
十 年 度	5,570,000.000	0.000	7,561,121.250	8,877,637.000	21,008,758.250
十 一 年 度	5,767,757.500	0.000	7,567,757.500	8,877,637.000	21,573,252.000
十 二 年 度	5,770,627.500	1,500,000.000	7,577,949.750	9,116,833.000	21,566,399.250
十 三 年 度	5,770,627.500	1,500,000.000	7,577,949.750	9,116,833.000	21,566,399.250
十 四 年 度	5,770,627.500	1,500,000.000	7,577,949.750	9,116,833.000	21,566,399.250
十 五 年 度	5,770,627.500	1,500,000.000	7,577,949.750	9,116,833.000	21,566,399.250

十六年度	一、五八〇、八四一、五五二	一、四九三、六三一、五七五	七、五三九、九四八、七七五	九一三、五五六、〇〇二	一、一五〇、七九七、八四〇、四
十七年度	一、五五三、〇四一、三九九	一、四八一、五三三、六五〇	七、四九〇、七二六、四二八	八八七、五二二、三九三	一、一四一、一八〇、二八、一〇
十八年度	七、七五三、三二、八八二	七、四三二、四〇二、九五〇	三、七四三、五七〇、九九九	四、七八〇、三二、六六〇	五、七三八、五三六、七九一
十九年度	一、五四〇、六九五、五八四	一、四七二、二四〇、二五〇	七、九〇〇、〇〇〇、一一一	三、〇三三、九五三、七五七	一、一三二、四六、〇八九七、〇二
二十年度	一、五三九、七〇三、九一六	一、四七六、〇四七、〇二五	六、六五三、三二二、九三七	二、二四六、三二一	九、六七一、三三〇、二〇九
二十一年度	一、五三九、四七八、九一六	一、四六六、六六一、八五〇	四、九五〇、五二〇、八四〇	三、四七三、三三三	七、九五二、〇三九、九四〇
二十二年度	一、五三九、八八一、二五〇	一、四五二、九二二、四七五	二、九九四、六七六、六一六	三、九二九、四四一、七	六、〇二五、六六六、七五八
二十三年度	一、五三八、四四三、七二二	一、四四八、四六六、四五〇	一、六六八、四〇四、五五七	一、七四四、一六七	四、六五五、四八八、八八六
二十四年度	一、五三七、九三〇、二六六	一、四四六、二二六、五五〇	一、三三八、三〇七、七八九	一、七四四、一六七	四、二二二、四六三、五〇五
二十五年年度	一、五三七、五八四、三三四	一、四〇九、一六三、三三五	二、三九七、八八六	〇	三、五九四、〇九八、五四五
二十六年年度	一、五三六、九一七、六六六	一、四〇九、八四六、六七五	一、三三二、二八三	〇	一、九七六、八九八、六二四
二十七年年度	一、五三三、四九八、九〇五	一、三三二、四五六	三、四九五、九二	〇	一、五三三、五六五、九四七
二十八年年度	一、五二七、〇五八、九一八	一、六三、五五〇	三、七五〇	〇	一、五二七、〇九八、〇一八
二十九年年度	一、五〇六、八一、〇〇〇	一、七五、〇〇〇	三、五〇〇	〇	一、五〇六、二一八、七五〇
三十年年度	一、四八三、二二四、三七五	〇	〇	〇	一、四八三、二二四、三七五
三十一年度	一、四六三、四三九、二二五	〇	二、六二五、〇〇	〇	一、四六三、四三九、二二五
三十二年年度	一、二七二、四四七、三五〇	〇	〇	〇	一、二七二、四四七、三五〇
合計	二、四四〇、四九〇、二六九	二、三九一、六三三、五六〇	八、九六二、八七二、八八九	八、〇九二、八一六、七七四	一、五八〇、四一八、四九四

備考

本表中後年度ノ仕拂額前年度ニ比シ多少ノ増加ヲ見ルモノアルハ追加處分増ノ証券ニ對スル利子及過年度ニ屬スル利子ノ仕拂アリシ等ニ由ル

第三表 (手数料及雜費)

年度	五分利付	六分利付	七分利付	一割利付	合計
十九年度	三、三三三、三五五	二、三三三、三三三	一、四六八、七四一、七	五、〇〇二、四	一、九三三、七九九
二十年年度	四、六三九、一一二	四、四三三、六三三	二、六三三、五三六	一、三一九九	三、五〇四、〇八一
二十一年年度	四、六二八、四三七	四、三六六、七二五	二、〇五〇、八〇八、〇	二、八一七	二、九五二、〇五九
二十二年年度	二、四一九、三三七	一、〇三三、五四九	九、七六七、四二六	〇、四三三	一、五二一、八三五
二十三年年度	六、八一三、一五四	五、六八〇、六一五	一、二七九、六六三、六	一、〇三六	二、五二二、〇四三
二十四年度	四、六一四、五二二	四、二七六、二五七	一、〇一八、五八二、六	〇	一、九〇七、六六〇、六
二十五年年度	四、六三三、〇三三	四、六九九、四四三	四、一一三	〇	九、三七二、五九九
二十六年年度	四、六三〇、三五四	一、二〇六、二七四	二、六一八	〇	一、六六五、九三、二四六
二十七年年度	四、九二九、七九八	八、〇三六	五、二〇	〇	四、九三三、三九四
二十八年年度	四、五二四、三三六	五、九三	六、一五	〇	四、五三三、五四二
二十九年年度	五、一六〇、二八二	一、〇四	四、〇五	〇	五、一六〇、七九二

合 計	雜 費			
	小 計	十五年度	十六年度	十七年度
三十年度	四、八四七、七二五	〇	〇	〇
三十一年度	七、七九八、八〇三	〇	〇	〇
三十二年度	四、四三三、二六一	〇	七、八七	〇
小 計	六、六三三、七四九	四、七〇〇、七三三	九、四三三、〇〇六	三、三三〇、〇〇〇
十五年度		一、六一三、〇〇〇		
十六年度		一、七七八、二〇〇		
十七年度		二、四八〇、〇〇〇		
十八年度		一、〇三三、〇〇〇		
小 計		五、七一一、〇〇〇		
合 計		一〇、四〇四、七四九		

第六項 舊神官配當祿公債

舊神官配當祿公債ノ元金ハ明治二十五年年度ニ於テ、又利子ハ其前二十一年年度ニ於テ各、悉皆仕拂ヲ完了シタリ其毎年度元利金、元利拂手數料及雜費支出ノ概況ハ左ノ二表ノ如シ

第一表 (元金)

年 度 償 還 額 仕 拂 額 期 滿 失 效 仕 拂 未 済 額

十三年度	三三、一〇〇	三三、〇〇〇	〇	一〇〇
十四年度	四七、三〇〇	四七、三〇〇	〇	一〇〇
十五年度	八五、八二五	八五、三〇〇	〇	六二五
十六年度	一九、九五〇	二〇、四五〇	〇	一一〇
十七年度	三二、六五〇	三二、七五〇	〇	一〇〇
十八年度	二〇、四〇〇	二〇、三七五	〇	二二五
十九年度	九四、八二五	九四、七〇〇	〇	一二五
二十一年度	〇	一五〇	〇	二五
二十五年年度	〇	〇	二五	〇
合 計	三三四、〇五〇	三三四、〇二五	二五	一〇〇

備 考

二十年度ニハ仕拂ナシ

第二表 (利子及手數料)

年 度	利 子 支 拂 額	手 數 料 仕 拂 額	合 計
十一年度	三三、八六六、〇〇〇	〇	三三、八六六、〇〇〇
十二年度	三三、八六六、〇〇〇	〇	三三、八六六、〇〇〇

年度	額	期滿	失効	仕拂未済額
十三年度	二七,五二二,〇八五	〇	〇	二七,五二二,〇八五
十四年度	二五,一一七,四五五	〇	〇	二五,一一七,四五五
十五年度	二二,三八四,八八七	〇	〇	二二,三八四,八八七
十六年度	一三,八五九,二七七	〇	〇	一三,八五九,二七七
十七年度	一二,五八三,九一七	〇	〇	一二,五八三,九一七
十八年度	九,五六七,六一七	〇	〇	九,五六七,六一七
十九年度	三,八二一,六六七	〇	〇	三,八二一,六六七
二十年度	二,〇〇〇	〇〇六	〇	二,〇〇六
二十一年度	六六,〇〇〇	三四八	〇	六六,三四八
合計	一八二,六五六,九〇五	三五四	〇	一八二,六五七,二五九

第七項 起業公債

起業公債ノ毎年度元利金及元利拂手敷料支出ノ概況ハ左ノ二表ノ如シ

第一表 (元金)

年度	償還額	仕拂額	期滿	失効	仕拂未済額
十三年度	二八,四四〇	二八,四四〇	〇	〇	〇
十四年度	二九,一〇〇	二九,一〇〇	〇	〇	〇
十五年度	三二,一〇〇	三二,一〇〇	〇	〇	〇
十六年度	三三,七〇〇	三三,七〇〇	〇	〇	〇
十七年度	三三,九〇〇	三三,九〇〇	〇	〇	〇
十八年度	三三,九〇〇	三三,九〇〇	〇	〇	〇
十九年度	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十年度	九,〇〇〇	九,〇〇〇	〇	〇	〇
二十一年度	七,四〇〇	七,四〇〇	〇	〇	〇
二十二年度	六,四〇〇	六,四〇〇	〇	〇	〇
二十三年度	八,三〇〇	八,三〇〇	〇	〇	〇
二十四年度	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十五年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十六年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十七年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十八年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十九年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
三十年度	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
三十一年度	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇

年度	償還額	仕拂額	期滿	失効	仕拂未済額
十四年度	二八,四四〇	二八,四四〇	〇	〇	〇
十五年度	二九,一〇〇	二九,一〇〇	〇	〇	〇
十六年度	三二,一〇〇	三二,一〇〇	〇	〇	〇
十七年度	三三,七〇〇	三三,七〇〇	〇	〇	〇
十八年度	三三,九〇〇	三三,九〇〇	〇	〇	〇
十九年度	三三,九〇〇	三三,九〇〇	〇	〇	〇
二十年度	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十一年度	九,〇〇〇	九,〇〇〇	〇	〇	〇
二十二年度	七,四〇〇	七,四〇〇	〇	〇	〇
二十三年度	六,四〇〇	六,四〇〇	〇	〇	〇
二十四年度	八,三〇〇	八,三〇〇	〇	〇	〇
二十五年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十六年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十七年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十八年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
二十九年	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
三十年度	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇
三十一年度	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇

合計	六、八四七、五〇〇	一、八〇九、〇五〇	四、七七一、五〇〇	六、八四七、五〇〇	六〇〇	九、五〇〇	二、五五〇
備考	二十二年年度ノ償還額ハ抽籤ノ執行明治二十二年三月ニ在リト雖モ歳計ノ都合ニ由リ二十二年年度ノ豫算内ヨリ支出シタルモノナリ						

第二表 (利子及手数料)

年 度	利子仕拂額	手 数 料 仕 拂 額		合 計
		起業基金部ヨリ支出	常用部ヨリ支出	
十一年度	五八三、九〇二	〇	〇	五八三、九〇二
十二年度	七四九、八八一	〇	〇	七四九、八八一
十三年度	七、八六九、七二五	一、二二五、七二七	〇	九、〇九五、四五二
十四年度	七、四六六、七三五	三、八四九、八四四	〇	一一、三一六、五九九
十五年度	六、九八〇、七〇〇	一、二四〇	〇	八、二二〇、七〇〇
十六年度	六、八八、一六八、八七五	一、四六五九	〇	六、九〇三、七三四
十七年度	六、四七、二七九、五〇〇	〇	〇	六、四七、二七九、五〇〇
十八年度	三、三三、九一四、二五〇	〇	〇	三、三三、九一四、二五〇
十九年度	六、四四、五七、九〇〇	〇	六、七四八、五五〇	一三、一九三、四五〇

二十年度	六、四四、〇三、五〇〇	〇	六、四四、〇三、五〇〇	六、四四、〇三、五〇〇
二十一年度	六、四六、九七、三五〇	〇	六、四六、九七、三五〇	六、四六、九七、三五〇
二十二年度	六、四三、六五九、二五〇	〇	六、四三、六五九、二五〇	六、四三、六五九、二五〇
二十三年度	六、四三、二二五、〇〇〇	〇	六、四三、二二五、〇〇〇	六、四三、二二五、〇〇〇
二十四年度	六、四三、三三八、〇〇〇	〇	六、四三、三三八、〇〇〇	六、四三、三三八、〇〇〇
二十五年度	四、六四、四七五、〇〇〇	〇	四、六四、四七五、〇〇〇	四、六四、四七五、〇〇〇
二十六年度	二、七六五、五〇〇	〇	二、七六五、五〇〇	二、七六五、五〇〇
二十七年度	三、九五、八七五	〇	三、九五、八七五	三、九五、八七五
二十八年度	一、四九、七五〇	〇	一、四九、七五〇	一、四九、七五〇
二十九年度	二、四六、〇〇〇	〇	二、四六、〇〇〇	二、四六、〇〇〇
三十年度	六、三、七五〇	〇	六、三、七五〇	六、三、七五〇
三十一年度	一、八四、二五〇	〇	一、八四、二五〇	一、八四、二五〇
合計	九、四九三、六四、六二二	一、六二〇、七二七	一、〇七九、〇三九	一〇、一九三、四〇六、三九〇

備考
 十一年度及十二年年度ニ手数料ノ仕拂ナキ所以ハ十三年度ニ於テ始メテ之レカ
 手数料ノ交付シタルニ由ル
 三十三年度ニ於テハ利子及手数料トモ仕拂ナシ

起業公債ノ元利拂手數料ハ其初起業基金部ヨリ支出シタリシガ明治十四年度以降之ヲ常用部ノ支辨ト爲シタリ然レトモ十三年度以前ニ屬スル元利金仕拂未済額ノ追拂ニ對スル手數料ハ十四年度以後ト雖モ仍ホ之ヲ起業基金部ヨリ支出シタリ隨テ十四年度ヨリ十六年度迄ノ手數料ハ右ノ基金ヨリ支出セラレタルモノト常用部ヨリ支出セラレタルモノトノ二種トナレリ

第八項 中山道鐵道公債

中山道鐵道公債ノ毎年度元利金及元利拂手數料支出ノ概況ハ左ノ二表ノ如シ

第一表 (元金)

年 度	償 還 額	仕 拂	額	仕 拂 未 済 額
		豫 算 償 還	整 理 償 還	
二十三年度	一〇,〇〇〇 ^円	一〇,〇〇〇 ^円	〇 ^円	〇 ^円
二十四年度	一五,九七,七五〇	六六,〇〇〇	一,三七七,九〇〇	一五三,八五〇
二十五年度	六四,二五〇	二二,九〇〇	五二四,一〇〇	一一,一〇〇
二十六年度	〇	〇	二,二〇〇	八,九〇〇
二十七年度	〇	〇	一,〇〇〇	七,九〇〇
二十九年度	〇	〇	四〇〇	七,五〇〇
三十年度	〇	二〇〇	二,〇〇〇	五,三〇〇

三十二年度	〇	五〇〇	四,八〇〇	五,三〇〇
合 計	二,二二三,〇〇〇	三〇九,六〇〇	一,九二二,四〇〇	二,二二三,〇〇〇

備考
二十八年度及三十一年度ハ償還額ナク又仕拂額ナシ且ツ此公債ノ元金ニハ時効一罹リタルモノナシ

第二表 (利子及手數料)

年 度	利 子 仕 拂 額	手 數 料 仕 拂 額	合 計
十六年度	八四,七〇八 ^円 ・二三三	八四七,〇八一 ^円	八五,五五五 ^円 ・三三四
十七年度	一〇,一三,六五八 ^円 ・四七四	一〇,一三六,五八五	一〇,二三三,七九五 ^円 ・〇五九
十八年度	六六〇,五五八 ^円 ・〇五六	六,六〇三,七二〇	六,六七,一六一 ^円 ・七七六
十九年度	一,三九七,三九九 ^円 ・五〇〇	一三,九七五,八八五	一,四一,一三七 ^円 ・五三八五
二十年度	一,三九七,四一七 ^円 ・〇〇〇	一三,九七四,一七〇	一,四一一,三九一 ^円 ・二七〇
二十一年度	一,四〇二,七二三 ^円 ・〇〇〇	一四,〇二七,二三〇	一,四一六,七五〇 ^円 ・二三三〇
二十二年度	一,三九一,七一九 ^円 ・〇〇〇	六,九七二,四二〇	一,三九八,六九一 ^円 ・四二〇
二十三年度	一,四〇六,五八九 ^円 ・三三三	一一,一六八,七〇六	一,四一七,七五八 ^円 ・〇三九
二十四年度	一,四一〇,四一六 ^円 ・三七一	五,二六〇,八四六	一,四一五,七二二 ^円 ・三二七

二十五年 度	四五四,二一六・〇二	二,五三三・八三〇	四五六,七五一・八四二
二十六年 度	一七五・五八四	六八・二九	一八二,四一三
二十七年 度	一四七・〇〇〇	一〇・二二	一四八,〇二二
二十八年 度	五二・五〇〇	四・二〇	五二,九二〇
二十九年 度	四六・六六八	五・七二	四七,二四〇
三十年 度	九三・三三四	二,四〇六	九五,七四〇
三十一年 度	二二七・九九九	〇	二二七,九九九
合 計	一〇,六二〇,二〇三・〇六四	八五,五二三・七二一	一〇,七〇五,七二六・七八五

備考
三十一年 度 於ノハ利子及手数料共仕拂ナシ

第九項 金札引換無記名公債

金札引換無記名公債ノ償還元金ニ對スル仕拂ハ明治二十三年 度ヨリ二十六年 度ニ至ル四箇年 度間(二十五年 度ニ於テ償還額ナク又仕拂額ニ止レリ)ヲ以テ完了シ而モ各年 度ニ於テ仕拂未済額ナク又時効ニ罹リタルモノアラス且其利子ニ方リテモ亦明治二十六年 度ニ於テ仕拂ヲ完了シタルモノニシテ最モ簡單ナル經歷ヲ以テ其局ヲ結ヒタリ而シテ毎年 度元利金及元利拂手数料支出ノ概況ハ左ノ二表ノ如シ

第一表 (元金)

年 度	償 還 額	仕 拂	計 額
二十三年 度	五,〇〇〇 ^円	五,〇〇〇 ^円	五,〇〇〇 ^円
二十四年 度	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
二十五年 度	一,九五五,八〇〇	一,〇〇〇	一,九四五,八〇〇
二十六年 度	一,九六五,八〇〇	二〇,〇〇〇	一,九八五,八〇〇
合 計			一,九六五,八〇〇

第二表 (利子及手数料)

年 度	利子仕拂額	手数料仕拂額	合 計
十六年 度	一四,〇〇一・〇〇〇 ^円	一四,〇〇一・〇〇〇 ^円	一四,一四二・〇一〇 ^円
十七年 度	八一,六九四・七五〇	八一六,九四九	八二,五一一・六九九
十八年 度	一九二,二五四・五〇〇	一九二,二五四・五	一九四,一七七・〇四五
十九年 度	三二七,八一六・〇〇〇	三,二七八・一六〇	三三一,〇九四・一六〇
二十年 度	四七五,七二五・〇〇〇	四,七五七・二五〇	四八〇,四八二・二五〇
二十一年 度	四七五,八六三・〇〇〇	四,七五八・六三〇	四八〇,六二一・六三〇

年 度	價 還 額	仕 拂 額	買入償額差減	利子仕拂額	仕手 拂 數 額 料	仕 拂 額 合 計
二十二年 度	四七五、三四四〇〇			二、四四九、四一〇		四七七、七九三、四一〇
二十三年 度	四七四、七九四〇〇			三、七三三、四一二		四七八、五二七、四一二
二十四年 度	四七四、二四四〇〇			一、四二七、三七二		四七五、六七一、三七二
二十五年 度	五六一、九五五〇〇			一、四一九、六四二		五六三、三七五、一四二
二十六年 度	三九、一一六〇〇			二、三三九、七三三		四一、四五五、七三三
合 計	三、五九三、八〇七、七五〇			二七、〇四三、一一三		三、六一九、八五〇、八六三

第十項 海軍公債

海軍公債ノ毎年度元利金及元利拂手數料支出ノ概況ハ左表ノ如シ

年 度	價 還 額	仕 拂 額	買入償額差減	利子仕拂額	仕手 拂 數 額 料	仕 拂 額 合 計
十九年 度	〇	〇	〇	五、五五五、〇〇〇	五、五五五、〇〇〇	五、六一〇、〇〇〇
二十年 度	〇	〇	〇	四、四四〇、〇〇〇	四、四四〇、〇〇〇	四、四八〇、〇〇〇
二十一年 度	〇	〇	〇	六、一四七、七〇〇	六、一四七、七〇〇	六、二〇〇、〇〇〇
二十二年 度	〇	〇	〇	七、八二九、〇三六	七、八二九、〇三六	七、八八〇、〇〇〇
二十三年 度	〇	〇	〇	八、四九九、九五〇	八、四九九、九五〇	八、五五〇、〇〇〇
二十四年 度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	八、四九九、九五〇	八、四九九、九五〇	八、六〇〇、〇〇〇

年 度	價 還 額	仕 拂 額	買入償額差減	利子仕拂額	仕手 拂 數 額 料	仕 拂 額 合 計
二十五年 度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	八、四九九、九五〇	八、四九九、九五〇	八、六〇〇、〇〇〇
二十六年 度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	八、四九九、九五〇	八、四九九、九五〇	八、六〇〇、〇〇〇
二十七年 度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	八、四九九、九五〇	八、四九九、九五〇	八、六〇〇、〇〇〇
二十八年 度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	八、四九九、九五〇	八、四九九、九五〇	八、六〇〇、〇〇〇
二十九年 度	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	八、四九九、九五〇	八、四九九、九五〇	八、六〇〇、〇〇〇
三十年 度	五、七一一、〇〇〇	五、七一一、〇〇〇	〇	五、七一一、〇〇〇	五、七一一、〇〇〇	五、七一一、〇〇〇
三十一 年度	六、六〇〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇	〇	六、六〇〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇
三十二年 度	四、七〇〇、〇〇〇	四、七〇〇、〇〇〇	〇	四、七〇〇、〇〇〇	四、七〇〇、〇〇〇	四、七〇〇、〇〇〇
合 計	八、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	〇	八、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇

第十一項 整理公債

整理公債ノ毎年度元利金及元利拂手數料支出ノ概況ハ左表ノ如シ

年 度	價 還 額	仕 拂 額	買入償額差減	利子仕拂額	仕手 拂 數 額 料	仕 拂 額 合 計
十九年 度	〇	〇	〇	二、七一一、〇〇〇	二、七一一、〇〇〇	二、七一一、〇〇〇
二十年 度	〇	〇	〇	六、六〇〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇
二十一年 度	〇	〇	〇	二、七一一、〇〇〇	二、七一一、〇〇〇	二、七一一、〇〇〇
二十二年 度	〇	〇	〇	六、六〇〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇

年 度	債 還 額	仕 拂 額	仕 拂 未 済 額	利 子 仕 拂 額	仕 手 拂 額	仕 拂 額 合 計
二十三年度	0	0	0	0	0	0
二十四年度	0	0	0	0	0	0
二十五年度	0	0	0	0	0	0
二十六年度	0	0	0	0	0	0
二十七年度	0	0	0	0	0	0
二十八年度	1,000,000	1,000,000	0	0	0	2,000,000
二十九年度	4,575,000	4,575,000	0	0	0	9,150,000
三十年度	7,070,000	6,600,000	470,000	0	0	13,140,000
三十一年度	4,564,000	4,564,000	0	0	0	9,128,000
三十二年度	5,990,000	5,740,000	250,000	0	0	11,730,000
合 計	26,300,000	25,910,000	390,000	0	0	52,600,000

證券發行初年ノ利子ハ整理公債條例ノ規定ニ據リ募集金ヲ以テ支辨スルコトヲ得ルモノナリト雖モ明治十九年度及二十三年度以降ハ一般會計ノ歳出國債費豫算内ヨリ支出シ唯明治二十年度乃至二十二年度ノ三箇年度ニ於テノミ募集金ノ支辨ト爲シタリ而シテ其金額ハ整理金部ヨリ常用部ニ繰入シ支出シタルモノニシテ總計百七拾八萬千貳百八圓貳拾四錢貳厘ナリトス

第十二項 鐵道費補充公債

鐵道費補充公債ノ元金ハ明治三十二年度ヲ以テ悉皆仕拂ヲ完了セリ而シテ毎年度元利金及元利拂手數料支出ノ概況ハ左表ノ如シ

年 度	債 還 額	仕 拂 額	仕 拂 未 済 額	利 子 仕 拂 額	仕 手 拂 額	仕 拂 額 合 計
二十二年度	0	0	0	0	0	0
二十三年度	0	0	0	0	0	0
二十四年度	0	0	0	0	0	0
二十五年度	0	0	0	0	0	0
二十六年度	0	0	0	0	0	0
二十七年度	0	0	0	0	0	0
二十八年度	0	0	0	0	0	0
二十九年度	0	0	0	0	0	0
三十年度	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0

備考 三十年度及三十一年度ニ於テハ元利金及手數料トモ仕拂ナシ

第十三項 軍事公債

軍事公債ノ毎年度元利金及元利拂手敷料支出ノ概況ハ左表ノ如シ

年 度	元 金			利子仕拂額	仕手 拂額料	仕拂額合計
	償還額	仕拂額	買入價格差減			
二十七年 度	0	0	0	七、八三三、八九八	一、六〇七、八五	七、八三三、八九八
二十八年 度	0	0	0	二、九三七、〇五五、四七	三、五一八、六〇九	二、九四〇、五七四、〇八〇
二十九年 度	0	0	0	五、四三三、八二四、六一	九、一一六、〇三六	五、四三三、九四〇、三九七
三十年 度	0	0	0	六、〇八二、六四三、五九九	二、七一一、〇七六、一一	六、一〇九、七五〇、六一
三十一年 度	0	0	0	六、二〇六、〇七七、〇八七	二、七四六、六三三、七	六、二〇六、〇七七、〇八七
三十二年 度	八、三三九、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇一、五五八、二五〇	三、七七四、一六五、〇	六、〇九四、七八八、九九五	二、九八七、二九七、三	八、三三九、〇〇〇、〇〇〇
合 計	八、三三九、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇一、五五八、二五〇	三、七七四、一六五、〇	三、七七四、一六五、〇	二、六二二、三二五、二	八、三三九、〇〇〇、〇〇〇

第十四項 鐵道公債、事業公債及北海道鐵道公債

鐵道公債事業公債及北海道鐵道公債ノ内鐵道公債ハ明治三十二年 度ニ於テ始メテ償還元金ノ仕拂アリシト雖モ事業及北海道鐵道ノ二公債ニ方リテハ未タ元金ノ償還ヲ行ハサルニ由リ隨テ其仕拂アルコトナシ而シテ此三公債ニ對シ發行スル所ノ證券ハ既ニ敘述シタルカ如ク其名稱様式

ヲ同一ニ爲シタルノ結果明治三十一年三月渡以降ニ係ル利子ハ支拂整理上公債ノ區別ヲ爲サ、リシカ故ニ茲ニ之ヲ區別スルニ由ナシ手敷料亦之ニ準ス因テ茲ニハ此三公債ヲ一括シ以テ毎年度元利金及手敷料支出ノ概況ヲ示サントス即チ左表ノ如シ

年 度	鐵道公債元金			利子仕拂額	仕手 拂額料	仕拂額合計
	償還額	仕拂額	買入價格差減			
二十六年 度	0	0	0	二、一三〇、〇〇〇	六、三三、七五	二、一三〇、〇〇〇
二十七年 度	0	0	0	八、七七一、二〇〇	二、六三、二二四	八、七七一、二〇〇
二十八年 度	0	0	0	二、六六六、八〇〇	六、三四、八八〇	二、七三〇、一六〇
二十九年 度	0	0	0	三、七五〇、〇〇〇	四、六五、一一一	三、七五〇、〇〇〇
三十年 度	0	0	0	一、二八七、九七八、七二六	一、六五〇、〇〇〇	一、二八七、九七八、七二六
三十一年 度	0	0	0	二、八四〇、三三五、〇〇〇	一、三三四、六七〇	二、八四〇、三三五、〇〇〇
三十二年 度	一、一三三、〇〇〇、〇〇〇	一、一三三、〇〇〇、〇〇〇	一、一三三、〇〇〇、〇〇〇	七、六六九、三三九、二四六	一、八七四、七一六	一、一三三、〇〇〇、〇〇〇
合 計	一、一三三、〇〇〇、〇〇〇	一、一三三、〇〇〇、〇〇〇	一、一三三、〇〇〇、〇〇〇	三、七六九、三三九、二四六	一、八七四、七一六	一、一三三、〇〇〇、〇〇〇

備考

三十二年 度鐵道公債元金仕拂額ハ本表ニ掲クルモノ、外元金前渡高ノ内ニ於テ日ノ振換ヲ爲シ仕拂ヒタルモノ參萬圓アレトモ未タ記帳ノ手續ヲ了セサルヲ以テ茲ニ姑ク之ヲ省キタリ

第二節 外國公債

第一款 仕拂ノ方法

第一項 元利金

九分利付外國公債ノ元利金仕拂ノ期日ハ元金ハ毎年八月一日利子ハ毎年二月一日及八月一日ナリトス而シテ右仕拂ノ事務ハ在倫敦シユレーデル會社ヲシテ取扱ハシメ元金仕拂ノ基金ハ抽籤執行ノ期(五月一日)ニ先タツコト五日東洋銀行ノ手ヲ經テシユレーデル會社ニ交付シ又利子仕拂ノ基金ハ毎年仕拂期日前十五日ニ手數料ト共ニ前同様交付スルモノト爲セリ

又七分利付外國公債ノ元利金仕拂事務ハ當初英國倫敦ナル東洋銀行ヲシテ取扱ハシメ明治十七年五月同行鎖店ノ後ハ一時之ヲ倫敦合本銀行ニ移シ同年七月其仕拂ヲ爲サシメタリト雖モ十八年一月拂以降ハ橫濱正金銀行ニ命任シテ之ヲ取扱ハシムルコト、爲セリ而シテ該公債ノ仕拂期ハ元金ハ毎年七月一日利子ハ毎年一月一日及七月一日ノ兩度トス又此公債元金ノ仕拂基金ハ抽籤ノ期日(四月一日)ニ先タツコト五日ニ利子ノ仕拂基金ハ仕拂期日前十五日ニ手數料ト共ニ各之ヲ東洋銀行ニ送致シ元利金仕拂ノ事務ヲ橫濱正金銀行ニ移シタル後ハ從前東洋銀行ニ於ケル取扱手續ニ依準シテ其命任書中ニ基金交付ノ手續ヲ定メタリ

右ノ外近年ノ起債ニ係ル鐵道事業及北海道鐵道公債ニ付テハ元金ハ明治四十二年一月一日以降ニ於テハ我政府ノ隨意ヲ以テ何時ニテモ倫敦タイムス新聞紙上ニ公告ヲ爲シ六箇月ヲ經タル後

抽籤ヲ爲シ又利子ハ明治三十二年六月三十日以降毎年六月三十日及十二月三十一日ノ兩回ニ於テ共ニ倫敦ニ於テ拂渡スヘキモノナリ而シテ其事務ハ日本銀行ノ取扱フ處ニシテ其仕拂基金ハ現金前渡ヲ以テ交付スルモノナリ

第二項 元利拂手數料及雜費

外國公債ノ元利拂手數料ハ九分利付公債七分利付公債鐵道公債事業公債及北海道鐵道公債何レモ元利金仕拂額ノ千分ノ五ヲ率ト爲シテ取扱銀行ニ支給シタルモノナリ而シテ九分利付公債ニ於テハ元利金仕拂ニ關スル廣告料公證人手數料及仕拂濟證券塗抹料等ハ別ニ雜費トシテ之ヲ支出シタリ

第二款 仕拂ノ實況

第一項 九分利付外國公債

九分利付外國公債ノ償還元金ハ毎年英貨十萬磅我金貨ニ換算シテ四拾八萬八千圓ツ、ヲ仕拂フヘキモノナレハ年々支出ノ金額ハ一定シテ敢テ異動ナカル可キモノナレトモ紙幣ヲ英貨ニ換算スルノ標準タル洋銀相場ノ騰貴シタルト英金爲替相場ノ高貴ナリシトニ由リ概シテ逐年其支出額ヲ増加セリ即チ毎年度ニ於ケル支出ノ概況ハ左表ノ如シ

年 度	仕 拂 額		償還額ニ對スル仕拂額ノ増減
	英 貨	我金貨ニ換算額	
六 年 期	一〇〇,〇〇〇	四八八,〇〇〇	△二,二七六,四四三
七 年 期	一〇〇,〇〇〇	四八八,〇〇〇	△二,二七六,四四三
八 年 期	一〇〇,〇〇〇	四八八,〇〇〇	△二,二七六,四四三
九 年 度	一〇〇,〇〇〇	四八八,〇〇〇	△二,二七六,四四三
十 年 度	一〇〇,〇〇〇	四八八,〇〇〇	△二,二七六,四四三
十 一 年 度	一〇〇,〇〇〇	四八八,〇〇〇	△二,二七六,四四三
十 二 年 度	一〇〇,〇〇〇	四八八,〇〇〇	△二,二七六,四四三
十 三 年 度	一〇〇,〇〇〇	四八八,〇〇〇	△二,二七六,四四三
十 四 年 度	一〇〇,〇〇〇	四八八,〇〇〇	△二,二七六,四四三
合 計	一,〇〇〇,〇〇〇	四,八八〇,〇〇〇	五,一九七,七四一・六〇

備考
本表ノ金員ハ八期マテハ金銀貨ニシテ八年度ヨリ十四年度マテハ金貨又ハ紙幣ナリ
本表仕拂額ハ國庫ノ決算額ニ據ル故ニ實際債主ヘ拂渡シタル金額ハ年々多少ノ異動ヲ免レス

(△印ハ減)

又本公債毎年度ニ於ケル利子元利拂手数料及雜費ノ支出額ハ左表ノ如シ

年 度	利子仕拂額	手数料仕拂額	雜費仕拂額	合 計	
				合 計	備 考
四 年 期	四三七,一五二・〇〇一	二一八,五七五・六	一,八九七,八一四	四四一,二三四・七七一	
五 年 期	四三七,一五二・〇〇一	二一八,五七五・六	五三〇,〇六三	四三九,三九〇・〇二〇	
六 年 期	四三七,一五二・〇〇一	四六一,四三七・四	二六三,六三四	四四二,〇二九・二〇九	
七 年 期	三九三,四三六・〇八一	四,三九五・七九八	七,五二三・八六四	四〇五,三五五・七四三	
八 年 期	三四九,七二〇・九六一	四,一七七・二三三	二二四,一五一	三五四,一二三・三五五	
八 年 度	三一,六二四・七三六	四〇,三一一・三三六	二一三,九三三	三一五,八七〇・〇〇五	
九 年 度	二六九,六二〇・九五八	三,八四四・五九四	四二〇,九〇八	二七三,八八六・四六〇	
十 年 度	二三四,七七二・七八二	三,七八二・四三三	一四五,九五〇	二三八,七〇〇・一六五	
十 一 年 度	二〇三,八四五・六七〇	三,八五〇・四一八	四六四,八八一	二〇八,一六〇・九六九	
十 二 年 度	一五九,五五八・九六六	三,七五二・五九〇	二八四,八四三	一六三,五九六・三九九	
十 三 年 度	一三一,七四八・四二二	四,三一八・四二一	四一五,〇〇七	一三六,四八一・八五〇	
十 四 年 度	四七,七四三・九一五	二,八五四・五二三	三二二,七四〇	五〇,九一一・二七八	
合 計	三,四一三,五三三・〇九四	四三,九九三・三三二	一,二二二,〇七八	三,四六九,七三九・一〇四	

備考
本表ノ金員ハ八期マテハ金銀貨ニシテ八年度ヨリ十四年度マテハ金貨又ハ紙幣ナリ

前掲二表ノ仕拂額ヲ合計スレハ其高八百八拾六萬九千五百拾參圓貳拾六錢四厘ニシテ此英貨百六十八萬五千八百二十六磅十六志十片ナリ今參考ノ爲メ之ニ對スル實際仕拂ノ金種類ヲ區分スレハ左表ノ如シ

種 類	邦貨計算額	米貨計算額	英貨計算額
貳 分 金	二〇〇,〇〇〇.〇〇	〇	四三,八七六.〇三
壹 圓 銀	二〇〇,〇〇〇.〇〇	〇	四一,〇〇〇.〇〇
金 貨	三二〇,〇〇〇.〇〇	〇	六二,三〇六.〇七
金 塊	一,五四二,五六六.六八	〇	三二,四三三.〇〇
金貨ヲ以テ買入レタル爲替券	一一一,八三七.八八〇	〇	二二,三七三.〇〇
洋銀ヲ以テ買入レタル爲替券	二,〇四三,四六二.一六五	一,九九五,二四.四四	四一五,一四一.〇九
七分利付外國公債募集金	一,四四五,四一七.六九四	一,四四五,四一七.七〇	二九六,四二七.〇〇
輸出米麥賣却代金	一,四三四,九六五.〇二九	一,二七八,三五.四三	二四八,六一七.〇六
外國爲替返納金其利息金東洋銀行預金利息其他買入英米貨幣等	一,〇三九,八七一.〇三一	八八四,三四一.五六	一六五,六九〇.〇五
九分利付外國公債證書中買上證券ノ當額元利金	三八三,三八八.六二二	三八三,三八八.六二	七七,九六一.三〇
合 計	八,七二一,五〇九.〇八九	三八三,三八八.六二	一,六八五,八二六.一六

此實際仕拂額合計八百七拾壹萬千五百九圓八錢九厘ヲ以テ前ニ掲ケタル決算支出額ノ合計ニ對スレハ拾五萬八千四圓拾七錢五厘ノ差違アリ此差違アル理由ハ決算ニ於テハ十四年度以前ニ係

ル新舊二種ノ外國公債元利金手数料及雜費ノ支出額ト之ニ對スル英貨ノ額トヲ各通計シテ總額ニ對スル平均爲替相場ヲ算出シ此平均相場ニ依リテ新舊二種ノ公債ニ對スル支出額ヲ引分ケタルヲ以テナリ又明治五年ヨリ八年上半季マテノ決算ニ於テ洋銀ニ附シアル通貨ハ一弗ニ付壹圓換ト壹圓壹錢換トノ兩相場ヲ以テ組成シタルモ實際ノ相場ハ種々ノ異動アリシヲ以テ是レ亦多少此差違ヲ生スルノ因ト爲レリ而シテ前表中輸出ノ米麥賣却代金ヲ以テ仕拂ヒタルモノアルハ一ニハ爲替相場ノ騰貴ニ由テ生スル國庫ノ損失ヲ避ケ一ニハ金貨ノ輸出ヲ防止シ其他間接ニハ

海外貿易ヲ獎勵スルノ旨趣ニ出テタルモノナリ
此公債ノ元金ハ明治十五年ニ至リ償還ヲ了セシト雖モ當時債主未請求ノ利子英貨九磅ノアルアリ而シテ此公債ニ關シテハ最初ヨリ元利金消滅時効ノ規約ナカリシヲ以テ是等仕拂ノ請求ナキ債權ニ對シ政府ハ際涯ナク仕拂義務ヲ負ハサルヲ得スシテ整理上差支少カラサルニ由リ十五年十月以來在英國倫敦領事園田孝吉ヲシテ之カ處分ノ方法ヲ調査セシメ又雇法律家デニソンニ議ル所アリタリ而シテ必スシモ我仕拂義務ヲ免カル、ノ方便ナキニアラスト雖モ或ハ我帝國ノ信用ヲ害スルノ虞ナキニアラサルヲ以テ遂ニ領事ノ申出ニ從ヒ將來債主ノ請求ニ應シテ之ヲ仕拂フヘキコトニ決シ該未拂利金ハ元利仕拂取扱人シユレーデル會社ヨリ引上ケ之ヲ我領事官ノ管理ニ屬スル準備金ニ預ケ入レ以テ仕拂基金ニ充テタリシカ明治二十三年ニ至リ準備金ヲ廢止シ之ヲ國庫ニ繰入レタルニ由リ該未拂利金ノ如キモ共ニ國庫ニ收入シ他日債主ヨリ請求アルトキハ國庫ヨリ更ニ支出スルコト、爲シタリ

第二項 七分利付外國公債

七分利付外國公債ノ元金ハ元利混合濟崩法ニ據リ償還シタルモノニシテ其毎年ノ償還額ハ既ニ表出シタリ因テ茲ニハ該償還額ニ對スル支出ノ概況ヲ表出セントス即チ左ノ如シ

年 度	償 還 額		仕 拂 額		仕拂額爲換 相場差増減	仕拂未済額
	英 貨	我金貨ニ換算額	英 貨	邦 貨		
八 年 度	48,000	33,240	48,000	33,240	1,092,693	0
八 年 度	51,300	35,340	51,300	35,340	3,407,571	0
九 年 度	55,000	36,840	55,000	36,840	6,123,938	0
十 年 度	58,800	38,940	58,800	38,940	1,982,046	0
十 一 年 度	62,900	40,950	62,900	40,950	4,921,685	0
十 二 年 度	67,300	42,840	67,300	42,840	6,929,495	0
十 三 年 度	72,000	44,640	72,000	44,640	1,756,333	0
十 四 年 度	77,100	46,240	77,100	46,240	3,840,742	0
十 五 年 度	82,500	47,640	82,500	47,640	4,997,129	0
十 六 年 度	88,100	48,840	88,100	48,840	5,067,909	0
十 七 年 度	94,000	49,640	94,000	49,640	0	4,606,700
十 八 年 度	101,100	49,368	99,900	52,612	7,280,722	5,006,880

年 度	償 還 額	仕 拂 額	仕拂額爲換 相場差増減	仕拂未済額
十 九 年 度	0	99,800,000	59,800,000	1,364,000
二 十 年 度	10,800	527,528	665,125,000	1,464,000
二 十 一 年 度	12,500	546,128	743,411,000	2,000,000
二 十 二 年 度	13,800	604,144	809,996,976	7,300,000
二 十 三 年 度	15,400	646,112	833,110,243	13,900,000
二 十 四 年 度	17,700	691,464	871,718,330	21,688,000
二 十 五 年 度	19,600	739,808	9,305,776,699	7,808,000
二 十 六 年 度	21,200	791,536	11,996,987,747	8,196,000
二 十 七 年 度	23,600	847,768	13,585,055,144	9,275,000
二 十 八 年 度	25,800	906,704	15,287,940,061	8,784,000
二 十 九 年 度	28,700	969,656	17,122,278,558	8,196,000
三 十 年 度	32,900	1,037,532	19,197,577,644	1,014,000
三 十 一 年 度	38,000	1,110,000	21,522,777,644	0
合 計	2,400,000	1,772,200,000	2,671,110,438	0

備考 本表十六年度迄ノ仕拂額ハ國庫決算額ニシテ即チ東洋銀行へ交付シタル高ナリ故ニ實際債主へ拂渡シタル金額ハ年々多少ノ異同アル者ト知ルヘシ十七年度以降ハ取扱銀行ヨリ拂渡證書館却表ヲ差出サシメ之ニ據リ決算ノ決定ニシテ國庫ノ爲シタルニ由リ本表所掲ノ仕拂額ハ即チ實際債主へ拂渡シ

タル高ナリ
 前項ノ如ク決算順序ヲ改正セシカ爲メ十七年度ニ於テハ遂ニ決算ヲ了スル事
 能ハスシテ未決算ノ儘翌年度へ繰越シタルニ由リ同年度ニ於テハ仕拂額ナシ
 表中仕拂ノ金員ハ八期マテハ金銀貨ニシテ八年度ヨリ十四年度マテハ金銀又
 ハ紙幣十五年度以降明治三十年十月貨幣法實施マテハ悉ク銀貨ナリ
 又元金償還ノ期月ハ毎年七月ニアリト雖モ本邦ニ於ケル國庫ノ支出ハ其前二
 三月ノ交ニ在ルカ故ニ十九年度即チ十九年七月拂以前ノ償還金ハ何レモ其前
 年度ノ支出トシテ計算整理セリ然ルニ二十年年度即チ二十年七月拂以後ハ實際
 仕拂年度ノ所屬ト爲シタルニ由リ表中十九年度ニ於テハ償還額ナシ而シテ此
 公債ハ三十年度ニ於テ償還満期トナリシヲ以テ三十一年度以降償還額ナシ且
 ツ三十一年度ニ於テハ仕拂額ナシ

七分利付外國公債ノ毎年度ニ於ケル利子元利拂手數料及雜費ノ支出額ハ左表ノ如シ

年 度	利 子		手 數 料		雜 費		合 計	
	英 貨	邦 貨	英 貨	邦 貨	英 貨	邦 貨	英 貨	邦 貨
九 年 度	1,108,407.00	4,081,154.84	1,030,000.00	4,844,854.84	1,100.00	12,444.00	1,101,100.00	4,857,298.84
八 年 度	1,878,000.00	4,187,848.10	1,084,127.00	4,880,975.10	1,000.00	12,444.00	1,085,127.00	4,893,419.10
八 期 期	2,700,000.00	4,000,000.00	3,000,000.00	4,100,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,112,444.00
七 期 期	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
六 期 期	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
十 一 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
十 二 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
十 三 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
十 四 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
十 五 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
十 六 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
十 七 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
十 八 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
十 九 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
二 十 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
二 十 一 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
二 十 二 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
二 十 三 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
二 十 四 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
二 十 五 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
二 十 六 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00
二 十 七 年 度	1,700,000.00	4,101,548.50	3,000,000.00	4,800,000.00	1,000.00	12,444.00	3,001,000.00	4,812,444.00

合 計	二十八年度	二十九年度	三十年度	三十一年度
11,547,234,100.00	10,319,000,000.00	11,450,000,000.00	11,450,000,000.00	11,450,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
10,447,234,100.00	9,219,000,000.00	10,350,000,000.00	10,350,000,000.00	10,350,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
9,347,234,100.00	8,119,000,000.00	9,250,000,000.00	9,250,000,000.00	9,250,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
8,247,234,100.00	7,019,000,000.00	8,150,000,000.00	8,150,000,000.00	8,150,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
7,147,234,100.00	5,919,000,000.00	7,050,000,000.00	7,050,000,000.00	7,050,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
6,047,234,100.00	4,819,000,000.00	5,950,000,000.00	5,950,000,000.00	5,950,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
4,947,234,100.00	3,719,000,000.00	4,850,000,000.00	4,850,000,000.00	4,850,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
3,847,234,100.00	2,619,000,000.00	3,750,000,000.00	3,750,000,000.00	3,750,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
2,747,234,100.00	1,519,000,000.00	2,650,000,000.00	2,650,000,000.00	2,650,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
1,647,234,100.00	419,000,000.00	1,550,000,000.00	1,550,000,000.00	1,550,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
547,234,100.00	319,000,000.00	450,000,000.00	450,000,000.00	450,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00
1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00	1,100,000,000.00

備考

前表元金仕拂額ニ對スル備考第一項第二項ハ本表ノ利子ニ付テモ亦同シ
 二十四年度以降ノ手數料ニ英貨額ノ記載ナキハ本邦通貨ニ換算シタル元利金
 額ニ應シテ之ヲ支給セシニ由ル
 表中仕拂ノ金額ハ元金ニ同シ而シテ利子ハ元利混合濟崩法ニ據リ仕拂フモ
 ノナレハ其仕拂額ハ逐年遞減スヘキモノナレトモ本表仕拂高却テ年々増加ヲ
 示ス所以ハ過年度所屬ノ利子ヲ仕拂ヒタルト金貨ノ騰貴セシニ職由セリ
 十六年度手數料仕拂額ノ内ニハ東洋銀行ニ寄託セシ明治十七年七月拂元金英
 貨八萬八千二百磅ノ保護預ケ手數料英貨八百八十二磅即チ我銀貨ニ換算シテ
 四千八百貳拾四圓六拾壹錢五厘ノ仕拂高ヲ包含セリ
 十九年度以前ノ雜費ハ國債費ノ科目中ヨリ之ヲ支出セシト雖モ二十年以降ハ
 大藏省經費中ヨリ支出スルコト、爲リシヲ以テ本表ニハ單ニ其國債費ノ科目
 ニ屬セシモノ而已ヲ掲ク

茲ニ一言セサルヲ得サルモノアリ何ソヤ此公債ノ取扱人タル東洋銀行鎖店ノ事是レナリ

前ニ第一章ニ於テモ述ヘタルカ如ク同銀行破産ニ先タチ政府ハ豫メ其破産ノ變アランコトヲ慮
 リ此公債ノ十七年七月拂ノ元金英貨八萬八千二百磅即チ我銀貨ニ換算シテ四拾八萬千九拾圓九
 拾錢九厘ヲ特ニ保護預ケトナシタルヲ以テ其後破産ノ變ニ接シタルモ該元金ハ恙ナク之ヲ取戻
 シ第二ノ元利仕拂取扱店タル倫敦合本銀行ニ移スコトヲ得タリ然ルニ該鎖店ノ時ニ方リ此公債
 ノ明治七年一月拂以降十七年一月拂マテニ屬スル利金ノ内債主ノ未請求ニ係ルモノ英貨千百七
 十六磅即チ我銀貨ニ換算シテ六千五百八拾貳圓八拾五錢七厘アリ此金額ハ他日債主ノ請求ニ應
 シ仕拂ハサルヲ得サルモノナルヲ以テ當時東洋銀行へ委託シ置キシカ未タ保護預ケノ手續ヲ爲
 スノ違アラシテ忽チ鎖店ノ不幸ニ遭遇シ爲メニ一般ノ負債同様鎖店處分ノ割賦ヲ受クルノ止
 ムヲ得サルニ至レリ然レトモ債主ニ對シ未タ仕拂義務ヲ了ラサルモノナルヲ以テ同銀行ノ濟債
 處分終了マテハ引出シ得サルニ拘ラス利札所持人ニ對シテハ右濟債處分ノ配當ヲ俟タス之ヲ拂
 渡サ、ルヘカラス仍テ國庫常用金ノ内ヨリ一時繰換支出シ以テ橫濱正金銀行ニ交付シ債主ノ請
 求ニ應シテ之カ仕拂ヲ爲サシムルコト、爲シタリ而シテ右金額中英貨七百三十五磅即チ我銀貨
 ニ換算シテ四千百拾四圓貳拾八錢六厘ハ配當金トシテ二回ニ之ヲ受領シ殘額英貨四百四十一磅
 ハ尙ホ配當ヲ受クヘキモノナリト雖モ當ニ其配當ノ時日幾年ノ後ニ在ルヤ豫メ知ル可カラサル
 ノミナラス金額ヲ受領スルコトハ殆ト期シ難キニ由リ明治十九年三月ニ至リ其配當ヲ受クヘキ
 權利ヲ在倫敦新東洋銀行ニ讓與シ之カ報酬トシテ英貨三百二拾三磅八志(英金四百四十一磅ヨリ
 スニ對スル一割即七十三磅十志及四百四十一磅ニ對)即チ我銀貨ニ換算シテ千八百拾圓貳拾八錢六
 厘ヲ受領シタリ之ヲ前述ノ配當金ニ合算スルトキハ其總額英貨千五十八磅八志我銀貨ニ換算シ

タル額五千九百貳拾四圓五拾七錢貳厘ニシテ政府ハ該金額ヲ國庫ニ收入シ玆ニ東洋銀行ニ關スル公債元利金ノ處分ヲ完結シタリ

第三項 鐵道公債、事業公債及北海道鐵道公債

明治三十二年英國倫敦ニ於テ募集シタル鐵道公債、事業公債及北海道鐵道公債ノ元金ハ今尙ホ据置中ニ係ルヲ以テ未タ仕拂ヲ爲スノ場合ニ至ラスト雖モ利子ハ明治三十三年一月ヲ以テ第一回ノ仕拂期トシ爾後年々二回ニ仕拂ヲ爲ス可キモノナルカ故ニ大藏大臣ハ此第一回ニ於ケル仕拂基金トシテ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發シ之ヲ日本銀行ニ交付シタリ其金額ハ百九拾五萬貳千六百圓ニシテ即チ元金英貨千萬磅ニ對スル百分ノ四ノ半額英貨二十萬磅ノ換算額(換算相場英貨一磅ニ付金九圓七拾六錢)ナリトス而シテ此前渡金ハ未タ精算ヲ了セサルモノナリ

此公債ノ元利拂手數料ハ元利金ノ仕拂精算額ニ應シテ支給ス可キモノトス故ニ未タ該手數料ノ仕拂ヲ爲スニ至ラス

第三節 大藏省證券

第一款 仕拂ノ方法

大藏省證券ノ元利金ハ日本銀行本支店及代理店ニ於テ通貨ヲ以テ仕拂フモノニシテ證券所持人ハ仕拂期日ニ至リ其仕拂ヲ請求ス可キモノトシ若シ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六箇月ヲ過クルトキハ一切仕拂ヲ爲サス即チ政府ハ期滿免除トシテ仕拂ノ義務ヲ免カル、モノト爲シ且支拂期日

後ハ利子ヲ付セサルモノトセリ又取扱店ニ於テ元利金ヲ拂渡ストキハ受取人ヲシテ其證券ヲ提出セシメ之ト引換ニ仕拂ヲ爲スモノナリ

大藏省證券ノ利率ハ其時々之ヲ定ムルモノニシテ既往ノ實蹟ニ依レハ一箇年百分ノ五ヲ最高トシ百分ノ四ヲ最低トス而シテ其仕拂期限前ニ在リテ繰上ケ償還ヲ爲ス場合ニハ日割ヲ以テ利子ヲ付シ其計算ノ法ハ最初仕拂期ノ月數ヲ現日數ニ引直シ之ヲ以テ月數ニ相當スル利子額ヲ除シ以テ一日分ノ利子ヲ算出シ之ニ發行ヨリ償還マテノ現日數ヲ乘スルモノト定メタリ(預金局ニ於テ一時ニ多額ナル拂戻ノ請求ヲ受ケ其拂戻金ニ不足ヲ告クルトキハ期限前ト雖トモ元金ノ償還ヲ要スルコトアリ此場合ニ在リテハ償還ス可キ當日一日分ヲ控除シ前日マテノ日割利子ヲ交付セリ)大藏省證券ノ元利拂手數料ハ廣ク世上ニ賣却シタル本證券ニ對シテハ仕拂高ノ萬分ノ五又大藏省預金局ニ賣却シタル假證券ニ對シテハ仕拂高ノ萬分ノ二ノ割合ヲ以テ支給スルコト、定メ後明治二十三年三月ニ至リ日本銀行ニ對スル命任書ヲ改正スルニ及ヒ總テ發行及元利金ノ仕拂ヲ合セテ元利金仕拂高ノ萬分ノ五ヲ支給スルモノト爲セリ而シテ大藏省證券元利仕拂基金ノ整理及手數料支給ノ手續等ハ概ネ内國公債ノ例ニ同シ

第二款 仕拂ノ實況

大藏省證券ノ毎年度元利金及元利拂手數料支出ノ概況ハ左表ノ如シ

年 度	元金仕拂額	利子仕拂額	手 數 料	仕 拂 額	合 計
十 九 年 度	6,300,000.00	630,000.00	63,000.00	6,993,000.00	7,623,000.00
	六三〇〇〇〇〇〇	六三〇〇〇〇	六三〇〇〇	六九九三〇〇〇	七六二三〇〇〇
	6,300,000.00	630,000.00	63,000.00	6,993,000.00	7,623,000.00
	六三〇〇〇〇〇〇	六三〇〇〇〇	六三〇〇〇	六九九三〇〇〇	七六二三〇〇〇

年度	元金	仕拂額	利子仕拂額	合計
二十一年度	二八七〇〇,〇〇〇.〇〇	七〇六,九七〇.一三	五二二,一六八.九	九三三,八六八.一三
二十二年度	三〇九,〇〇〇,〇〇〇.〇〇	四〇六,七三八.一六	八〇,九四九	二,一三八,六一九.〇六五
合計	八七五,〇〇〇,〇〇〇.〇〇	一,一七六,一四三,三三六	四,七二七,五三三	一五,一三〇,七一九

四節 借入金

第一款 長期借入金

第一項 征討費借入金

第一 仕拂ノ方法

征討費借入金ノ元金及利子ハ大藏省ヨリ直接ニ債主タル第十五國立銀行ニ對シテ仕拂ヲナシタルモノニシテ其手續ハ一般ノ會計法規ニ遵フハ復タ言フ俟タサル所ナリ且ツ此ノ如ク直接ノ仕拂ニ係ルヲ以テ別ニ仕拂手数料ノ支給ヲ要スルコトナカリキ
此借入金ノ利子ハ毎年五月及十一月ノ兩度ニ仕拂フモノニシテ一箇年ニ滿タサル端數ハ三百六十五日(同十六日)ヲ以テ一箇年ノ日數トシ借入ノ現日數ニ應シ日歩ヲ以テ之ヲ計算スルコト、定メタリ

第二 仕拂ノ實況

征討費借入金ノ元金及利子ハ滿期償還ノトキ即チ明治三十年五月ニ於テ全部ノ完済ヲ告ケタルモノニシテ其毎年度元利金支出ノ概況ハ左表ノ如シ

年度	元金		利子仕拂額	合計
	償還	整理償還		
十一年度	〇	〇	四八八,三〇二.八一	四八八,三〇二.八一
十二年度	〇	〇	七二八,四〇七.二四	七二八,四〇七.二四
十三年度	〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	七五〇,〇〇〇.〇〇
十四年度	〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	七五〇,〇〇〇.〇〇
十五年度	〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	七五〇,〇〇〇.〇〇
十六年度	五,〇〇〇,〇〇〇.〇〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	五,七五〇,〇〇〇.〇〇
十七年度	〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	七五〇,〇〇〇.〇〇
十八年度	〇	〇	三,七五〇,〇〇〇.〇〇	三,七五〇,〇〇〇.〇〇
十九年度	〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	七五〇,〇〇〇.〇〇
二十年度	〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	七五〇,〇〇〇.〇〇
二十一年度	〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	七五〇,〇〇〇.〇〇
二十二年度	〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	七五〇,〇〇〇.〇〇
二十三年度	〇	〇	七五〇,〇〇〇.〇〇	七五〇,〇〇〇.〇〇

二十四年度	〇	〇	〇	〇	〇	四、七〇〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇
二十五年度	〇	〇	〇	〇	〇	四、七〇〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇
二十六年	〇	〇	〇	〇	〇	四、七〇〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇
二十七年	〇	〇	〇	〇	〇	四、七〇〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇
二十八年度	〇	〇	〇	〇	〇	四、七〇〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇
二十九年度	〇	〇	〇	〇	〇	四、七〇〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇
三十年度	〇	〇	〇	〇	〇	四、七〇〇、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇
合計	六、五〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇

前表十年度及十一年度ノ利子仕拂額ニ端數アルハ畢竟明治十年五月二十四日ヨリ翌十一年七月二十三日マテ四十二回ニ分割シテ元金ノ償還ヲ爲シタルノ結果亦利子ノ仕拂額ニ端數ヲ生セリ而シテ十八年度ハ前後ノ年度ニ比シ仕拂額ノ正半數ナルハ畢竟會計年度ノ改定アリタルニ職由セルモノニシテ又十六年度ニ於テハ元金五百萬圓ヲ償還スルト同時ニ利率ニ二分五厘ノ増加ヲ施セシヲ以テ結局利子ノ仕拂額ニ異動ヲ生スルコトナカリシナリ

第二項 紙幣銷却借入金

紙幣銷却借入金ハ無利子ナルヲ以テ利子仕拂ノ要ナク其元金ニ至ラモ未タ償還スルニ至ラサルヲ以テ之カ仕拂ヲ爲セルコトナシ

第二款 一時借入金

第一項 法律ノ規定ニ依ラサル一時借入金

第一 第八期以前ニ於ケル借入金

第一期及第二期ニ於テ借入レタル臨時借入金ノ利子總額ハ六拾八萬四千四百七拾參錢六厘ニシテ支拂ノ概況ハ左ノ如シ但シ元金ノ仕拂額ハ前述償還額ニ等シケレハ復タ敢テ贅セス以下ノ諸借入金ニ付テモ亦同シ

第一 期	一九七、六三六、七〇五
第二 期	二〇二、七二四、八八四
第三 期	一九五、九六三、三五六
第四 期	八四、〇八九、七九一
計	六八〇、四一五、七三六

其他一時繰換借入金ノ利子仕拂總額ハ四拾九萬六千八百五拾五圓七拾六錢七厘ニシテ其毎年度ニ於ケル仕拂額ハ左ノ如シ

第一 期	三二、六二五、九〇一
第二 期	二〇九、五二一、六六七
第三 期	一三一、〇七一、五八六
第四 期	二七、二〇〇、〇〇〇
計	二七、二〇〇、〇〇〇

第八期

計

九六、四三六、六一三
四九六、八五五、七六七

備考

第五期ニ於ケル支出額ノ前後ニ比シテ多額ナルハ本期會計ノ困難ナルニ際シ
銀行其他ヨリ一時ノ借入金ヲ以テ其急用ヲ支辨セシモノ頗ル巨額ナルニヨル
ナリ

第二 常用部不足金一時補充借入金

此借入金ノ利子ハ其初メ臨時歳出雜出ノ内雜件ノ科目ヲ以テ支出整理シタルモノナリシニ明治十八年度ニ至リ之ヲ國債費ニ移シタリ其明治十七年度臨時歳出雜出ノ内雜件ノ科目ヲ以テ支出シタル一時借入金利子ノ決算額ハ金拾七萬九千九百七拾五圓貳拾四錢七厘ニシテ十八年度以降國債費ヲ以テ支出シタル利子ノ決算額ハ七拾參萬參千五百貳拾八圓七拾錢貳厘ニシテ内十八年度ニ於テ六拾九萬貳千〇六拾貳圓貳拾九錢壹厘十九年度ニ於テ四萬千四百六拾六圓四拾壹錢壹厘ナリトス

第三 金祿公債償還金借入金

金祿公債償還金借入ノ内中山道鐵道公債募集金ヨリスルモノハ都テ利子ヲ付セサルコト、定メタレトモ其預金ヨリ借入レタルモノニ至テハ一面ニ在テ預金利殖ノ便ヲ圖ルニ出テタルモノナレハ之ニ相當ノ利子ヲ付セサルヘカラス而シテ此借入金ハ一割利付金祿公債償還ノ資ニ充ツルノ目的ヲ以テ成リタルカ故ニ當初ハ單ニ之ヲ標準トシ借入金ニ對スル利率モ亦一箇年一割ヲ仕

拂フヘキモノト爲シタリ當時預金局定規ノ預金利子ハ年六分ナリシヲ以テ之ヲ一割ト爲スハ專ラ預金利殖ノ爲メニ謀リテ益スル所決シテ鮮少ナラスト雖モ之ニ反シ一方常用部ニ於テハ一割利付ノ借入金ヲ以テ一割利付ノ公債ヲ償還スルモノナレハ纒ニ損失ナキノミニシテ毫モ得ル所ナク結局借入ノ效果ヲ見スシテ止マントス之ヲ財政ノ全局ヨリ觀ルトキハ敢テ巧妙ノ施措ト云フヘカラス是ニ於テ明治十九年二月九日ニ至リ此利率ヲ下シテ預金局定規ノ如ク一箇年六分ノ割合ニ改正セントノ議アリタルモ是レ亦一方ニ偏スルノ嫌ヒナキ能ハサルヲ以テ大藏大臣ハ折衷ノ意見ヲ容レ利率ヲ年九分ト定メ借入ノ當初ニ遡リテ之ヲ改ムルコトニ決裁シ國債局長心得ヲシテ之ヲ日本銀行ニ通達セシメタリ

又此借入金ノ利子ハ借入當日ヨリ返償ノ前日マテ之ヲ付スルモノトス而シテ實際明治十八年度歳出國債費豫算内ヨリ支辨シ日本銀行ニ交付シタル利子ノ決算額ハ金九萬七百貳拾六圓六錢六厘ニシテ即チ明治十八年十二月一日(借入日)ヨリ十九年三月三十日(返償日)ニ至ル百二十分ノ日割金額ナリトス

第四 陸軍軍用新式銃及彈藥製造費借入金

此借入金ノ利子ハ一箇年五分五厘トシ元金ノ償還ト同シク毎年度陸軍省經費豫算定額内ヲ以テ支辨シ九月三月兩度ニ仕拂フヘキモノナリ而シテ其各年度ニ於ケル此借入金利子ノ決算額ハ左表ノ如シ

年 度	金 額
十 八 年 度	五、四二八、五七二

十	九	年	度	一七、二八五、三六六	
二	十	年	度	四七、二八六、四二五	
二	十	一	年	度	七三、九〇三、二三六
二	十	二	年	度	二七、九三八、〇二五
合	計			一七一、八四一、六二四	

第五 假皇居御造營費借入金

假皇居御造營費借入金ノ利子ハ前ニ元金償還ノ部ニ於テ述ヘタルカ如ク二十年度分ハ二十一年度假皇居御造營費ノ款繰換金返納ノ項ニ於ケル豫算ヲ減額シテ之ヲ同年度國債費ノ款公債利子ノ項ヘ増額シ以テ支出セルモノナリ等テ二十二年度以降皇室費ニ五拾萬圓宛増額シタルヲ以テ右増額中ヨリ二十一年度分ノ利子ヲ仕拂ヒタリ而シテ翌二十三年度以降ニ於ケル二十二年法律第四號會計法ノ實施アルカ爲メ二十二年度ニ屬スル利子ハ同年度ノ末期即チ二十三年三月ニ於テ皇室費定額内ヨリ支出シタリ其各年度ニ於ケル利子支拂額ハ左ノ如シ

所屬年度	金	額	支	辨	費	目
二十	年	度	三、一〇八、二二〇	二十一年度國債費	(公債利子)	
二十一	年	度	三、四、五七、四、五五八	皇室費		
二十二	年	度	一〇、七、二二、五九六	同上		

第六 諸官衙及議院建築費借入金

此借入金ノ利子ハ一箇年五分ノ割合ヲ以テ借入ノ當日ヨリ返償ノ前日マテ之ヲ付スルモノト定

メ明治二十年年度國債費豫算定額内ヨリ支出シタルモノニシテ其決算額ハ六千參百圓五拾七錢七厘ナリ

第七 鐵道建設費借入金

此借入金ノ利子ハ一箇年五分ノ割合ヲ以テ借入ノ當日ヨリ返償ノ前日マテ之ヲ付スルモノト定メ明治二十一年年度國債費豫算定額内ヨリ之ヲ支辨シタルモノニシテ其決算額ハ四萬四千參百圓貳拾錢八厘ナリ

第二項 法律ノ規定ニ依ル一時借入金

第一 仕拂ノ方法

法律ノ規定ニ依ル一時借入金ノ元金及利子仕拂方法ハ一般ノ會計法規ニ於テ定メタル手續ニ遵ヒ直接ニ債主タル日本銀行若クハ臺灣銀行ニ對シテ仕拂フモノニシテ其臺灣銀行ニ交付スヘキモノハ便宜ヲ計リ大藏大臣ヨリ仕拂命令ノ發付ヲ臺灣總督ニ委任シタリ

右一時借入金ノ利子ハ當該年度歲出經常部國債ノ款ニ於ケル豫算定額内ヨリ支出スルモノニシテ年利ヲ以テ定メタルモノ、日割計算方ハ概テ一箇年ノ全日數ヲ法トシテ利子年額ヲ除シ以テ一日分ノ利子ヲ算出シ(不盡數ノ)之ニ借入ノ日ヨリ償還ノ日マテノ現日數ヲ乘シ四捨五入厘位ニ止ムルモノト爲シ又臺灣事業費繰換借入金ノ利子ハ月割トシテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡シ一箇月未滿ノ端數ニ對シテハ日割ヲ以テ之ヲ計算スルコト、定メタリ

第二 仕拂ノ實況

法律ニ依ル一時借入金ノ償還元金ニ對スル支出ノ實況ハ前ニ於テ敘述シタル償還ノ事歴ニ外ナ
ラサルヲ以テ今復タ之ヲ贅セス茲ニ進ンテ毎年度ノ利子仕拂額ヲ掲出シ以テ單ニ利子支出ノ概
況ノミヲ示サントス

明治二十七年法律第十六號一時借入金

利率	年 度					合 計
	二十七年	二十八年	二十九年	三十年	三十一年	
六分	〇	二〇一、八六三、〇一四	四〇五、六一六、四三八	〇	〇	六〇七、四七九、四五二
五分	二四、六五七、五三四	〇	〇	〇	〇	二四、六五七、五三四
二分	〇	〇	〇	四、六八四、九三三	〇	四、六八四、九三三
一分	〇	〇	〇	〇	三、九九〇、九九四	三、九九〇、九九四
計	二四、六五七、五三四	二〇一、八六三、〇一四	四〇五、六一六、四三八	四、六八四、九三三	三、九九〇、九九四	六七〇、八二二、九一一
日歩 貳錢參厘	八五、三六二、五三四	六、八八一、六〇〇	〇	〇	〇	九二、一七四、一三四
日歩 貳錢貳厘	〇	五五、二五四、三三〇	〇	〇	〇	五五、二五四、三三〇
計	八五、三六二、五三四	六二、一三三、五九二	〇	〇	〇	一四七、四九六、一三四
合 計	一一〇、〇二〇、〇六八	二六三、九九八、九三四	四〇五、六一六、四三八	四、六八四、九三三	三、九九〇、九九四	八一八、三一一、三六六

臨時軍事費借入金

年 度	二十七年法律第二十五號ニ據ル (年利五分)		二十八年法律第八號ニ據ル分 (年利六分)		合 計
	二十七年	二十八年	二十九年	三十年	
二十七年	三〇四、三八三、五六二	〇	〇	〇	三〇四、三八三、五六二
二十八年	五〇五、二七三、九七二	四〇、六八四、九三一	〇	〇	五四五、九五八、九〇三
二十九年	一四四、三六五、七五三	三五九、五四九、五八七	〇	〇	五〇三、九一五、三四〇
合 計	九五四、〇二二、二八七	四〇〇、二三四、五一一	〇	〇	一、三五四、二五七、八〇五

右ノ外償金預ケ合借入金ノ利子ハ二十九年年度ニ於テ六拾壹萬貳千四拾五圓六錢四厘臺灣事業費
繰換借入金ノ利子ハ三十二年年度ニ於テ貳萬參千參百參拾參圓參拾參錢參厘ヲ支出シタリ而シテ
其償金預ケ合借入金ノ利子ニ就キテハ尙ホ茲ニ一事ノ敘述ス可キモノアリ抑此借入金ハ預ケ合
即チ貸借勘定ノ組成ニ因ルモノナレハ貸借共ニ利子ヲ付スルノ必要ナキニ似タリト雖モ預ケ合
ノ方法トシテ日本銀行ヨリ發行ス可キ兌換銀行券ノ製造ト其取扱トニ付テハ多少ノ出費ナキニ
アラサルヲ以テ政府ハ明治二十九年五月第一回ノ預ケ合ヲ開始スルニ當リ其製造費及其取扱手
數料ニ充ツルノ目的ヲ以テ預ケ合ニ對シテハ一箇年百分ノ一借入ニ對シテハ一箇年百分ノ二ノ
利子ヲ付シ其差額百分ノ一ハ日本銀行ノ所得ニ歸セシムルコト、定メタリ然ルニ明治三十年一
月一日以降ハ之ヲ廢シテ預ケ合及借入トモ雙方利子ヲ付セサルコト、爲セリ蓋シ預ケ合開始以
來已ニ半箇年餘ヲ經過シ右等ノ費用ハ此間ノ利子ノ差ニ由リ十分ニ之ヲ償フテ餘アルヘキヲ認
メタレハナリ又第二回以後ノ預ケ合ハ總テ貸借共ニ無利子ト爲シタリ

第五節 國債費決算額

國債費トハ内國債ト外國債トヲ問ハス國債償還元金及利息ノ支出其他取扱銀行ニ支給スル手数料及雜費ヲ總稱スルモノナリ然レトモ維新以來毎會計年度ニ於ケル歳入出科目ノ編制ハ年々多少ノ變遷アリテ其沿革一ナラス而シテ高利國債借換整理ノ爲メニセシ償還元金ノ如キハ明治二十年年度以降ニ於テ整理公債金ヲ以テ支辨シタルモノニシテ即國庫中特別ノ會計ニ屬シ茲ニ所謂國債費ニ包含セラレサルモノトス凡ソ國債費ナルモノハ一般會計歳出經常部中ノ大科目ニシテ右借換ニ係ル償還元金ヲ除キタル通常償還ノ元金ト國債ノ利息及元利拂手數料トハ常ニ此科目ニ屬シ外ニ補助紙幣銷却基金ト預金利息ノ如キモ明治二十三年年度以降ハ亦此國債費ニ編入シ二十年年度以降證券取扱手數料ヲ日本銀行ニ支給スルニ方リテハ亦之ヲ國債ノ款公債元利及手數料ノ項中ナル一目トナシテ支出整理セリ又所謂雜費ナル科目ハ一層其畫一ヲ缺キタルモノアリテ内國債雜費ノ名稱ハ十四年度ヨリ始マリ之カ實質ハ十四年度ニ在リテハ元利拂手數料ニシテ十五年年度以降ハ廣告料ナリトス而シテ外國債雜費ハ八年度ニ起リ十九年度マテハ國債費ニ屬セシカ二十年年度以降内國債ノ雜費(元利拂手數料ヲ除キタルモノ)内國債ノ雜費ハ十九年度以降ト共ニ國債ノ款外ニ分離シテ大藏本省ノ款中ニ隸屬スルコト、爲リタリ以上ノ事實ナルニ由リ前後連綿約三十年間國債費ナル一大科目ノ實質ハ稍雜駁ニ涉リ其内容時ニ或ハ伸縮シ終始一樣ナラサルハ勿論其決算額算定ノ方法モ會計法規ノ沿革ニ伴ヒ幾多ノ變遷ヲ經タリ是ヲ以テ前各章中ニ掲出シタル元利金元利拂手數料及雜費ノ仕拂額ハ必スシモ悉ク其決算額ト一致符合セサルモノアリ茲ニ國債費ノ全體ニ就キ明治三十二年年度以前ノ各年度ニ於ケル決算ノ要領ヲ表出スルコト左ノ如シ

年度	元利金	元利拂手數料	雜費	合計
明治三十二年
明治三十一年
明治三十年
明治二十九年
明治二十八年
明治二十七年
明治二十六年
明治二十五年
明治二十四年
明治二十三年
明治二十二年
明治二十一年
明治二十年
明治十九年
明治十八年
明治十七年
明治十六年
明治十五年
明治十四年
明治十三年
明治十二年
明治十一年
明治十年
明治九年
明治八年
明治七年
明治六年
明治五年
明治四年
明治三年
明治二年
明治元年

年 度	元				金			
	公 内	債 債	入 入	計 計	外 外	債 債	入 入	計 計
八 期 間	六九二,三三〇,〇〇〇			一,六九〇,三三〇,〇〇〇			一,六九〇,三三〇,〇〇〇	
八 年 度	六四八,〇〇〇,〇〇〇			七四八,〇〇〇,〇〇〇			七四八,〇〇〇,〇〇〇	
九 年 度	一,一六七,七二六,一〇〇			七三三,九二一,〇〇〇			一,九〇一,六四七,一〇〇	
十 年 度	一,〇〇九,〇六四,〇〇〇			八二八,四八三,五三三			一,八三七,五四七,五三三	
十 一 年 度	二,七〇〇,六五七,一六八			九二二,四〇〇,六五七			三,六二三,〇五八,八二五	
十 二 年 度	二,七八一,七〇〇,一六五			九八八,六七四,六二六			三,八三四,三七七,七九一	
十 三 年 度	二,九八一,三六一,六六五			一,一五八,九二九,三七三			四,一四〇,二九一,〇三七	
十 四 年 度	二,一〇〇,六七〇,一一一			九五二,四七〇,五八八			三,〇五三,一四一,六九九	
十 五 年 度	四,五六五,九七六,一六六			四五二,五七二,四二九			五,〇一八,五四八,五九九	
十 六 年 度	五,〇一七,四三三,一一七			四八一,〇九〇,九〇九			五,四九八,五二四,〇二六	
十 七 年 度	三,八六七,六四一,四〇九						三,八六七,六四一,四〇九	
十 八 年 度	四,六三一,二七五,五〇〇			五二六,一五九,二九二			五,一四七,四三〇,七九二	
十 九 年 度	七,三〇三,三三六,八七九			五九八,八〇〇,〇〇〇			七,九〇二,一三六,八七九	
二 十 年 度	五,〇五六,一六〇,五八八			六六五,一一五,〇〇三			五,七二一,二七五,五九一	
二 一 年 度	二,六六六,五三二,二八九			七四三,三三三,九五〇			三,四一〇,〇六五,二三九	
二 二 年 度	二,九四七,一一一,九一〇			八〇四,五九六,九七六			三,七五二,〇〇八,八八六	
二 三 年 度	二,九四九,一一一,〇〇〇			八三七,八八八,四〇〇			三,八三六,〇〇〇,四〇〇	
二 四 年 度	一,六五一,四四四,五九〇			八三六,四四五,九〇八			二,四八七,八九〇,四九八	
二 五 年 度	一,四七五,六四六,〇〇〇			一,〇四〇,三九四,六九一			二,五一六,〇四〇,六九一	
二 六 年 度	三,六七五,一一二,五〇〇			一,二〇七,六〇〇,五六七			四,八八二,八一〇,一六七	
二 七 年 度	三,一六四,七〇一,五〇〇			一,五九七,八二一,八九〇			四,七六二,五二三,三九〇	
二 八 年 度	四,〇八五,〇七九,九〇〇			一,九四一,〇六七,四二九			六,〇二六,〇四七,三二九	
二 九 年 度	七,一五〇,二六三,四〇〇			一,八〇三,三七一,九六〇			八,九五三,六四五,三六〇	
三 十 年 度	六,九四八,八六二,一〇〇			四六〇,〇九〇,一〇二			八,四〇八,九五二,二〇二	
三 十 一 年 度	七,六〇二,九二二,三三〇			一,五五二,一六三,八			九,一五五,〇八六,一三八	
合 計	八二,三四九,四四四,五九二			三三三,〇〇三,五六六,〇二四			一一五,三五二,〇一〇,六一六	

備考
預金利子ノ内ニハ其仕拂手数料ヲ、借入金利子ノ内ニハ一時立換金利子ヲ

計	利										子										料										費																																																																																		
	公債					外債					公債					外債					手					外債					手																																																																																		
二二八〇、五〇四、九七八	二一、三〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一一、〇〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇	一九、〇〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	二一、〇〇〇、〇〇〇	二二、〇〇〇、〇〇〇	二三、〇〇〇、〇〇〇	二四、〇〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇、〇〇〇	二六、〇〇〇、〇〇〇	二七、〇〇〇、〇〇〇	二八、〇〇〇、〇〇〇	二九、〇〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇	三一、〇〇〇、〇〇〇	三二、〇〇〇、〇〇〇	三三、〇〇〇、〇〇〇	三四、〇〇〇、〇〇〇	三五、〇〇〇、〇〇〇	三六、〇〇〇、〇〇〇	三七、〇〇〇、〇〇〇	三八、〇〇〇、〇〇〇	三九、〇〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇、〇〇〇	四一、〇〇〇、〇〇〇	四二、〇〇〇、〇〇〇	四三、〇〇〇、〇〇〇	四四、〇〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇、〇〇〇	四六、〇〇〇、〇〇〇	四七、〇〇〇、〇〇〇	四八、〇〇〇、〇〇〇	四九、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	五一、〇〇〇、〇〇〇	五二、〇〇〇、〇〇〇	五三、〇〇〇、〇〇〇	五四、〇〇〇、〇〇〇	五五、〇〇〇、〇〇〇	五六、〇〇〇、〇〇〇	五七、〇〇〇、〇〇〇	五八、〇〇〇、〇〇〇	五九、〇〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇、〇〇〇	六一、〇〇〇、〇〇〇	六二、〇〇〇、〇〇〇	六三、〇〇〇、〇〇〇	六四、〇〇〇、〇〇〇	六五、〇〇〇、〇〇〇	六六、〇〇〇、〇〇〇	六七、〇〇〇、〇〇〇	六八、〇〇〇、〇〇〇	六九、〇〇〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇、〇〇〇	七一、〇〇〇、〇〇〇	七二、〇〇〇、〇〇〇	七三、〇〇〇、〇〇〇	七四、〇〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇、〇〇〇	七六、〇〇〇、〇〇〇	七七、〇〇〇、〇〇〇	七八、〇〇〇、〇〇〇	七九、〇〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇、〇〇〇	八一、〇〇〇、〇〇〇	八二、〇〇〇、〇〇〇	八三、〇〇〇、〇〇〇	八四、〇〇〇、〇〇〇	八五、〇〇〇、〇〇〇	八六、〇〇〇、〇〇〇	八七、〇〇〇、〇〇〇	八八、〇〇〇、〇〇〇	八九、〇〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇、〇〇〇	九一、〇〇〇、〇〇〇	九二、〇〇〇、〇〇〇	九三、〇〇〇、〇〇〇	九四、〇〇〇、〇〇〇	九五、〇〇〇、〇〇〇	九六、〇〇〇、〇〇〇	九七、〇〇〇、〇〇〇	九八、〇〇〇、〇〇〇	九九、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

一、時立換金利率ノ包含ス

計	以上合計	利紙 子帶 及銷 金並 公債 預金 入	總 計	△前 年 度 ヨリ 繰 上 り 額	國庫 決算 額
六九二四八三八	八七二、九三六、八三二	〇	八、七二、九三六、八三二	〇	八、七二、九三六、八三二
八四四、三三九	四、六四五、三〇一、七六二	〇	四、六四五、三〇一、七六二	〇	四、六四五、三〇一、七六二
九四二、〇三四	四、九五〇、七九七、一四七	〇	四、九五〇、七九七、一四七	〇	四、九五〇、七九七、一四七
九五一、一五〇	一、六七七、四九七、七五二	〇	一、六七七、四九七、七五二	〇	一、六七七、四九七、七五二
九八六、九五二	一、九四七、三九五、〇三八〇	〇	一、九四七、三九五、〇三八〇	〇	一、九四七、三九五、〇三八〇
八七一、五七九	一、九七四、九六五、二七六二	〇	一、九七四、九六五、二七六二	〇	一、九七四、九六五、二七六二
二四九、九八八	二、〇四二、〇五七、三三〇四	〇	二、〇四二、〇五七、三三〇四	〇	二、〇四二、〇五七、三三〇四
二二二、五五二	二、〇六六、二二一、〇六一	〇	二、〇六六、二二一、〇六一	〇	二、〇六六、二二一、〇六一
六六八、八五二	二、〇一〇、七五〇、〇〇七	〇	二、〇一〇、七五〇、〇〇七	〇	二、〇一〇、七五〇、〇〇七
五六一、六六八	二、一五三、八八八、三五三	〇	二、一五三、八八八、三五三	〇	二、一五三、八八八、三五三
六六〇、三三三	一、八九三、〇八八、五二四	〇	一、八九三、〇八八、五二四	〇	一、八九三、〇八八、五二四
六六二、五三三	二、〇四〇、二二二、四八〇	〇	二、〇四〇、二二二、四八〇	〇	二、〇四〇、二二二、四八〇
四五五、九三三	二、〇四二、三三三、三三三	〇	二、〇四二、三三三、三三三	〇	二、〇四二、三三三、三三三
六〇〇、五八六	二、〇二二、五九二、〇二七	〇	二、〇二二、五九二、〇二七	〇	二、〇二二、五九二、〇二七
一〇一、七九九	二、〇七二、七八三、九四八	〇	二、〇七二、七八三、九四八	〇	二、〇七二、七八三、九四八
一四四、〇〇〇	一、八三六、二一〇、一八一	〇	一、八三六、二一〇、一八一	〇	一、八三六、二一〇、一八一
一四四、〇〇六	一、八三三、三三三、三六三	〇	一、八三三、三三三、三六三	〇	一、八三三、三三三、三六三
一五三、三九九	一、六八八、一五七、〇二六	〇	一、六八八、一五七、〇二六	〇	一、六八八、一五七、〇二六
二八〇、〇八七	一、六五八、四六五、八六〇	〇	一、六五八、四六五、八六〇	〇	一、六五八、四六五、八六〇
一八七、九九七	一、七五三、二六二、〇二〇	〇	一、七五三、二六二、〇二〇	〇	一、七五三、二六二、〇二〇
一〇一、五九九七	一、七六八、二九七、九〇七	〇	一、七六八、二九七、九〇七	〇	一、七六八、二九七、九〇七
六九九、〇七四	二、三三二、一一九、二二五	〇	二、三三二、一一九、二二五	〇	二、三三二、一一九、二二五
六九七、四三三	二、七、九五三、六五六、八〇五	〇	二、七、九五三、六五六、八〇五	〇	二、七、九五三、六五六、八〇五
七九二、三〇三	二、七二六、四三三、八七二〇	〇	二、七二六、四三三、八七二〇	〇	二、七二六、四三三、八七二〇
六八七、〇〇七	二、七二七、九一八、一一〇	〇	二、七二七、九一八、一一〇	〇	二、七二七、九一八、一一〇
一七七、六五三	四、七〇、七三三、九四三、三三三	〇	四、七〇、七三三、九四三、三三三	〇	四、七〇、七三三、九四三、三三三

(△印ハ米價)

抑、毎年度國債費決算額ノ多寡及之ニ對スル國民負擔額ノ増減如何又此決算額ヲ以テ之ヲ國家ノ歳入ニ比較シ若クハ經常歳出ノ決算額ニ對照シテ其歩合如何ノ狀況ヲ稽フルハ亦敢テ無益ノ業ニアラサルヘシ因テ左ニ二表ヲ掲ケ以テ其狀況ヲ知ルニ便セントス

第一表

年 度	決 算 額	全 國 人 口	平均一人負擔額
四 年 期	四三九、三三六、九五七	三三、一一〇、八二五	〇・一三
五 年 期	四三九、三三六、九五七	三三、三〇〇、六七五	〇・一三
六 年 期	二、九九六、〇三八、九九四	三三、六二五、六七八	〇・八九
七 年 期	三、二五四、一四〇、三三一	三三、九九七、四四九	〇・九六
八 年 期	一、五九三、〇八三、五九二	三四、三三八、四〇四	〇・四六
八 年 度	四、六四五、三〇一、七六二	三四、三三八、四〇四	一・三五
九 年 度	四、九五〇、七九七、一四七	三四、六二八、三二八	一・四三
十 年 度	一六、七七四、九二七、五二一	三四、八九八、五四〇	四・八一
十 一 年 度	二六、六四〇、一三六、三八〇	三五、七六八、五八四	七・四五
十 二 年 度	二一、七四九、六五二、七六二	三五、九二九、〇六〇	六・〇五
十 三 年 度	二二、四二〇、五七二、五〇四	三六、三五八、九九四	六・一七
十 四 年 度	二七、七四七、一二二、七一五	三六、七〇〇、一一八	七・五六

第九編 國債 第十章 償還

年 度	償還額	平均一人負擔額
四 年 期	四三九、三三六、九五七	〇・一三
五 年 期	四三九、三三六、九五七	〇・一三
六 年 期	二、九九六、〇三八、九九四	〇・八九
七 年 期	三、二五四、一四〇、三三一	〇・九六
八 年 期	一、五九三、〇八三、五九二	〇・四六
八 年 度	四、六四五、三〇一、七六二	一・三五
九 年 度	四、九五〇、七九七、一四七	一・四三
十 年 度	一六、七七四、九二七、五二一	四・八一
十 一 年 度	二六、六四〇、一三六、三八〇	七・四五
十 二 年 度	二一、七四九、六五二、七六二	六・〇五
十 三 年 度	二二、四二〇、五七二、五〇四	六・一七
十 四 年 度	二七、七四七、一二二、七一五	七・五六

十五年年度	二、三、四一四、九六一・一九二	三七、〇一七、三〇三	六三三
十六年度	二、八、六五八、三〇二・五三三	三七、四五一、七六四	七六五
十七年度	一、九、八一六、六一五・三三三	三七、八六八、九八七	五二三
十八年度	一、四、一〇一、三七七・四六二	三八、一五一、二一七	三三〇
十九年度	二、四、〇九〇、六一一・三三二	三八、五〇七、一七七	六二六
二十年度	二、一、四一九、六九〇・一六七	三九、〇六九、六九一	五四八
二十一年度	二、〇、七一一、七八三・九四八	三九、六〇七、二三四	五二三
二十二年度	一、八、三六二、一一〇・一八一	四〇、〇七二、〇二〇	四五八
二十三年度	二、〇、三二七、九三二・二四二	四〇、四五三、四六一	五〇二
二十四年度	一、八、五一五、七九九・四九六	四〇、七一八、六七七	四五五
二十五年度	一、八、五二七、一六七・八八四	四一、〇八九、九四〇	四五一
二十六年度	一、九、四五五、九一七・九二六	四一、三八八、三一三	四七〇
二十七年年度	一、九、七二二、一四二・五四五	四二、八一〇、二〇二	四七二
二十八年度	二、四、一九〇、八五七・八四二	四二、二七〇、六二〇	五七二
二十九年度	三、〇、五〇四、一七二・二八九	四二、七〇八、二六四	七一四
三十年度	二、九、五〇四、七三二・三二七	四五、六八四、二一六	六四六
三十一年度	二、八、三七九、八二七・五八九	四六、二八八、二二二	四五六
三十二年年度	三、四、二七八、九五五・六一三	四六、八八一、八〇〇	七三一

備考

本表人口ハ第一章第三節中ニ掲載シタルモノニ同シ

第二表

年 度	國債費決算額	歳入決算額	經常歳出決算額	歳入ニ比シ	經常歳出ニ比シ
十四年度	二、七、七四七、二二七・七二五	七、一、四八九、八八〇・三七三	六、〇、四二二、七〇九・八二三	・三八八一	・四九九
十三年度	二、二、四三〇、五七二・五〇四	六、二、二六七、二五四・四五三	六、〇、〇九七、三三二・八二三	・三五三八	・三七七八
十二年度	二、一、七四九、六五二・七六二	六、二、一五一、七五一・五二四	五、九、二〇五、五二八・六二二	・三四九九	・三九四〇
十一年度	二、六、六四〇、一三六・三八〇	六、二、四四三、七四九・四〇三	五、五、九八六、七〇九・六六一	・四二六六	・四七五八
十年年度	一、六、七七四、九二七・五二一	五、二、三三八、一三三・八六六	四、五、三三四、四二一・五五四七	・三三〇五	・三六九九
九年年度	四、九、五〇、七九七・二四七	五、九、四八一、〇三六・一八四	五、六、八一五、三三三・九九一	・〇八三三	・〇八七一
八年度	四、六、四四五、三〇一・七六二	六、九、四八二、九七六・五六〇	五、六、六二二、〇三七・四九四	・〇六六九	・〇八二二
八年度 期	一、五、九三三、〇八三・五九二	八、六、三三二、〇七七・〇五七	五、二、八四二、三三七・八四四	・〇一八五	・〇三〇〇
七年度 期	三、二、五四一、四〇〇・三三二	七、三、四四五、五四三・八九三	六、〇、〇〇一、九一六・四二四	・〇四三三	・〇四五一
六年度 期	二、九、九六、〇三八・九九四	八、五、五〇七、三三四・六二四	五、〇、六二九、五五二・四二七	・〇三五〇	・〇五九九
五年度 期	四、三、九三三、六九五・七	五、〇、四四四、一七二・九六九	四、二、四七四、九一八・九一一	・〇〇八七	・〇一〇一
四年度 期	四、三、九三三、六九五・七	二、二、一四四、七九七・〇〇四	二、二、三三六、八二二・四七三	・〇一九八	・〇三九九

十五年	二、四一四、九六一、一九二	七、三五〇、八四二、七一一	五九、七五〇、七二六、八六二	二、一八五	二、一九一
十六年	二、八六五、八三三、五三三	八、三二〇、六八八、五六一	六七、九一四、七六、四九九	二、四四八	二、四三〇
十七年	二、九八一、九六一、五三三	七、六六六、六六五、七五二	六〇、七二四、五五、四六〇	二、五八五	二、三六四
十八年	二、四一〇、一七、七、四六二	六、二一五、六八三、四七七	四七、六四三、〇三六、七四六	二、三六九	二、九六〇
十九年	二、四〇〇、九六一、三三三	八、五三三、六一、四三、九四九	八二、三九四、一九五、三五六	二、八二二	二、九二四
二十年	二、二四一、九六九、〇一七	八、八一六、一〇七、四〇〇	七八、一五〇、一〇、九三〇	二、四三〇	二、七四一
二十一年	二、〇七二、七七八、三、九四八	九、二九五、六九三、四一五	七八、七三六、六九五、四四〇	二、三二九	二、六三二
二十二年	二、八三六、三二、一〇、一八一	九、六八七、九七九、〇四三	六三、七八五、五八、五五五	二、八九九	二、八七九
二十三年	二、八三二、七九三、三、四二二	一〇、六四六、九三三、七三三	六六、七五二、四三、一五八	二、九〇八	二、〇四四
二十四年	二、八五一、五七九、九、四九六	一〇、三三三、一四八、六八六	六二、九三六、一一、九四六	二、七九四	二、九四二
二十五年	二、八五一、七二六、八、八四四	一〇、一〇六、九二、〇八五	六二、八一八、〇二九、九〇五	二、八二五	二、九〇二
二十六年	二、九四五、五九一、七、九二六	一一、三三六、九三、八、五四一	六四、五四九、五九、八、九一一	二、七一〇	二、〇一四
二十七年	二、九七二、二二、四、五、四四五	九、八一七、〇〇、二、八〇二、〇	六〇、四二二、三三、五、七六八	二、〇〇九	二、三六四
二十八年	二、四一九、〇八五、七、八四二	一一、八四三、七二〇、五五四	六七、一四八、〇〇、七、八〇	二、〇四三	二、六〇〇
二十九年	二、〇五〇、四一七、二、八八九	一、八七〇、九、四、三、三、〇一	一〇〇、七二二、八、一、六、四九八	二、六三二	二、八四七
三十年	二、九五〇、四七三、三、三三七	二、三六三、九〇、三、三、〇一	一〇七、六九五、二、七、〇一五	二、三〇三	二、七四〇
三十一年	二、八三七、九八二、七、五八九	二、三〇〇、五、四、二、七、〇一六	一一九、〇七三、一、四、四、三、九	二、二九〇	二、三八三
三十二年	二、四二七、八九五、六、一三三	二、五四二、五、四、二、三、三三	一三七、五九〇、四、一、七、七、三六	二、三三八	二、四九九

合計

五、四七六、二二、四〇四、四九二、九四六、四四九、一〇、三、二、二、九〇八、六五、四、四、七、三、二、五、三

二、一八五九

二、二八六九

備考

八年度及九年度ハ決算上經常臨時ノ區別ヲ爲サ、リシニ由リ十年度決算報告書中對比表ニ據リ經常歳出決算額ヲ掲ク又十九年度ヨリ二十一年度マテノ三箇年度モ經常臨時ノ別ナキヲ以テ本表ニハ第一部乃至第三部歳出ノ決算額ヲ以テ經常歳出ト看做シテ掲上セリ

第十章 明治三十三年度ヨリ同三十五年末ニ至ル

國債沿革大要

第一節 公債

第一款 舊公債

舊公債ハ毎年十二月ニ一定ノ賦金額即チ貳拾壹萬九千四百五拾四圓五拾錢ヲ償還スヘキモノナルコト前ニ述フルカ如シ從テ明治三十三年度以降同三十五年末マテノ償還金額ハ六拾五萬八千參百六拾參圓五拾錢ニシテ明治三十二年度マテノ償還濟額ノ累計六百拾四萬四千七百貳拾六圓ナルヲ以テ明治三十五年末ニ於ケル現在未償還額ハ四百拾六萬九千六百參拾五圓五拾錢ナリトス

第二款 金祿公債

金祿公債ニ就キテハ明治三十五年五月抽籤方法ニ依リテ百貳拾九萬九千七百六拾圓ヲ償還セリ故ニ明治三十五年末ニ於ケル未償還額ハ貳千四百拾貳萬八千八百九拾圓ナリトス

第三款 整理公債

整理公債ニ就キテハ明治三十五年五月抽籤ニ依リテ九拾九萬七千百圓同年八月買入ニ依リテ參

拾六萬五拾圓此買入價格八拾七圓七拾錢乃至九拾圓參拾錢買入代金參拾貳萬百九拾四圓五拾五錢合計百參拾五萬七千五百五拾圓ヲ償還セリ從テ明治三十五年末ニ於ケル未償還額ハ壹億六千七百參拾參萬六千四百五拾圓ナリトス

第四款 鐵道公債

第一 鐵道公債ノ條規

鐵道敷設法ニ於テハ鐵道公債ノ募集總額ヲ六千萬圓ト豫定シ之カ募集ヲ十二箇年ニ限リタリト雖モ爾後鐵道建設費ノ豫算漸次増加シタルカ爲メ其募集額ニ不足ヲ告クルニ至レリ且ツ公債ノ募集額ハ事業費支出ノ年割額ニ伴フモノニシテ該年割額ハ豫算ニ於テ別ニ之ヲ定ムルカ故ニ法律上特ニ年限ヲ規定スルノ必要ナシ是ヲ以テ政府ハ鐵道敷設法中公債募集豫定額ヲ増加シテ九千五百萬圓ト爲シ且其募集年限ヲ廢止スルノ必要ヲ認メ明治三十四年四月二日之カ改正法律ヲ公布セリ法律第十九號即チ是レナリ

法律第十九號 (明治三十四年四月二日)

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第九條中「金六千萬圓」ヲ「金九千五百萬圓」ニ改メ明治二十六年度ヨリ十二箇年間ニテ割ル抑鐵道公債ハ明治二十七八年事件以來戰後經營ノ必要ニ由リ起レル事業公債及ヒ北海道鐵道敷設ノ爲メニセル北海道鐵道公債ト相駢ヒテ近時數年間ニ募集スヘキ計畫ニ屬スルモノナリト雖モ概近内國經濟界ノ狀況ハ萎靡不振ニシテ金融逼迫シ資金ノ供給ハ常ニ事業ノ振興ニ隨伴スル

コト能ハス隨テ公債募集ノコトタル比年最モ困難ヲ極メタリ是ニ於テ政府ハ金融ヲ緩和シ以テ經濟及財政ノ整理ヲ完クスルノ急要ヲ察シ明治三十三年北清事變ノ後新ニ増稅ノ計畫ヲ立テ該財源ニヨリテ這般ノ事件ニ關スル臨時費用ヲ支辨スルノ外其一部分ヲ割キテ臨時ニ公債ヲ償還シ一面ニハ之ヲ以テ公債募集ニ代ヘテ各般事業費ノ需要ヲ充タサンコトヲ圖リ明治三十五年二月十四日法律第五號ヲ以テ鐵道敷設法中ニ改正ヲ加ヘ鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ニ依ル外財政ノ都合ニ依リ他ノ歲入ヲ以テ之ニ充ツルヲ得ルモノトセリ

法律第五號 (明治三十五年二月十四日)

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ財政ノ都合ニ依リ他ノ歲入ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第九條中「公債ヲ募集スヘシ」ヲ「公債ヲ募集スルコトヲ得」ニ改ム

又鐵道線路ニ關シ明治三十五年三月二十四日法律第三十二號ヲ以テ鐵道敷設法ヲ追加セリ

法律第三十二號 (明治三十五年三月二十四日)

第七條第一項中第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

- 一 北陸豫定線ノ内京都府下舞鶴ヨリ福井縣下小濱ヲ經テ敦賀ニ至ル鐵道中舞鶴ヨリ餘部ニ至ル鐵道

同條第一項中第八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

- 一 山陰山陽連絡豫定線ノ内兵庫縣下姫路ヨリ生野若ハ笹山ヲ經テ京都府下舞鶴又ハ國部

ニ至ル鐵道若ハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道中福知山ヨリ綾部ニ至ル鐵道

第二 鐵道公債ノ起債

明治三十三年度ニ於テ鐵道建設費年割豫算ノ定ムル所ニ從ヒ公債千貳百八拾五萬參千圓ノ募集ヲ要セシト雖モ我國市場ノ景況ハ公債ノ募集ニ便ナラサルコト依然トシテ前年ニ異ナルコトナシ爲メニ鐵道建設費ノ支出ニ對シテハ一時國庫在金ヲ繰換ヘ使用セシカ途ニ年度末ニ至リ國債費豫算定額内ヲ以テ國庫預金部所有ノ大日本帝國政府五分利公債證書券面金額九百五拾五萬六千貳百五拾圓(公債)ヲ買入レ銷却シ同時ニ同額ノ證券ヲ發行シテ日本銀行ニ交付シ直ニ之ヲ該預金部ニ購入シタリ次テ明治三十四年度ニ於テモ國庫預金部所有ノ證券ヲ買入銷却シ其代金ト同部ニ於ケル他ノ餘裕金トヲ併セテ發行代金ニ充用シ同年度募集豫定額千七百貳拾四萬六千七百五拾圓ノ内前後二回券面金額合計千參百五拾壹萬八千五百五拾圓ヲ發行シタリ鐵道公債ハ明治三十八年度ニ於テ全部ノ起債ヲ終ルヘキ豫定ナリシカ明治三十五年度ニ至リ玆ニ一段落ヲ告クルニ至レリ即チ曩ニ鐵道敷設法及北海道鐵道敷設法ノ中ニ一ノ改正ヲ加ヘ是等鐵道事業ノ費用ハ公債募集金ノ外他ノ歲入ヲ以テ支辨シ得ルモノト定ムルヤ其結果明治三十五年度以降ハ是等兩公債及事業公債ハ總テ之カ募集ヲナサ、ルコト、決シタリ然ルニ鐵道公債ハ起債ノ創始即チ明治二十六年度以降三十四年度迄ニ公債ニ依リテ得タル實收額ハ金五千貳百九拾五萬四千九百八拾壹圓參拾參錢九厘(四分利付英貨公債)ニシテ之ヲ此九箇年度間ノ募集豫定額即チ鐵道建設費年割豫算ノ合計金六千貳百拾八萬八千貳拾圓ニ對比スレハ尙ホ金九百貳拾參萬

參千參拾八圓六拾六錢壹厘ノ不足ヲ見ル而シテ該實收額中ニハ四分利付英貨公債募集費ニ充用シタルモノ金拾壹萬貳千八百七拾九圓九拾四錢八厘アリ又年割豫算額中ニハ不用額金參百九拾參圓參拾壹錢七厘アルヲ以テ結局供給不足額ハ金九百參拾四萬五千五百貳拾五圓貳拾九錢貳厘トナルノ計算トス依テ大藏大臣ハ翌三十五年度ニ入り九月三十日ニ於テ國庫預金部ニ對シテ大日本帝國政府五分利公債證書券面金額四百萬圓ヲ發行シタリ而シテ其殘額ハ年度内ニ尙ホ起債スヘキ計畫ナリ

以上敘述シタル證券ノ發行ニ就キテ其發行ノ年月日發行額發行價格及實收額ヲ表出スレハ左ノ如シ

發行年月日	發行額	發行價格	實收額
三十四年三月二十日	九,五五六,二五〇	八八二六〇	八,四三四,三四六 ^四 ・二五〇
同年十月二十五日	七,三二三,五五〇	八七三三〇	六,三八六,九三三・二一五
三十五年三月二十八日	六,二〇四,六〇〇	八八三六〇	五,四八二,三八四・五六〇
同年九月三十日	四,〇〇〇,〇〇〇	九五〇〇〇	三,八〇〇,〇〇〇・〇〇〇
計	二七,〇七四,四〇〇		二四,一〇三,六五四・〇二五
三十二年度迄ノ累計	一五,九〇七,三五〇		一五,三九八,六四五・六一五
合 計	四二,九八一,七五〇		三九,五〇二,二九九・六四〇

第三 鐵道公債ノ償還

明治三十三年度以降同三十五年未ニ至ル鐵道公債ノ償還額ハ買入ニ係ルモノ千八百八拾八萬六千五百拾圓抽籤ニ係ルモノ參拾九萬九千五百圓合計千貳百貳拾八萬五千六百五拾圓ナリ仍テ明治三十五年未ニ於ケル内國債未償還額ハ參千百貳拾五萬參千七百圓ナリトス玆ニ其買入及抽籤ニ依ル償還ノ年月及償額等ヲ掲クレハ左ノ如シ

買入年月	買入券面額	買入價格	買入代金
三十四年三月	九,五五六,二五〇	八八・二六〇	八,四三四,三四六・二五〇
同年九月	三三,三〇〇	九〇・〇〇〇	二九,九七〇,〇〇〇
三十五年三月	二,二四三,五〇〇	八八・三六〇	一,九八二,三五六・六〇〇
同年八月	二四,四〇〇	八六・三〇〇	二一,二四八・七〇〇
同年九月	二八,七〇〇	八七・三〇〇	二七,二六五・〇〇〇
計	一一,八八六,一五〇	九五・〇〇〇	一〇,四九五,一八六・五五〇
三十三年三月	一,四四二,四〇〇		一,三〇五,三七二・〇〇〇
合 計	一三,三二八,五五〇		一二,八〇〇,五五八・五五〇
抽籤執行年月	償還豫定額	減額	償還決定額
三十五年五月	四〇〇,〇〇〇	五〇〇	三九九,五〇〇

第五款 軍事公債

第一 軍事公債ノ起債

明治二十八年勅令第三百三十七號ニ依リ明治二十七八年戰役ニ關スル一時賜金ノ代用トシテ軍事公債證書ノ第三回發行ヲナシタルカ其未タ發行セサルモノ八萬七千五百拾圓アルコト前ニ述フルカ如シ而シテ明治三十三年度以後ニ於テ實際ノ需要ニ應ジ發行シタルモノ五千圓ニシテ陸軍省ノ取扱ニ係ルモノトス今其臨時特別發行ノ年月日發行額等及發行ノ狀況ヲ示セハ左ノ如シ

回次	發行年月日	發行額	發行價格	實收額
第三回	三十三年九月二十八日	三,〇〇〇	九〇・七一〇	二,七二二・三〇〇
同	年十月十五日	二,〇〇〇	九〇・五二〇	一,八二〇・二〇〇
計		五,〇〇〇		四,五三二・五〇〇
第二回	三十二年度迄ノ累計	九,九一九,二五〇		九,七二九,六七三・六五〇
合 計		九,九二四,二五〇		九,七三四,二〇五・一五〇
第四回	二十九年三月四日	二五,〇〇〇,〇〇〇		二五,〇〇〇,〇〇〇・〇〇〇
合 計		三四,九二四,二五〇		三四,七三四,二〇五・一五〇

第二 軍事公債ノ償還

明治三十三年度以降ニ於ケル軍事公債ノ償還額ハ抽籤ニ係ルモノ五拾九萬七千六百圓買入ニ係

ルモノ拾七萬五千八百圓合計七拾七萬參千四百圓ナリトス仍テ明治三十五年末ニ於ケル未償還額ハ壹億千五百八拾萬八千五百圓ナリトス
今抽籤償還ノ年月金額買入銷却ノ年月債額及買入銷却ノ狀況ヲ示セハ左ノ如シ

抽籤執行年月	償還豫定額	減額	償還決定額
三十五年五月	六〇〇,〇〇〇 ^円	二,四〇〇 ^円	五九七,六〇〇 ^円
買入年月	買入券面額	買入價格	買入代金
三十五年八月	一七五,八〇〇 ^円	乃至 八七,七〇〇 ^円	一五六,一八一・二五〇
三十二年七月	八,三三九,三〇〇	九〇,三〇〇	八,〇〇一,五五八・三五〇
合計	八,五一五,一〇〇		八,一五七,七三九・五〇〇

第六款 事業公債及北海道鐵道公債

第一 事業公債及北海道鐵道公債ノ條規

事業公債ノ募集總額ハ壹億參千五百萬圓トシ漸次之ヲ募集スヘキモノナリシモ爾來其豫算ニ増加ヲ來シ第十二議會ニ於テ六百四拾七萬餘圓第十三議會ニ於テ八百六拾參萬餘圓合計千五百拾萬餘圓ノ増額ヲ議決セリ依テ法律ヲ訂正スルノ必要ヲ生シタルヲ以テ明治三十四年四月二日法

律第二十號ヲ以テ事業公債條例第一條中壹億參千五百萬圓ヲ壹億五千萬圓ニ改メタリ但シ端數拾萬餘圓ノ不足額ハ當初公債支辨ノ見込ナリシ公債初年利子ノ不用ニ屬セシモノ等ヲ以テ補填スヘキ計畫ナリ

明治三十五年二月十四日法律第六號ヲ以テ北海道鐵道敷設法中ニ改正ヲ加ヘタリ而シテ其改正ノ理由ハ鐵道公債ノ都ニ於テ明治三十五年法律第五號ニ付キ敘述シタル所ニ同シ

法律第六號 (明治三十五年二月十四日)

北海道鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ財政ノ都合ニ依リ他ノ歳入ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七條中公債ヲ募集スルコトヲ得ニ改ム

第二 事業公債及北海道鐵道公債ノ起債

明治三十三年度ニ於ケル事業及北海道鐵道兩公債ノ募集豫定額ハ千四百四拾參萬六百五拾圓ナリシモ亦其募集ヲナスコト能ハス纔ニ國庫預金部ノ餘裕金ヲ運用シ整理公債條例第六條第二項ノ方法ヲ以テ事業公債ニ充テ大日本帝國政府五分利公債證書券面金額參百五拾萬圓ノ臨時特別發行ヲナシ翌三十四年度ニ於テモ國庫預金部所有ノ同公債證書ヲ買入銷却シ其代金ト同部ニ於ケル他ノ餘裕金ト併セテ發行代金ニ充テ同年度事業公債募集豫定額貳千七百七拾四萬參千百圓北海道鐵道公債同貳百萬圓ノ内大日本帝國政府五分利公債證書券面金額九百貳拾六萬千九百圓ヲ發行シ内八百七拾六萬九千八百五拾圓ヲ事業公債ニ四拾九萬貳千五拾圓ヲ北海道鐵道公債ニ

尤テタリ
 事業及北海道鐵道ノ兩公債ハ明治三十五年度以降之カ募集ヲナサ、ルコト、決定セシモ三十四年度以前ニ屬スル事業費年割豫算ノ需要額ニ對シ尙ホ不定ヲ告クルモノアルヲ以テ亦鐵道公債ト同シク三十五年度中ニ於テ起債スヘキ計畫ヲ立テタリ今其計算ニ就キテ茲ニ其概要ヲ述ヘンニ事業公債ハ明治二十九年ヨリ三十四年度ニ至ル六箇年度間ノ實收額金壹億千六百六拾五萬參千參百八拾四圓四拾七錢貳厘(四分利付英貨公債)ニシテ募集豫定額即チ事業費年割豫算ノ合計ニ公債初年ノ利子豫定額ヲ加ヘタル高壹億四千四百四拾貳萬四千貳百五拾貳圓拾壹錢八厘外ニ四分利付英貨公債募集費金五拾萬千貳百參拾貳圓拾七錢九厘合計壹億四千四百九拾貳萬五千四百八拾四圓貳拾九錢七厘ノ内事業費豫算不用額金參百參拾萬七拾四圓八拾八錢六厘ト公債初年ノ利子不用額金拾六萬參千七圓ト三十三年度及三十四年度ニ於テ公債支辨ヨリ普通歲入支辨ニ移シタル豫算額金貳百萬圓ヲ控除シタル殘額金壹億參千九百四拾六萬貳千四百貳圓四拾壹錢壹厘ナルヲ以テ差引金貳千貳百八拾萬九千九拾七圓九拾參錢九厘ノ不足ヲ告クヘキ計算トス然ルニ該實收額ニ對スル證券ノ券面金額ハ壹億參千四百四拾五萬千五百拾圓ナルカ故ニ條例所定ノ起債總額ニ對シ千八百五拾四萬八千八百五拾圓ノ餘利アルニ過キス因テ三十五年度ニ於テハ此餘利額ニ相當スル證券ヲ發行シ以テ前記不足額ノ幾分ヲ補ヒ爾餘ノ不足額ハ之ヲ普通歲入ノ支辨トナシタリ又北海道鐵道公債ハ明治三十四年度ヨリ三十四年度迄ノ實收額金參百四拾貳萬九千六百六拾七圓五拾七錢壹厘(四分利付英貨公債)ニシテ同上募集豫定額ハ五百萬圓四分利付英貨公債募集費ハ金壹萬貳千八百四拾參圓五拾錢四厘鐵道敷設費豫算不用額ハ金參千七百參拾八圓四

錢四厘ナルヲ以テ差引不足額ハ金百五拾七萬九千四百參拾七圓八拾八錢九厘トナル因テ三十五年度ニ於テ之ニ相當スル證券ヲ發行スヘキコト、爲セリ而シテ三十五年十二月マテニ於テハ事業公債千參百五拾貳萬六千參百圓北海道鐵道公債百萬圓ヲ發行シタリ
 以上敘述シタル臨時發行ノ年月日、發行額、發行價格及實收額ヲ表出スレハ左ノ如シ

公債名稱	發行年月	發行額	發行價格	實收額	
事業公債	三十三年十月十二日	三,五〇〇,〇〇〇 ^円	九〇,〇〇〇	三,一五〇,〇〇〇,〇〇〇 ^円	
	三十四年十月二十五日	八,七六九,八五〇	八七,三三〇	七,六五八,七一一〇,〇〇五	
	三十五年九月三十日	一三,五二六,三〇〇	九五,〇〇〇	一二,八四九,九八五,〇〇〇	
	計	二五,七九六,一五〇		二三,六五八,六九五,〇〇五	
	三十二年度迄ノ累計	四一,一二九,〇五〇		三八,七二三,四三五,〇〇〇	
	合 計	六六,九二五,二〇〇		六二,三八二,一三〇,〇〇五	
	北海道鐵道公債	三十四年十月二十五日	四九二,〇五〇	八七,三三〇	四二九,七〇七,二六五
		三十五年九月三十日	一,〇〇〇,〇〇〇	九五,〇〇〇	九五〇,〇〇〇,〇〇〇
		計	一,四九二,〇五〇		一,三七九,七〇七,二六五
		三十二年度迄ノ累計	一,四一九,九五〇		一,二八〇,〇五五,〇〇〇
合 計		二,九一二,〇〇〇		二,六五九,七六二,二六五	

第三 事業公債ノ償還

内國ニ於テ發行シタル事業公債ハ整理公債條例ニ依リ償還スヘキモノナルヲ以テ明治三十年發行ノ證券ニ對スル元金ノ償還ハ當ニ明治三十五年ヲ以テ之ヲ始ムヘキナリ仍テ同年五月ヲ以テ貳拾萬圓ノ抽籤償還ヲ行ヒタリ又明治二十九年法律第五號國債證券買入銷却法ニ依ル銷却ハ据置年限ニ關係ナキコト既ニ述フルカ如クナルヲ以テ明治三十四年九月大日本帝國政府五分利公債證書額面金額七百七拾四萬四千四百五拾圓ヲ買入レ以テ事業公債ニ對スル償還ヲ行ヒ次テ明治三十五年ニ於テ參百八拾六萬八千七百圓ノ買入銷却ヲ遂ケタリ仍テ償還額合計千八百八拾壹萬參千百五拾圓ヲ内國ニ於ケル起債總額六千六百九拾貳萬五千貳百圓ヨリ控除シタル殘額五千五百拾壹萬貳千五拾圓ハ即チ明治三十五年末ニ於ケル未償還額ナリトス今左ニ買入及抽籤ニ依ル償還ノ年月及償額ヲ表示セン

買入年月	買入券面額	買入價格	買入代金
三十四年九月	七、七四四、四五〇 ^円	九〇、〇〇〇 ^円	六、九七〇、〇〇五 ^円
三十五年八月	二、七〇〇	八六、三〇〇 乃至 八七、三〇〇	二、三五七八〇〇
同年九月	三、八六六、〇〇〇	九五、〇〇〇	三、六七二、七〇〇、〇〇〇
合計	一、六一三、一五〇		一〇、六四五、〇七二、八〇〇
抽籤執行年月	價	還	額
三十五年五月			二〇〇、〇〇〇 ^円

第七款 臺灣事業公債

第一 臺灣事業公債ノ條規

臺灣事業公債ハ主トシテ臺灣地方ニ於テ之ヲ募集スルノ計畫ナリシモ爾後該地方竝ニ内地ニ於テ募集スルハ不便ナル狀況アルヲ以テ或ハ之カ募集ヲ外國ニ於テスヘキノ必要アリ而シテ之ヲナスニハ明治三十二年法律第一百號國債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル法律ノ範圍内ニ於テスルヲ便トス因テ明治三十四年四月二日法律第十八號ヲ以テ明治三十二年法律第一百號中改正法律ヲ公布セリ

法律第十八號 (明治三十四年四月二日)

明治三十二年法律第一百號中事業公債條例ノ下及ヲ削リ北海道鐵道敷設法ノ下ニ及明治三十二年法律第七十五號臺灣事業公債法ヲ加フ

臺灣ニ於ケル鐵道敷設、土地調査、築港及應合建築事業ノ經費ヲ繰換ヘ支辨スル爲メ一箇年以内ノ期限ヲ以テ臺灣銀行ヨリ一時借入金ヲ爲スヲ得ヘク而シテ該借入金ハ公債募集金ヲ以テ償還スルヲ得ルコト臺灣事業公債法第五條ニ規定スル所ナリ然ルニ市場ノ景況ニ由リ公債ノ募集意ノ如クナラス從テ一箇年以内ニ償還スルコト頗ル難事タルヲ以テ之ヲ三箇年ニ延期スルコト、シ明治三十四年四月二日法律第二十一號ヲ以テ臺灣事業公債法第五條第一項中「一箇年」ヲ「三箇年」ニ改メタリ

第二 臺灣事業公債ノ起債

臺灣事業公債ハ明治三十二年度ヨリ募集ヲ始ムヘキ計畫ニ屬シ其初年度ノ起債豫定額ハ參百貳拾萬圓ナリシモ内地ニ於テハ固ヨリ之ヲ募集シ得ヘキ餘地ナキヲ以テ臺灣及其對岸ナル支那地方ニ於テ之ヲ募集セントスト雖モ是等ノ地方ニ於テハ未タ曾テ公債ヲ募集シタル實例アラサルカ故ニ亦容易ニ之ヲ舉行シ得ヘキ望ナシ是ヲ以テ大藏大臣ハ臺灣事業公債法第五條第一項ノ規定ニ據リ一時臺灣銀行ヨリ借入金ヲナシ以テ各事業費ヲ繰換ヘ支辨シタリ然ルニ該借入金ハ臺灣事業公債法ノ明文ニ從ヒ當ニ一箇年間ヲ限リ之ヲ返償スヘキモノナレハ公債募集ノ舉タルヤ到底之ヲ緩慢ニ付スヘカラス加之翌三十三年度ニ於テハ其相當年割額六百四拾萬圓ノ起債ヲ要スルモノアリ是亦一時繰換借入金ヲナシ得ルノ餘地ヲ存スルモ早晚公債ヲ起スノ必要アルコト復タ言ヲ俟タサルナリ是ニ於テ大藏大臣ハ臺灣總督ト協議シ臺灣事業公債法第四條ノ規定ヲ適用シ特約ヲ以テ臺灣銀行ニ公債證書ヲ交付シ明治三十三年六月以降三回ニ證券ノ臨時特別發行ヲ爲シタリ其券面金額ノ總計ハ貳百貳拾壹萬四千四百圓ニシテ其第一回發行ノ證券ハ整理公債條例第六條第二項ノ方法ヲ用キ一旦之ヲ日本銀行ニ交付シ更ニ同銀行ヲシテ之ヲ臺灣銀行ニ賣渡サシメ第二回以後ハ單ニ臺灣事業公債法第四條ニ據リ大藏省ヨリ直接ニ證券ヲ臺灣銀行ニ送付シタリ而シテ其證券ハ何レモ樟腦賣下受負人ヨリ樟腦代金ノ擔保トシテ臺灣總督府ニ納ムヘキ國債證券ニ充用セシメタリ

次テ明治三十四年度ニ於テハ相當年割額ニ前年度ヨリノ繰越額及後年度ヨリノ繰上額ヲ合セ千貳百七拾八萬八千六百圓ノ募集ヲナスヘキ豫定ナルモ容易ニ之ヲ舉行シ得ヘキ機會ナカリシニ由リ復タ臨時特別發行ノ方法ヲ用ヒ同年度中兩回ニ證券々面金額參百貳拾貳萬貳千六百圓ヲ發

行シ以テ一部ノ需要ヲ充タシタリ而シテ其內參百貳萬貳千六百圓ハ國庫預金部ノ餘裕金ヲ運用シテ之ヲ同部ニ購入シ貳拾萬圓ハ明治三十五年三月中臺灣銀行ニ交付シ更ニ之ヲ臺灣罹災救助基金部ニ購入シタリ

臺灣事業公債ノ明治三十四年度以前ニ於ケル實收額ハ金四百八拾貳萬五千四百七拾貳圓八錢ニシテ募集豫定額即チ事業費年割豫算ノ合計ハ金千五百萬圓ナリ而シテ該豫算額中不用額貳萬貳千四百拾圓八拾錢八厘アルヲ以テ差引金千拾五萬貳千百拾七圓拾壹錢貳厘ノ不足ヲ告クヘキモノトス因テ三十五年度ニ於テハ先ツ此不足補充ノ爲メ七月及十二月ノ兩度ニ臨時特別發行ヲナシ尙ホ年度內ニ於テ其殘額ヲ發行スヘキ計畫ナリトス

以上ノ起債ハ皆金貨公債ナリトス元來臺灣事業公債ハ起債ノ便ヲ圖リ其公債法第六條ニ於テ舊壹圓銀貨幣ヲ以テ起債スルヲ得ルノ規定ヲ設ケタレトモ此事タルヤ臺灣土民ヲ勸誘シテ應募セシムルカ又ハ對岸ノ支那地方ニ賣出スノ方法手段ニ依ラサルヲ得サルモノニシテ當時機未タ熟セス僅ニ前述ノ如ク臨時ニ一部ノ特別發行ヲナシ得タルノ實況ナレハ未タ銀貨公債ヲ起スニ至ラザリシナリ

以上敘述シタル所ノ臨時特別發行ノ年月日發行額發行價格及實收額ヲ表出スレハ左ノ如シ

發行年月日	發行額	發行價格	實收額
三十三年六月三十日	九〇〇,〇〇〇 ^圓	九三〇〇〇 ^圓	八三七〇,〇〇〇 ^圓
同年八月二十日	九〇〇,〇〇〇	八九〇〇〇	八〇一〇,〇〇〇

三十三年十一月二十九日	四一、四〇〇	八八、〇〇〇	三六二、三二〇〇
三十四年五月二十七日	一、七二二、六〇〇	八七、〇八〇	一、五〇〇、〇四〇八〇
三十五年三月二十八日	一、五〇〇、〇〇〇	八八、三六〇	一、三二五、四〇〇〇〇
同 年七月二十二日	四、五二八、〇〇〇	八八、三四〇	四、〇〇〇、〇三五二〇〇
同 年十二月三十日	一、二八四、一五〇	八五、六六〇	一、一〇〇、〇二八九〇
計	一一、二四六、一五〇		九、九二五、五一〇・一七〇

第三 臺灣事業公債金ノ收支

明治三十二年法律第十三號事業公債及鐵道公債特別會計法ハ鐵道公債事業公債及北海道鐵道公債ニ係ル募集金ノ會計ニ限リ適用スヘキモノナリシカ臺灣事業公債金ノ會計ニ付テ亦特別ノ規定ヲ必要トシ而モ事業公債及鐵道公債ト同一ナル整理ヲナスヲ便トス是ヲ以テ政府ハ第十三期帝國議會ノ協賛ヲ經テ該特別會計法第一條ヲ改正シ臺灣事業公債法ニ依ル公債金ノ會計モ亦此特別會計法ヲ適用スヘキモノトナセリ明治三十二年法律第七十八號即チ是ナリ而シテ此公債金ノ支辨ニ屬スル事業費ハ明治三十年法律第二號臺灣總督府特別會計法ニ依リ支出整理スヘキモノナルヲ以テ公債募集金ヲ使用セントスル場合ニハ事業公債及鐵道公債特別會計ニ於テ歲入臨時部繰入トシテ拂出シ一般會計ノ歲入ニ繰入レ更ニ一般會計ノ歲出臨時部內務省所管臺灣經費補充金トシテ之ヲ臺灣總督府特別會計ニ繰入ルヘキ順序トス若シ又臺灣事業公債法第五條第一項ノ規定ニ據リ一時借入金ヲナシテ事業費ヲ繰換支辨シ置キ同條第二項ノ規定ニ據リ公債募集金ヲ以テ該借入金ヲ返償セントスルトキハ臺灣總督府特別會計ニ繰入レスシテ一般會計ノ歲出

臨時部ニ於テ大藏省所管一時借入金返償ノ科目ヲ以テ之カ支出ヲナシタリ然ルニ此返償金タルヤ實ニ臺灣總督府特別會計ニ繰入ル、ノ必要ナキノミナラス一般會計ニモ亦必シモ繰入ル、ノ要ナク却テ計算ノ重複ヲ避ルカ爲メ公債金ノ特別會計ニ於テ直ニ支出スルニ如カス因テ政府ハ第十五期帝國議會ノ協賛ヲ經テ明治三十四年法律第二十九號ヲ以テ事業公債及鐵道公債特別會計法第二條但書ヲ改正シ一時借入金ヲ返償スル場合ニハ直ニ臺灣銀行ニ仕拂フヘキ事トナセリ臺灣事業公債金ヲ以テ支辨スヘキ臺灣特別事業費ノ豫算總高ハ金參千五百萬圓ニシテ明治四十年度マテノ繼續費トス而シテ此公債ハ豫定ノ如ク募集ヲナスコト能ハサリシニ由リ該事業費ノ需要ニ對シテハ概ネ臺灣銀行ヨリ一時ノ借入ヲナシテ繰換支辨シ其直接ニ公債募集金ノ供給ニ依リタルモノハ殆ント稀ナリ是ヲ以テ公債金ノ收入額ハ該借入金返償ノ資ニ供セラレ間接ニ事業費ノ財源トナリシモノ多キニ居レリ

第二節 大藏省證券

第一 大藏省證券ノ條規

明治三十四年五月大藏省證券ノ第一回募集發行ノ告示後東京株式取引所ハ大藏省理財局長ニ向ヒ同取引所ニ於テ各種公債證書及大藏省證券ノ賣買ヲ爲スニ方リ一名ノ賣方券面金額拾萬圓ヲ賣ラント云ヒ十名ノ買方各一萬圓ツ、ヲ買ハント云ヒ其契約成立シ受渡期日ニ至リ賣方ヨリ拾萬圓ノ證券ヲ取扱所ニ振込ムトキハ取引所ハ之ヲ買方十名ニ分配セサルヘカラス依テ證券分割ノ途ヲ開カレンコトヲ請ヘリ然ルニ此分割ノコトタルヤ公債證書ハ暫ク措キ大藏省證券ニ付テ

ハ賣買取引上頗ル利便ノコトニシテ延ヒテ幾分カ證券ノ聲價ヲ高メ且ツ將來ノ募集上ニモ多少ノ便宜ヲ得ヘキニヨリ省議院ニ一決シ遂ニ同年七月七日大藏省令第十三號ヲ以テ大藏省證券ノ分割請求方ヲ定メタリ而シテ其分割手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘキモノトシ同時ニ大藏省令第十四號ヲ以テ之カ規定ヲ定メタリ

大藏省令第十三號 (明治三十四年七月七日)

大藏省證券ノ所有者ハ大藏省證券條例第四條ニ規定シタル券面金額種類ノ範圍内ニ於テ證券ノ分割ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ證券ノ券面金額種類枚數及記番號等ヲ詳記シタル書面ニ該證券ヲ添ヘ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ差出シ同時ニ分割證券一枚毎ニ金貳拾錢被分割證券一枚毎ニ金貳錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムルコトヲ要ス

大藏省令第十四號 (同上)

明治二十五年(三)大藏省令第四號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ヘ左ノ通追加ス

九 大藏省證券分割手数料

次テ同月八日大藏大臣ヨリ左ノ如ク日本銀行ニ令達シ以テ之カ取扱ヲ同行ニ命任セリ

日本銀行

今般當省令第十三號大藏省證券分割ノ件發布ニ依リ取扱方其行ヘ命任候條公債證書枚數變更ノ例ニ準シ取扱フヘシ

明治三十四年七月八日

大藏省證券ハ元ト一種ノ利付債券ニシテ殆ト無記名公債證書ト異ナルコトナキカ故ニ世人ハ之ヲ公債證書ト同一視シ未タ充分ニ敏活ナル授受取引ヲナスニ至ラス爲メニ金融界ニ於ケル大藏省證券ノ活動區域ハ甚タ狹隘ニシテ幾ニ諸種ノ擔保ニ供セラル、ニ過キス是レ獨リ證券ノ聲價ニ關係スルコト少カラサルノミナラス實ニ經濟上ニ於ケル一恨事ト謂ハサルヲ得ス今歐米各國ニ於ケル實例ヲ考フルニ大藏省證券ハ主トシテ割引方法ヲ以テ發行セラレ恰モ割引商業手形ト同シク盛ニ金融場裡ニ活動セリ而シテ我國ノ如キモ概近經濟事情大ニ發達シタルヲ以テ茲ニ利付債券ノ外割引方法ヲ採リ之カ流通力ヲ増進シ以テ金融ノ便ニ供スルハ亦必要ノコトナリトス殊ニ割引發行ノ方法ニ依レハ政府ハ比較的の低利ヲ以テ起債スルコトヲ得隨テ國費ヲ減省スルト共ニ各人ニ於テモ比較的の少額ノ資金ヲ以テ引受ヲナスコトヲ得ヘク爲メニ政府ハ容易ニ起債ノ目的ヲ達シ引受人ハ金融緩急ノ度ニ應シ適宜ノ價格ヲ以テ引受ヲナスコトヲ得テ大ニ上下ノ融通ヲ助クルノ便益アルヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ且ツ條例ニ於テ券面金額種類ヲ限定シ置クハ却テ實際上ノ應用ニ不便ナキニアラス是ヲ以テ政府ハ之カ改正法律案ヲ第十六期帝國議會ニ提出シ其協賛ヲ經テ明治三十五年二月六日法律第一號ヲ以テ之ヲ公布セリ其全文左ノ如シ

法律第一號 (明治三十五年二月六日)

大藏省證券條例中左ノ通改正ス

第三條 大藏省證券ハ割引ヲ以テ發行スルコトヲ得

第四條 大藏省證券ハ百圓以上トシ其仕拂期限ハ十二箇月以内トス

證券ノ形式種類利子歩合及割引歩合ハ大藏大臣之ヲ定ム

次テ同月二十四日大藏大臣ハ第五號ヲ以テ大藏省證券ノ種類及見本ニ付左ノ如ク告示セリ

大藏省告示第五號 (明治三十五年)

大藏省證券條例ニ依リ發行スル大藏省證券ハ拾萬圓、壹萬圓、千圓、五百圓及百圓ノ五種トシ之カ見本ハ日本銀行本支店及代理店ニ備置カシムルニ付照鑑ヲ要スル者ハ就テ觀ルヘシ

第二 大藏省證券ノ募集發行

大藏省證券ノ募集發行ハ明治三十四年五月十六日大藏省告示第二十三號ヲ以テ發行豫定額六百萬圓ヲ募集スヘキコトヲ發表シタルヲ以テ其濫觴トス今左ニ該告示ノ全文ヲ掲ケン

明治十七年(九)第二十四號布告大藏省證券條例ニ據リ今般大藏省證券ヲ發行ス之ニ關スル規程左ノ如シ

- 一 大藏省證券ノ發行總額ハ金六百萬圓トシ之ヲ募集ス
- 一 大藏省證券ノ發行價格ハ券面金額百圓ニ付金百圓トス
- 一 大藏省證券ハ來ル六月七日之ヲ發行シ元金ノ仕拂期日ハ發行ノ日ヨリ滿六箇月目即チ來ル十二月六日トス
- 一 大藏省證券ノ利率ハ一箇年元金ノ百分ノ七半トシ元金仕拂ノ際之ヲ拂渡スモノトス
- 一 募集ニ應セントスル者ハ來ル五月二十七日ヨリ六月三日マテニ其應募金額ヲ定メ左ニ掲タル取扱店ノ内へ申込ムヘシ

東京 日本銀行 名古屋 同 名古屋支店
 京都 同 京都出張所 門司 同 西部支店

大阪 同 大阪支店

一 應募者ハ來ル六月七日ニ於テ其應募現金ヲ應募ノ申込ヲ爲シタル取扱店ニ拂込ミ之ニ對スル證券ヲ受取ルヘシ

一 應募者ニ交付スヘキ證券ノ券面金額、種類及枚數ハ大藏省ノ都合ニ由リ之ヲ定ム

而シテ這回ノ募集ニ於テハ應募申込總額七百參拾五萬六千五百圓ノ多キニ達シ發行豫定額ニ對シテ百參拾五萬六千五百圓ヲ超過セリ然ルニ其豫定額ハ當時市場ノ景況ヲ計リ單ニ之カ程度ヲ定メタルマテニシテ實際國庫金融上ニ於ケル需要額ハ固ヨリ六百萬圓ニ止マラサルカ故ニ該應募申込總額ヲ以テ發行額ト確定シ其旨ヲ告示セリ

特テ同年十月二十一日ニ至リ大藏省告示第四十六號ヲ以テ大藏省證券發行ニ關スル規程ヲ定メ發行豫定額ヲ千萬圓發行價格ヲ券面金額百圓ニ付金百圓發行期日ヲ同年十一月十一日仕拂期日ヲ發行ノ日ヨリ滿三箇月目即チ三十五年二月十日利率ヲ元金ノ百分ノ七、申込期限ヲ三十四年十一月一日ヨリ五日マテ、募集地ヲ東京、京都、大阪及名古屋ノ四箇所ト定メ期日ニ至リ豫定ノ如ク千萬圓ノ證券ヲ發行シタリ之ヲ第二回ノ募集發行トス

越ヘテ明治三十五年二月ニ至リ法律第一號ヲ以テ條例一部ノ改正アリ是ニ於テ大藏大臣ハ此改正法律ニ基キ割引方法ヲ以テ大藏省證券ヲ發行スルノ議ヲ決シ同月十日告示第三號ヲ以テ之ヲ告示セリ是レ即チ第三回ノ募集ニシテ其告示ノ全文ハ左ノ如シ

明治十七年(九)第二十四號布告大藏省證券條例ニ據リ今般割引ヲ以テ大藏省證券ヲ發行ス之ニ關スル規程左ノ如シ

一 大藏省證券ノ發行總額ハ券面金額千萬圓ノ豫定トシ之ヲ募集ス

一 大藏省證券ノ割引歩合ハ日步壹錢九厘以下トシ競争ニ付ス

一 大藏省證券ノ申込額需要額ニ超過スルトキハ割引歩合最低ノモノヨリ順次之ヲ取り需要額ニ滿ツルニ至リテ止ム

一 大藏省證券ハ來ル三月十一日之ヲ發行シ其ノ仕拂期日ハ來ル七月三十日トス

一 募集ニ應セントスル者ハ來ル三月一日ヨリ五日マテニ其ノ應募券面金額及割引歩合ヲ定メ左ニ掲クル取扱店ノ内へ申込ムヘシ

東京	日本銀行本店	門司	同	西部支店
京都	同	京都出張所	函館	同
大阪	同	大阪支店	福島	同
名古屋	同	名古屋支店	同	福島出張所

一 募入トナリタル者ハ來ル三月十一日ニ於テ其ノ應募現金ヲ應募ノ申込ヲ爲シタル取扱店ニ拂込ミ之ニ對スル證券ヲ受取ルヘシ

一 應募者ニ交付スヘキ證券ノ券面金額種類及枚數ハ大藏省ノ都合ニ由リ之ヲ定ム

次テ同月二十六日大藏省告示第六號ヲ以テ明治三十五年(甲)大藏省告示第三號ニ依リ發行スル大藏省證券ノ申込額需要額ニ超過ノ場合ニ割引歩合同一ノモノアルトキハ按分比例ヲ以テ減少スルモノトス_トセリ而シテ這回ハ始メテ割引發行ノ方法ヲ用ヒタルモノナリシカ其效果空シカラス應募申込ノ總額ハ遙ニ豫定額ニ超過シテ千五百五拾八萬四千九百圓ノ多キニ達シ割引歩合ノ

如キモ亦最低壹錢七厘ノモノアルニ至レリ是レ蓋シ當時金融狀況ノ之ヲシテ然ラシメタルニ由ルナル可シト雖モ又割引發行ナル新方法ノ大ニ時好ニ適シタルノ結果タルヤ疑ヲ容レサルナリ而シテ其應募超過額五百五拾八萬四千九百圓ハ最高歩合ノ申込總額千五百九萬八千七百圓ニ就キ按分比例即チ每一口萬分ノ三千六百九十七ツ、ノ割合トシ以テ之ヲ減少シタリ

明治三十五年度ニ於テハ三十五年四月ヨリ同年十二月マテノ間ニ大藏省證券ノ募集發行ヲナスコト五回ニ及ヘリ

第一回ハ明治三十五年四月一日大藏省告示第十七號ヲ以テ之ニ關スル規定ヲ發布シ發行豫定額ヲ券面金額八百萬圓割引歩合ノ最高ヲ日步壹錢九厘申込期限ヲ四月七日ヨリ九日マテ發行期日ヲ同月十五日仕拂期日ヲ八月十五日トシ募集地ヲ東京、京都、大阪、名古屋、門司及福島ノ六箇所ト定メ申込超過額減少ノ方法等ハ一ニ前回ノ例ニ依レリ而シテ這回ノ募集ニ於テハ引受申込ノ額多カラス纔ニ日本銀行ノ引受ニヨリテ需要額ヲ滿タスコトヲ得タリ然レトモ割引歩合ノ最低日步壹錢四厘ノモノアリシハ未タ付テ其例ヲ見サル所ナリ

次ニ第二回ハ明治三十五年五月三日大藏省告示第二十六號ヲ以テ發行豫定額ヲ券面金額千萬圓申込期限ヲ五月九日發行期日ヲ同月十五日仕拂期日ヲ九月十五日トシ募集地ヲ東京、京都、大阪、名古屋及門司ノ五箇所ト定メタリ而シテ這回ハ申込超過額減少ノ方法中割引歩合同一ノモノニ對シ按分比例ヲ以テ減少スルノ明文ヲ省キ且ツ告示上單ニ割引歩合ハ申込人ノ競争ニ付ストシテ別ニ其最高歩合ヲ示サス唯日本銀行ニ内達シテ其最高限度ヲ日步壹錢九厘ト豫定シ置キタルニ由リ募集ノ結果申込超過額貳百參拾四萬四千六百圓ニ就キテ先ツ日步貳錢以上ノモノ拾八萬八

千貳百圓ヲ減シ其殘額貳百拾五萬六千四百圓ハ總テ同銀行ノ申込ニ係ル日步壹錢九厘ノモノヲ以テ募入外レト爲シタリ

第三回以後ハ毎回ノ發行豫定額千萬圓ニシテ之ニ關スル規定ハ概ネ第二回ニ同シ因テ以下單ニ其異ナル點ノミヲ摘記センニ第三回ハ明治三十五年七月十八日大藏省告示第四十四號ヲ以テ申込期限ヲ七月二十四日發行期日ヲ同月三十日任拂期日ヲ十一月二十八日募集地ヲ東京京都大阪及名古屋ノ四箇所割引歩合ノ内定ヲ最高日步壹錢八厘トシ第四回ハ同年九月二日大藏省告示第五十三號ヲ以テ申込期限ヲ九月九日發行期日ヲ同月十五日任拂期日ヲ三十六年三月十三日募集地及割引歩合ノ内定ヲ第三回ニ同シクシ第五回ハ明治三十五年十一月十八日大藏省告示第六十七號ヲ以テ申込期限ヲ十一月二十五日發行期日ヲ同月二十八日任拂期日ヲ三十六年四月三十日募集地ヲ單ニ東京ノ一箇所割引歩合ノ内定ヲ最高日步壹錢七厘トセリ而シテ其募集ノ結果ハ第三回ニ於テハ申込超過額四百貳拾五萬七千圓ナリシニ由リ日步壹錢八厘四毛以上ノモノ八拾七萬九百圓ト日本銀行ノ申込ニ係ル日步壹錢八厘ノモノ參百參拾八萬六千圓トヲ減シ第四回ニ於テハ申込超過額參百六拾壹萬四千九百圓ナリシニ由リ日步壹錢九厘以上ノモノ壹萬參千八百圓ト日本銀行ノ申込ニ係ル日步壹錢八厘ノモノ參百六拾萬千圓トヲ減シ第五回ニ於テハ申込超過額四百九拾貳萬六千圓ナリシニ由リ日步壹錢八厘ノモノ參萬五百圓ト日本銀行ノ申込ニ係ル日步壹錢七厘ノモノ四百八拾九萬五千五百圓トヲ減シ各需要額ニ適合セシメタリ

今各年度ニ於テ募集ニ由リ發行シタル證券ノ發行年月日及發行額等ヲ表出スレハ左ノ如シ

年度及發行年月日	發行額	發行價格	利率	最高割引歩合	任拂期限
三十四年度 三十四年六月七日	七,三五六,五〇〇	一〇〇	年七分五厘		六箇月
同 年十一月十一日	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇	年七分		三箇月
計	一七,三四六,五〇〇				
三十五年度 三十五年四月十五日	八,〇〇〇,〇〇〇				日步壹錢九厘 八月十五日
同 年五月十五日	一〇,〇〇〇,〇〇〇				同上 九月十五日
同 年七月三十日	一〇,〇〇〇,〇〇〇				日步壹錢八厘 十一月二十八日
同 年九月十五日	一〇,〇〇〇,〇〇〇				同上 三十六年三月十三日
同 年十一月二十八日	一〇,〇〇〇,〇〇〇				日步壹錢七厘 同年四月三十日
計	四八,〇〇〇,〇〇〇				
合 計	七五,三五六,五〇〇				
三十二年度迄ノ累計	八七五,一〇〇,〇〇〇				
總 計	一,六二八,八六六,五〇〇				

第三 大藏省證券ノ償還

大藏省證券ノ元金ハ其任拂期限ニ從ヒテ起債年度ノ收入ニヨリ之ヲ償還スヘキモノナルヲ以テ

政府ハ各仕拂期限ニ於テ之カ償還ヲ行ヒタリ而シテ未タ仕拂期限ノ到來セサルカ爲メ償還セサル金額ハ貳千萬圓ナリトス左ニ各年度ニ於ケル償還ノ年月日及金額等ヲ示サン

年度及仕拂期限	償還年月日	償還額
三十四年度 六箇月	三十四年十二月六日	七,三五六,五〇〇 _円
三十四年度 三箇月	三十五年二月十日	一〇,〇〇〇,〇〇〇
計		一七,三五六,五〇〇
三十五年度 三箇月	三十五年七月三十日	一〇,〇〇〇,〇〇〇
同	年八月十五日	八,〇〇〇,〇〇〇
同	年九月十五日	一〇,〇〇〇,〇〇〇
同	年十一月二十八日	一〇,〇〇〇,〇〇〇
計		三八,〇〇〇,〇〇〇
合計		五五,三五六,五〇〇

第四 大藏省證券ノ體様

明治三十五年二月法律第一號ニ依リ同月大藏大臣ニ於テ告示第五號ヲ以テ定メタル大藏省證券ノ券面金額種類ハ拾萬圓壹萬圓千圓五百圓及百圓ノ五種ナリ而シテ割引發行ノ證券ニハ利子金額及利率ヲ記載セサルハ勿論要件中利子ニ關スル規定ヲ除キ且ツ裏面ニ英譯文ヲ付シ其他ハ總テ利付證券ニ於ケル既定ノ様式ニ依リタリ

第三節 借入金

第一 明治二十七年法律第十六號一時借入金

一借入
 明治二十七年法律第十六號ノ規定ニ依リ明治三十三年度以降日本銀行ヨリ借入ヲナシタル金額ハ九千七百五十拾萬圓ニシテ而シテ何レモ當座借ニ屬スルモノトス今借入年月日借入高及利率ヲ示セハ左ノ如シ

借入年月日	借入高	利率
三十三年十月二十三日	一五〇,〇〇〇 _円	年一割又ハ三分二厘五毛
同 年同月二十六日	二〇〇,〇〇〇	同上
同 年十一月二日	一五〇,〇〇〇	同上
同 年同月二十六日	四〇〇,〇〇〇	同上
同 年十二月三日	一〇〇,〇〇〇	同上
同 年同月二十五日	二〇〇,〇〇〇	同上
同 年同月二十六日	一〇〇,〇〇〇	同上
同 年同月同日	一〇〇,〇〇〇	同上
同 年同月二十八日	二〇〇,〇〇〇	同上
三十四年二月二十五日	一〇〇,〇〇〇	同上

同	三十四年十月二十八日	一〇〇〇,〇〇〇	年一割又ハ百圓ニ付日歩貳錢四厘
同	年同月三十日	五〇〇,〇〇〇	同上
同	年十二月六日	七〇〇,〇〇〇	年一割又ハ百圓ニ付日歩貳錢四厘 <small>(三十五年三月十九日以後ハ日歩貳錢貳厘)</small>
同	三十五年二月十日	一〇〇,〇〇〇	同上
同	年四月一日	一三,五〇〇,〇〇〇	年一割 <small>(三十五年十二月三十一日以後ハ七分)</small> 又ハ百圓ニ付日歩貳錢貳厘 <small>(三十五年六月二十七日以後ハ日歩貳錢同九月以後ハ同壹錢七厘(三十五年三月十八日以後ハ同壹錢六厘(三十六年)</small>
同	年七月三十一日	二,〇〇〇,〇〇〇	年一割 <small>(前二)又ハ百圓ニ付日歩貳錢(三十五年三月以後)</small>
同	年九月十二日	一,〇〇〇,〇〇〇	同上
同	年同月十七日	一,〇〇〇,〇〇〇	同上
同	年同月二十二日	一,〇〇〇,〇〇〇	同上
同	年同月二十五日	一,〇〇〇,〇〇〇	同上
同	年同月二十九日	一,〇〇〇,〇〇〇	同上
同	年十月二日	一,〇〇〇,〇〇〇	同上
同	年同月二十日	一,〇〇〇,〇〇〇	年一割 <small>(前二)又ハ百圓ニ付日歩壹錢八厘(三十五年十二月九日以後ハ前二同シ)</small>
同	年同月二十二日	一,〇〇〇,〇〇〇	同上
同	年同月二十五日	一,〇〇〇,〇〇〇	同上
同	年同月二十七日	五〇〇,〇〇〇	同上

合計 九七,五〇〇,〇〇〇

二 償 還

明治二十七年法律第十六號ニ依ル一時借入金ハ一會計年度内ニ於ケル一時ノ不足ヲ補充スルヲ目的トスルヲ以テ政府ハ其借入ヲナスヤ漸次之カ返償ヲ怠ラス而シテ明治三十五年末ニ於ケル未償還額ハ千五百萬圓ナリトス今其償還ノ年月日及金額ヲ示セハ左ノ如シ

償 還 年 月 日	償 額	還 額
三十三年十一月十五日		三,〇〇〇,〇〇〇
同 年十二月十二日		五〇〇,〇〇〇
同 年同月十三日		五〇〇,〇〇〇
三十四年一月二十一日		一,〇〇〇,〇〇〇
同 年同月三十一日		一,〇〇〇,〇〇〇
同 年三月六日		一,〇〇〇,〇〇〇
同 年同月十二日		一,〇〇〇,〇〇〇
同 年同月十三日		一,〇〇〇,〇〇〇
同 年同月十四日		一,〇〇〇,〇〇〇
同 年同月二十日		一,〇〇〇,〇〇〇

同	三十四年三月二十二日	1,000,000
同	同 年四月一日	4,000,000
同	同 年同月十二日	1,000,000
同	同 年六月七日	7,000,000
同	同 年八月十六日	1,500,000
同	同 年同月十七日	1,500,000
同	同 年十一月十一日	10,000,000
同	三十五年三月十一日	10,000,000
同	同 年同月十二日	5,000,000
同	同 年同月十四日	3,000,000
同	同 年同月十七日	2,000,000
同	同 年同月十九日	1,000,000
同	同 年四月一日	13,500,000
同	同 年同月十二日	2,000,000
同	同 年同月十五日	8,000,000
合 計		82,500,000

第二 臺灣事業費繰換借入金

一 借入

明治三十三年度以降臺灣事業費繰換ノ爲メ臺灣銀行ヨリ借入ヲナシタル金額ハ七百六拾五萬圓ニシテ其利率ハ年七分トス而シテ其各借入ノ年月日金額及借入金ノ合計ハ左ノ如シ

借入年月日	借入高
三十三年五月三十一日	1,500,000
同 年八月三日	1,000,000
同 年同月三十一日	500,000
同 年九月十五日	500,000
同 年十月十五日	500,000
同 年十一月十五日	500,000
同 年十二月十五日	500,000
三十四年二月十五日	1,000,000
同 年四月十日	400,000
三十五年三月三十一日	2,000,000
同 年五月八日	300,000
同 年六月十日	500,000
同 年七月十日	300,000

三十五年十月十五日	一五〇,〇〇〇
同 年十一月十五日	四〇〇,〇〇〇
同 年十二月十五日	三〇〇,〇〇〇
計	七,六五〇,〇〇〇
三十二年度迄ノ累計	三,二〇〇,〇〇〇
合 計	一〇,八五〇,〇〇〇

二 償還

臺灣事業費繰換借入金ハ其初臺灣事業公債法第五條第一項ノ規定ニ據リ一箇年以内ノ期限ヲ以テ臺灣銀行ヨリ之ヲ借入レタルモノナルニ由リ政府ハ同條第二項前項借入金ハ此公債募集金ヲ以テ之ヲ償還スルコトヲ得トノ規定ニ基キ時機ヲ計リ數次ニ臺灣事業公債證書ヲ發行シ之カ代金ヲ收入スルニ從ヒ直ニ返償ヲナシ明治三十三年十一月二十九日マテニ借入金額貳百萬圓ノ返償ヲ終ヘタリ然ルニ同年十二月三十日及翌三十四年一月三十日ヲ限リ返償スヘキ借入金ニ就キテハ偶一面ニ法律上返償金支出方及返償期限延長ノ議アリテ當時開會中ノ第十五期帝國議會ニ向ヒ之ニ關スル法律案ヲ提出セシニ由リ一時其返償ヲ猶豫シ大藏大臣ヨリ其旨ヲ債主タル臺灣銀行ニ通達シ置キ遂ニ三十四年四月ニ至リ返償期限延長ニ關スル改正法律ノ成立公布アリタル後各之ヲ滿一箇年ツ、延期シタリ爾來臺灣事業公債金ノ收入アルニ從ヒ借入金ノ返償ヲ爲シタルモノ少カラスト雖モ概シテ公債募集ノ時機ヲ得ルコト難カリシ爲メ規定ノ如ク返償スルコト

能ハス此ニ於テ大藏大臣ハ期限ノ到來ニ臨ミ臺灣銀行ニ協議シ往々多少ノ延期ヲナシタルカ後更ニ何レモ當初借入ノ日ヨリ滿三箇年ニ延期シ尙ホ期限前ト雖モ國庫ノ都合ニ由リ隨意ニ返償スルコトアルヘキモノト定メタリ而シテ明治三十五年末ニ於ケル未償還額ハ七百貳拾五萬圓ナリトス今償還ノ年月日及金額ヲ表出スレハ左ノ如シ

償還年月日	償還額
三十三年七月二十五日	八三七,〇〇〇
同 年九月六日	八〇一,〇〇〇
同 年十一月二十九日	三六二,〇〇〇
三十四年五月二十九日	一,五〇〇,〇〇〇
三十五年三月二十八日	一,〇〇〇,〇〇〇
合 計	三,六〇〇,〇〇〇

第三 清國事件費借入金

一 清國事件費借入金ノ起因

明治三十三年六月清國ニ於テ暴徒蜂起ノ事變アルヤ我帝國ハ平和克復ノ爲メ歐米各國ト協同シテ兵ヲ北清地方ニ進メタリ之カ爲メ陸海軍ヲ始メ外交ニ遞信ニ其他追賞救護等臨時ニ多額ノ支出ヲ要セシニ由リ同月勅令第二百七十七號ヲ以テ財政上ノ緊急處分トシテ軍艦水雷艇補充基金災害準備基金及教育基金ノ特別會計ニ屬スル資金ヲ一時此事變ニ關スル費途ニ使用シ後日之ヲ

補填スヘキモノト定メ爾後實際ノ需要ニ應シ數次勅裁ヲ經テ豫算外臨時支出ヲ爲シタルモノ少カラサリシカ事件ハ延テ數閱月ニ亘リ容易ニ鎮定ニ至ラスシテ軍隊及軍艦派遣ノ費用等益多額ニ上ラントスルノ形勢アリ此ニ於テ政府ハ清國事變ニ關スル明治三十四年度恩賞諸祿及國庫豫備金ノ追加額ヲ豫算シ一面ニハ關稅定率及葉煙草賣渡價格ヲ改正增加シ又新ニ麥酒稅及砂糖消費稅ヲ起シ以テ此臨時事件費ノ財源ニ供シ尙ホ後年ニ至リ之ヲ基金補填ノ資ニ充テントコトヲ計畫シタリ然ルニ是等增稅及新稅等ニ因ル收入ハ施行ノ初年ニ於テハ其額寡少ニシテ未タ以テ臨時事件費ノ全額ヲ支辨スルニ足ラサルカ故ニ其財源ノ不足ハ金千七百六拾八萬圓ヲ限リ一時借入ヲ爲スコト、シ三十四年度歲入出追加豫算ト共ニ此借入金ニ關スル豫算外負擔契約ニ關スル件ヲ第十五期帝國議會ニ提出シテ其協贊ヲ經明治三十四年三月二十七日ヲ以テ之ヲ公布セリ是レ此借入金アル所以ナリ

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件

政府ハ明治三十四年度ニ於テ要スル清國事件ニ關スル歲出ノ財源ニ充ツルカ爲メ左ノ條件ニ依リ金額千七百六拾八萬圓ヲ限リ一時借入ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得

- 一 利子一箇年百分ノ八以内
- 一 借入期限ハ借入ノ日ヨリ二箇年以内

二 清國事件費ノ借入

明治三十四年十月三十日以降清國事件費歲出ノ財源トシテ日本銀行ヨリ借入ヲナシ其利子ハ借入當日ヨリ返償當日迄一箇年百分ノ八ノ割合トシ國庫ノ都合ニ依リ隨時返償スル者トセリ

清國事件費歲出ノ財源トシテ明治三十四年十月三十日以降日本銀行ヨリ借入金ヲナシタル年月日及金額ハ左表ノ如シ

借入年月日	借入高
三十四年十月三十日	五〇〇,〇〇〇 円
同 年十一月 一日	一五〇,〇〇〇
同 年同月二十六日	一〇〇,〇〇〇
同 年同月二十九日	一五〇,〇〇〇
同 年同月三十日	一五〇,〇〇〇
同 年十二月二十一日	一〇〇,〇〇〇
同 年同月二十三日	一〇〇,〇〇〇
同 年同月二十四日	一五〇,〇〇〇
同 年同月二十五日	一〇〇,〇〇〇
同 年同月二十六日	一〇〇,〇〇〇
同 年同月二十七日	二〇〇,〇〇〇
同 年同月二十八日	二〇〇,〇〇〇
合 計	一五,五〇〇,〇〇〇

三 清國事件費借入金ノ償還

清國事件費借入金ニ對シ明治三十五年七月三十一日參百五拾萬圓同年十一月二十八日百萬圓合計四百五拾萬圓ノ返償ヲナシタリ從テ明治三十五年末ニ於ケル未償還額ハ千百萬圓ナリトス

第四 製鐵所作業資金繰換借入金

一 製鐵所作業資金繰換借入金ノ起因

製鐵所ノ設立以來其作業ノ效果ハ豫期ノ如クナラス漸次其据置運轉資本ニ缺額ヲ生シ遂ニ明治三十五年度ノ豫算ニ於テ事業ノ經營ニ伴フ支出額ニ對シテ多額ノ不足ヲ告クルニ至レリ而シテ此資本ノ缺損ハ元來作業ノ收入ヲ以テ之ヲ補填スヘキモノナリト雖モ製品ノ販賣ハ實際必シモ短日月ノ間ニ於テ之ヲ果シ得ヘキニアラサルヲ以テ其缺損セル資本額ハ一時他ヨリ繰換ヲ受ケテ之ヲ補填シ以テ其運轉ヲ圓滑ニシ製鐵所前途ノ經營ヲシテ支障ナカラシムルノ必要アリ此ニ於テ政府ハ一般會計ト作業會計トノ關係ニ付テハ明治三十五年度中一般會計ヨリ借入ヲ爲スヲ得ルノ法律案ヲ又作業會計ニ借入ルヘキ一般會計ノ支出財源トシテハ同年度中他ヨリ借入ヲ爲スヲ得ルモノトシ之ニ對スル豫算外負擔契約ニ關スル議案ヲ各第十六期帝國議會ニ提出シ明治三十五年三月二十四日法律第三十號製鐵所据置運轉資本ニ不足ヲ生スル場合ニ一時借入ヲ爲スヲ得ル法律及同年同月十四日豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件ヲ公布セリ是レ此借入金アル所以ナリ

法律第三十號 (明治三十五年三月二十四日)

製鐵所据置運轉資本ニ不足ヲ生スル場合ニ一時借入ヲ爲スヲ得ル法律

製鐵所据置運轉資本ニ不足ヲ生スルトキハ明治三十五年度ニ限り金貳百萬圓以內ニ於テ一般

會計ヨリ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入ヲ爲ストキハ製鐵所作業會計ニ於テ之ヲ歲入ニ編入シ返償スルトキハ之ヲ歲出トシテ拂出スヘシ

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件

第一

政府ハ明治三十五年度ニ於テ要スル製鐵所作業資金不足ノ財源ニ充ツルカ爲メ左ノ條件ニ依リ金額貳百萬圓ヲ限リ一時借入ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得

一 利子一箇年百分ノ七以內

一 借入期限ハ借入ノ日ヨリ二箇年以內

第二

製鐵所特別會計ニ於テ作業上ニ要スル物品購買ノ爲メ作業費參拾萬圓材料素品購買費參拾萬圓ヲ限リ明治三十六年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治三十五年度ニ於テ結フコトヲ得

二 製鐵所作業資金繰換借入金ノ起債

明治三十五年十月二十九日大藏大臣ハ日本銀行ニ對シ製鐵所作業資金繰換ノ爲メ金百萬圓一時借入ノコトヲ合達シ利子ハ借入ノ當日ヨリ返償當日マテ日步壹錢八厘ノ割合トシ國庫ノ都合ニ依リ隨時返償スルモノトセリ次テ同年十一月二十七日殘額百萬圓ヲ借入レタルカ其利子ハ前回ニ同シ但シ三十五年十二月九日以後ハ總テ日步壹錢七厘ト改メタリ

製鐵所作業資金繰換借入金ノ借入年月日及金額等ハ左表ノ如シ

借入年月日	借入高
三十五年十月二十九日	1,000,000 円
同年十一月二十八日	1,000,000
合 計	2,000,000

第四節 國債證券ノ取扱ニ關スル事項

終リニ國債證券ノ取扱ニ關スル事項ヲ述ベシニ明治三十四年八月勅令第百五十四號ニ依リ明治三十三年清國事變ニ關スル一時賜金受領者ヘ交付ノ爲メ三十四年度中國庫預金部所有ノ大日本帝國政府五分利公債證券ノ大額面ヲ小額面ノモノニ交換シタリ
又明治三十五年九月三十日日本興業銀行總裁添田壽一ト香上銀行「ダビット、ジャクソン」「トーマス、エス、ペーカー」トノ間ニ國庫預金部ヨリ日本興業銀行ニ賣渡シタル大日本帝國政府五分利公債證券券面金額五千萬圓賣買ノ契約成立シタルニ由リ明治三十年五月軍事公債證券ノ例ニ倣ヒ證券ノ裏面ニ英文(字)ヲ以テ左ノ事項ヲ刷入シ其下ニ大藏省理財局長ノ印章ヲ押捺シ且ツ羅馬字(字)ヲ以テ記號ヲ刷入セリ

此證券若クハ利札ハ日本ニ於テハ金圓ヲ以テ日本銀行ニ於テ仕拂ハルヘシ又在倫敦有限責任橫濱正金銀行ニ呈示セラレタルトキハ每一圓ニ付二志零片二分ノ一ノ換算ニテ適當ニ仕拂ハ

ルヘシ

此證券ノ元金ハ法律ニ依リ千九百零六年(明治三十九年)一月一日(本文ハ明治三十四年發行ノ分ニシテ明治三十九年一月一日トナス)マテハ償還セサルモノトス而シテ其元金ハ次續スル五十年間ニ抽籤ノ方法ニ依リ全部償還スヘシ

而シテ前記ノ裏書ヲナシタル證券ノ發行年別及券面種類別ヲ示セハ左表ノ如シ

券面種類	發行年次	三十四年	三十五年	合 計
五千圓		四,八四二 枚	九〇〇 枚	五,七四二 枚
千圓		一,五七〇	一九,七二〇	二一,二九〇
合 計		六,四一二	二〇,六二〇	二七,〇三二

附錄 地方債

附錄 地方債

第一 地方債ニ關スル條規並其監督

地方債ニ關スル條規ハ明治九年布告第三百三十號ヲ以テ嚆矢トナス蓋シ之ヨリ曩キ各區町村等地方團體ノ漸ク發達スルニ及ヒ其經營上必要ノ費用ヲ支辨スル爲メ起債ヲ爲スモノ少ナカラザリシト雖モ之ニ關シテ未タ何等一定ノ制度ヲ見ルニ至ラス各地自カラ其制ヲ異ニシ公私ノ區別亦頗ル不判明ナルモノ多カリシカハ政府ハ明治九年ニ至リ布告第三百三十號ヲ以テ各區町村金穀公借規則ヲ發布シ區ノ起債ニ在テハ該證券ニ其區正副區長並ニ區內各町村ノ總代若干名ノ連印ヲ要シ町村ニアツテハ正副區長並ニ町村內不動産所有者ノ若干名之レニ連印スルコト、シ若シ正副區長ノ捺印ノミヲ以テスルトキハ之レヲ區長ノ私借ト看做スヘキモノトシ地方債ニ關シ茲ニ始メテ一ノ制限ヲ見ルニ至レリ

布告第三百三十號 (明治九年十月十七日)

各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則自今左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 凡ソ一區ニ於テ金穀ヲ公借シ若シクハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スルトキハ正副區長並ニ其區內每町村ノ總代二名ツ、ノ内六分以上之ニ連印スルヲ要スヘシ

第二條 凡ソ町村ニ於テ金穀ヲ公借シ若シクハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スル時ハ正副區長並ニ其町村內不動産所有者六分以上之ニ連印スルヲ要スヘシ

但右不動産所有者ヨリ其總代ヲ選ンテ之カ代理タラシムルハ其都合ニ任スヘシ

第三條 凡ソ區內若クハ町村內ニテ土木ヲ起功スル時ハ其區ト町村ナルトニ隨ヒ各第一條若クハ第二條ニ倣フヘシ

第四條 若シ第一條第二條及第三條ニ指示セル場合ニ於テ唯正副區長ノ印ノミヲ鈐シ其須要ナル連印ナキモノハ總テ之ヲ該區長限リノ私借若クハ私ノ土木起功ト看做スヘシ其正副區長ノ印ノミヲ以テ共有ノ地所建物等ヲ賣買シタル者ハ總テ賣買ノ效ヲ有セス

斯クテ明治十一年七月太政官無號達ヲ以テ大ニ地方制度ヲ改メ地方長官ハ地方ノ情況ヲ參酌シテ區町村ニ區町村會ヲ開キ區町村限リノ公共事項ニ關スル費用ハ其議決ニ依リテ區町村長之レヲ執行スルモノトナセルヲ以テ區町村會ヲ開設セ

ル地方ニ在テハ其起債ニ關シテモ亦其會議ニ付スルヲ要スルコト、シ明治十二年六月布告第二十二號ヲ以テ左ノ如ク公布セリ

布告第二十二號 (明治十二年六月二十四日)
區會町村會ヲ開設セル地方ニ於テハ明治九年十月第三百三十號布告金穀公債、共有物取扱、土木起功ノ事項ハ總テ該會議ニ付シ施行スヘシ此旨布告候事

明治二十一年四月法律第一號ヲ以テ市制及町村制ノ公布セラレ市及町村ノ自治制度ヲ確立シ地方自治行政ニ關スル詳細ナル制規ヲ見ルニ及ヒ市町村ノ公債ニ關シ始メテ稍、完備セル制度ヲ生スルニ至レリ即チ市制第六條及町村制第六條ニ於テ起債ノ目的市町村會ニ於ケル議決ノ方法ヲ定メ市町村共ニ公債ヲ募集スルハ舊公債元額償還、天災其他必要已ムヲ得サル支出及市町村永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スル場合ニ限リ市町村會ニ於テ公債募集ノ議決ヲナストキハ同時ニ募集ノ方法及償還方法ヲ定ムヘク償還ノ初期ハ三年以内トシ毎年償還ノ歩合ヲ定メ募集ヨリ三十箇年以内ニ還了スルヲ要スルモノトシ又一時借入金ハ右ノ例ニ拘ラス其年度内ニ償還スルヲ要シ市ニ在テハ市會ノ議決ヲ要セス市參事會ノ意見ヲ以テ募集スルヲ得ルモノトセリ而シテ市制第二百二十二條及町村制第二百二十六條ヲ以テ地方債監督ニ關スル件ヲ規定シ新ナル負擔トナルヘキ公債、舊公債額及償還ニ關スル法定ノ制限ヲ超ユル公債ニシテ共ニ償還期限三年以上ニ涉ルモノハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ要スルモノトセリ市町村制中地方債ニ關スル規定ヲ左ニ抄録スヘシ

市 制 (抄録) (明治二十一年四月十七日)

第六條 市ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ市ノ永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ其市住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

市會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法及利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但此場合ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス

第二百二十二條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一 新ニ市ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ

在ラス

二 市特別稅並使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

町村制 (抄録) (同上)

第六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法及利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キ者トス
第二百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限

ニ在ラス
二 町村特別稅並使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

右市町村制ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行スルコト、ナリシカ當時會、東京市市區改正ノ舉アリ此事タル固ヨリ首都ノ一大事業ニシテ之ニ伴フノ經費モ亦尠シトセス故ニ之カ完成ヲ圖リ償還ノ途ヲ誤ラサシメントセハ特別ノ法令ヲ設ケ之ニ依據セシムルノ必要アルヲ以テ政府ハ明治二十一年勅令第六十二號ヲ以テ東京市區改正條例ヲ發布シ第十二條ニ於テ公債募集ノ特別ヲ示シ東京府區部ハ毎年收入スヘキ特別稅ヲ目的トシ五十箇年以内ノ期限ヲ以テ公債ヲ募集スルコトヲ得ヘキモノトナセリ左ニ其條文ヲ示サン

勅令第六十二號 (明治二十二年八月十六日)

東京市區改正條例 (抄錄)

第十二條 市區改正ノ爲メ一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東京府區部ハ每年收入スヘキ特別稅ヲ目的トシ五十箇年以内ノ期限ヲ以テ公債ヲ募集スルコトヲ得其金額及起債ノ方法ハ東京府知事之ヲ定メ東京府區部會ノ議決ヲ取リ內務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

而シテ府縣ノ起債ニ關シテハ未タ特別ノ規定ヲ存スルニ至ラザリシ時ニ在テモ臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テハ其年度内ノ收入ヲ豫期シテ一時之カ借入ヲ遂行スルニアラサレハ縣治上圓滑ノ活動ヲナスコト能ハサルニヨリ明治十一年布告第十八號ヲ以テ府縣會規則ヲ發布セラレシヨリ同則中借入ニ關スル明文ナキモ臨時經費徵收ノ一方法トシテ臨時府縣會ノ決議ヲ經テ年度内ノ借入ヲ施行シタルノ實蹟ナキニアラスト雖モ其多クハ豫備費ノ支出若クハ賦課ノ方法ニ據リタルモノナリ然ルニ爾來數年ヲ閱シ明治十五年ニ至リ布告第六十八號ヲ以テ府縣會規則第三十七條第二項ヲ追加シ常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急務ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルコトヲ得ルモノトセラレタルノ結果特ニ臨時縣會ノ開設ヲ俟タス常置委員ノ決議ニ依リテ之カ借入ヲ爲スヲ得ルコト、ナレリ然レトモ備荒儲蓄金ヨリ之カ借入ヲ爲スノ稟請ハ凡テ之ヲ否認シ既ニ之レカ借入ヲ了シタルモノニ對シテハ將來ノ注意ヲ加ヘタリ

明治二十三年一月法律第三號ヲ以テ地方稅經濟ニ於テ非常災害ノ爲メニ要スル土木費借入ノ件ヲ公布シ府縣ニ於テ非常災害ノ爲メ臨時ノ土木費ヲ要シ一時地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テハ十箇年以内ノ償還期限ヲ以テ借入金ヲ爲スコトヲ得ヘク又其借入金ハ府縣備荒儲蓄金ヨリ其年度初現在高ノ三分ノ一マテ借入ル、コトヲ得ヘキモノトナセシハ之レ即チ府縣制施行以前ニ於ケル長期借入金ノ濫觴ニシテ又備荒儲蓄金ヨリ借入ヲ許容セラレタルハ實ニ茲ニ始マル

法律第三號 (明治二十三年一月二十日)

第一條 府縣ニ於テ非常災害ノ爲メ臨時ノ土木費ヲ要シ一時地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取リ內務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得十箇年以内ノ償還期限ヲ以テ借入金ヲ爲スコトヲ得
第二條 前條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ內務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其府縣ノ備荒儲蓄金ヨリ其年度初現在高ノ三分ノ一マテ借入ル、コトヲ得但本條ノ借入金ニ對シテモ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス
第三條 借入金ノ認可ヲ得ントスル時ハ府縣會ノ議決ヲ經タル借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲモ併セテ內務大

臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

然ルニ明治二十三年法律第三十五號ヲ以テ府縣制ヲ公布シ同第三十六號ヲ以テ郡制ヲ公布シ府縣及郡ノ自治權ヲ確定スルニ及ヒ府縣ノ起債ニ關シテハ府縣制第七十四條及第九十條ヲ以テ規定シ郡ノ起債ニ關シテハ郡制第六十四條第八十一條ヲ以テ之ヲ規定セリ即チ府縣ハ(一)舊債元額償還(二)天災等ノ爲メ已ヲ得サル支出(三)永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スル場合ニ又郡ハ(二)及(三)ノ場合ニ限リ公債ヲ起スヲ得ヘク起債ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣ハ府縣會郡ハ郡會ノ議決ヲ經ルヲ要シ其議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利率及償還ノ方法ヲ定ムヘク其償還ノ初期ハ三年以内トシ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘキモノトス而シテ歲入出豫算内ノ支出ヲ爲ス爲メ必要ナル一時ノ借入金ニシテ年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ右ノ例ニ依ラス府縣ハ府縣參事會、郡ハ郡參事會ノ議決ヲ經ヘキモノトス又新ナル起債其増額及償還方法ノ變更ニ關スル府縣會又ハ郡會ノ議決ハ內務大藏兩大臣ノ認可ヲ受クヘキモノト定メタリ

府縣制 (抄錄) (明治二十三年五月)

第七十四條 府縣ハ舊債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災事變ノ爲メ已ムヲ得サル支出又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ府縣ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣會ノ議決ヲ以テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ
府縣債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ
歲入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但府縣參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
一 新ニ府縣債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若クハ償還ノ方法ヲ變更スル事

郡制 (抄錄) (明治二十三年五月)

第六十四條 郡ハ天災事變ノ爲メ已ムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得
郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ
郡債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但郡參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第八十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若クハ償還ノ方法ヲ變更スルコト

府縣制ノ制定ニ由リ同法實施ノ府縣ニ於テハ第七十四條ニ依リ起債ヲ爲スヲ得ルニ至レルヲ以テ明治二十三年一月法律第三號府縣借入金ニ關スル規定ハ最早存置ノ必要ヲ認メサルヲ以テ同年八月法律第七十四號ヲ以テ府縣制施行ノ地方ニ限リ之ヲ廢止スル旨ヲ公布シタリ即左ノ如シ

法律第七十四號 (明治二十三年八月二十七日)

明治二十三年一月法律第三號ハ府縣制施行ノ地方ニ限リ之ヲ廢止ス但シ府縣制施行以前法律第三號第二條ニ依リ既ニ備荒儲蓄金ヨリ借入ノ契約ヲ爲シ未タ其借入ヲ了セサルモノハ其契約ヲ繼續スルコトヲ得

市町村及府縣ノ起債ニ關シテハ既ニ舉示シタルカ如シト雖モ之レカ監督上ニ至リテハ當時未タ一定ノ法規ナク其統計ノ如キ亦之レヲ徵スルニ途ナキヲ以テ大藏大臣ハ市町村制ノ實施ヲ起點トシ大ニ之レカ監督ノ必要ヲ認メ明治二十三年二月地方債簿ヲ國債局ニ設ケ之ニ起債ノ目的、理由、償還年限等ヲ登記セシムルコト、シ該登記上ノ要件ハ府縣知事ヲシテ之ヲ報告セシムルコト、ナシタリシカ國債局長ハ猶ホ市町村制實施以前ニ於ケル舊各區村ノ借入金若クハ同制施行後ニ於ケル三年以内ノ借入金額ヲ調査スルニアラサレハ地方全般ノ財政ヲ窺フニ足ラサルヲ認メ明治二十五年四月中之レカ照會ヲ各府縣ニ發シ銳意監督上ノ實效ヲ期セリ又從來市町村ニ於テ開設シタル水利土工會等ハ市制町村制施行後ト雖モ別ニ規定ヲ設クルマテ之レヲ存續スルコトヲ得ル旨明治二十二年三月法律第十一號ヲ以テ公布シ尋テ翌二十三年六月法律第四十六號ヲ以テ水利組合條例ノ發布ヲ見ルニ至レリ該條例ノ要旨ニ據レハ市町村ノ水利事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖モ二市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニヨリ市町村若クハ町村組合ノ事業ト爲スコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ水利組合ヲ設置スルコトヲ得ヘキモノニシテ普通水利組合ハ用悪水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲メ又水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲メニスル堤防浚渫砂防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノ、爲メ設置セラルヘキモノナリ而シテ以上兩組合ハ天災事變ノ爲メ止ムヲ得サル支出若クハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニシテ通常ノ歳入ヲ増加スルコトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得ヘク組合會ニ於テ右負債ノコトヲ議決シタルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘキモノトシ又此法律ハ市制

町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事内務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之レヲ施行スヘキモノトセリ

而シテ右水利組合條例ノ發布以後ハ從來ノ水利土功會ハ固ヨリ永續セラルヘキモノニアラス故ニ水利土功會ノ存續セルモノニシテ公債ヲ募集シ得ヘキヤ否ヤハ一ノ疑問ニ屬セリ然ルニ内務省ニ於テハ明治二十六年二月中富山縣荻野用水水利土功會起債ノ稟請ニ對シ之ヲ許可スルノ方針ヲ採リ之レカ合議ヲ大藏省ニ求メタリシカ大藏省ニ於テハ水利土功會ハ起債ノ權能ナキモノナリトノ意見ヲ持シ再三往復ノ結果同年三月中途ニ大藏省ノ意見ニ同意スルコト、ナレリ然レトモ内務省市町村課ニ於テハ簡キニ省議ノ決定ニ基ツキ暨ニ許可濟ノモノヲ無効トナストキハ土功會ト債主トノ間ニ容易ナラサル紛議ヲ惹起スルノ懸念ナキニアラサルヲ以テ從前許可ノモノニ對シテハ此儘之レヲ據置クノ得策ナルヘキヲ決議シ直ニ兩者ノ合議ヲ經タリ水利組合條例ノ法文ヲ掲クレハ左ノ如シ

水利組合條例 (抄 錄) (明治二十三年六月二十日) (法律第四十六號)

第四十一條 組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歳入ヲ増加スルト

キハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得

組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法及期限並利息ノ定率ヲ定ムヘシ

第五十條 組合會ニ於テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ得ルコトヲ要ス

ハ質入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知

事ノ認可ヲ受クヘシ

組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキ借入及償還ノ方法及期限並利息ノ定率ヲモ併テ内務大臣及大藏大臣

ノ認可ヲ受クヘシ

其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ヲ増加スルコトヲ得

抑 地方債募集ノ爲メ發行シタル流通債券ハ即チ公債證書ノ一部ニシテ政府發行ノ公債證書ハ國債證券ト稱フルコト現時ニ於テ疑ナキノ慣例ナリト雖モ明治二十三年ノ頃ニ當リテハ未タ解釋ノ一定スルモノナク隨テ當時ノ法文中單ニ公債證書トアルトキハ地方債ヲ包含セサルモノナリトノ議ヲ生シ又幾ハクナラスシテ地方債ヲ包含スル解釋ニ變更スルニ至レリ依テ今其顛末ヲ述ヘシニ東京市ハ明治二十四年一月中該市發行ノ公債證書ニ對シ或ル特定ノ事項ヲ限リ政府發行ノ

公債證書同様ノ效力ヲ有セシメラレシコトヲ内務及大藏兩大臣ニ稟請シタルニ内務省ニ於テハ右ノ請願中明カニ政府發行ノ公債證書ト法文ニ規定セルモノ即チ國立銀行條例ニヨル紙幣抵當ノ如キハ之レヲ許可セラルヘキモノニアラスト雖モ日本銀行條例及米商會社條例等ニ單ニ公債證書トアルモノニ對シテハ身元保證金營業保證金等ニ代用スルモ何等ノ支障ナキモノナリトノ解釋ヲ採リ之レヲ大藏省ニ合議シタルニ大藏省ニ於テハ其意見ヲ異ニシ會計規則日本銀行條例等從前ノ諸法規ニシテ單ニ公債證書ト記載セラレタルモノト雖モ其實國立銀行條例ニ於ケル政府發行ノ公債證書ト同一ノ意義ニ使用セラレタルモノナルヲ以テ東京市稟請ノ事項ハ總テ許可スヘキモノニアラストセリ是ニ於テカ兩省ハ再三之レカ往復ヲ累ネタルモ遂ニ其解釋ヲ一定スルコト能ハス翌明治二十四年二月七日ヲ以テ内務大臣ヨリ之レカ閣裁ヲ仰クノ止ムヲ得サルニ至レリ然ルニ内閣ニ於テハ現行法文中單ニ公債證書トアルハ政府發行ノ公債證書ヲ指稱スルモノニシテ地方公債證書ヲ包含セサルモノナリトノ解釋ニ決シ同年八月十三日ヲ以テ其旨ヲ通牒セラレタリ

然レトモ此ノ解釋タル畢竟法律命令上ノ解釋ニ止マリ東京市公債募集ノ實際問題ニ付テハ未タ詮議ヲ盡サレタルモノニアラサルヲ以テ之レヲ東京市實際上ノ事情ヨリ推ストキハ疑ニ提出シタル如ク公債證券ト同一ノ效力ヲ有セシムルニアラサレハ大ナル支障ヲ見ルヤ明ナリトス依テ内務大臣ハ明治二十四年八月十八日ヲ以テ更ニ之レカ特許ノコトヲ閣裁ニ仰キ同年九月十五日内閣書記官長ヨリ通牒スル所アリタリシカ其要旨ニ據レハ第一市公債ヲ國立銀行ニ於ケル發行紙幣ノ抵當トシテ政府ニ預入ル、コトハ國立銀行條例ニ抵觸シ法律ノ改正ヲ爲スニアラサレハ到底許可セラルヘキモノニアラサルヲ以テ第二第三ノ如キ保證金代用ヲ假ニ許可セラルヘキモノトスルモ全ク本稟請ノ目的ヲ達シタルモノト謂フヘカラス故ニ主務省ヲシテ閣議ノアル所ヲ指示シ該稟請書ハ一應却下セシメ然ルヘシト云フニアリキ是ニ於テ内務大藏兩大臣ハ右ノ閣裁ニ基ツキ同月十八日ヲ以テ其旨ヲ東京府知事ニ内訓シ漸ク其結末ヲ告クルコトヲ得タリ

右閣議ノ決定ニ據レハ現行法文中單ニ公債ナル文字ニ地方債ヲ含有セサルモノナルヲ以テ該趣旨ヲ敷衍スルトキハ地方債募集ノ爲メ發行シタル公債證書ノ賣買ハ國立銀行ノ營業本務ニ屬セサルヤ明ナリトス然ルニ明治二十四年末ニ當リ東京府知事ヨリ伺出テタル同市公債證書ノ賣買ニ關シテハ内務省ハ之レヲ營業本務ニ屬ストノ見解ヲ採リ大藏省ハ疑ニ決定ノ閣議ニ基ツキ容易ニ之レカ合議ニ應セス遂ニ翌二十五年ニ至リ内務大臣ハ之カ解釋ヲ閣議ニ求メ同年十月二十四日付ヲ以テ東京市公債證書ノ賣買ハ國立銀行ノ營業本務ニ屬スル旨通牒セラレタリシカ該閣議ノ要旨ニ依レハ國立銀行條例及日本銀行條例等ニ所謂公債ハ政府發行ノ公債ヲ指稱スルモノナリトスルモ是等ノ法規ハ何レモ市町村制以前ニ制定セラレタルモノナルヲ以テ後法ハ前法ヲ制スルノ原則ニヨリ市町村制發布後ノ今日ニ當リテハ政府發行ノ公債證書ト市

町村發行ノ公債證書ト何等ノ區別アルヘキモノニアラス又市町村制第六條及其他ノ明文ニ於テ市ノ公債若クハ町村ノ公債ト稱シ市債町村債ノ名ヲ用ヒサルカ如キ殊ニ憲法ニ於テハ國ノ公債ヲ指スニ國債ノ文字ヲ以テシ一般ノ公債ト區別シタルカ如キハ其解釋ヲ確ムルノ適例ナリト云フニアリキ故ニ以上ノ解釋ヲ嚮ノ閣議ニ對比スルトキハ孰レモ市町村制發布後ノ裁定ナルニモ拘ハラス前者ハ地方債ヲ包含セサルモノトシ後者ハ地方債ヲ包含スルモノトシ全ク反對ノ解釋ヲ採ルニ至リシモノニシテ又其通牒ニヨレハ東京市公債證書ノ賣買ハ國立銀行ノ營業本務ニ屬スルモノナリト雖モ其解釋ハ固ヨリ東京市ニノミ限定スヘキモノニアラサルヤ明カナルヲ以テ明治二十五年十一月一日付大阪府知事ノ伺ニ對シ大阪府公債證書ト雖モ同一ノ取扱タルヘキ旨内務大藏兩大臣ヨリ指令シタリ

又舊債償還ノ爲メ募集スル公債ト雖モ其債權債務ノ關係ハ茲ニ新ニ發生スルモノナルヲ以テ市制第六條ニ於テハ其起債ノ場合ヲ三個ニ區別シ舊債償還ノ目的ヲ以テスルモノヲ第一ニ置キ第二第三ニ於テハ天災事變等止ムヲ得サルノ支出若クハ永久ノ利益トナルヘキ支出ニ對シテハ公債ヲ募集シ得ヘキモノトナスニモ係ハラス同制第二百二十二條第一號ニ於テハ新ニ市ノ負債ヲ起ス場合ニハ内務大藏兩大臣ノ認可ヲ得ルヲ要スル旨ヲ規定シタリト雖モ其字句明瞭ナラサルカ爲メ往々之レカ疑ヲ惹起シ明治二十八年中廣島市參事會ヨリ同市宇品町土地購入費ニ關シ舊債償還ノ爲メ募集シタル公債ハ内務大藏兩大臣ノ認可ヲ經ルノ必要ナキモノナリトノ行政訴訟ヲ提起シ同年五月十八日ヲ以テ是レカ裁決ヲ見ルニ至リタリシカ此判決ノ要旨ニ依レハ市制第六條第一項ハ公債募集ノ目的ヲ掲ケテ其範圍ヲ限定シ第二百二十二條ニ於テハ特ニ認可ヲ要スヘキモノヲ列舉シタルモノナルヲ以テ右第二百二十二條ニ所謂新タニ市ノ負債ヲ起ストハ起債ノ當時負債ナキ市ニ於テ負債ヲ起ス場合ヲ云フニ止マルモノナリ故ニ舊債償還ノ爲メニスル負債ノ如キハ認可ヲ要スルノ限リニアラスシテ廣島縣知事カ與ヘタル裁決ハ之レヲ取消スヘキモノナリト云フニアリキ然レトモ監督官廳ニ於テ如斯解釋ヲ採ラシカ舊債償還ノ場合ハ勿論一旦負債ヲ起シタルノ市ハ更ニ認可ヲ經スシテ隨意ニ公債ヲ募集シ得ルノ結果トナリ監督上ノ實ヲ舉クルコト能ハサルヤ明ナルヲ以テ爾來内務大藏兩省ノ一定シタル方針ハ右ノ如キ場合ニ於テモ孰レモ認可ヲ要スヘキモノナリトノ解釋ヲ採リ務メテ監督ノ實ヲ舉ケンコトヲ期セリ

又地方債監督ノ方法ニ關シテハ明治二十三年二月ノ裁決ニ基ツキ特ニ之レカ帳簿ヲ設ケ起債ノ目的理由債額等ヲ登記シ又償還其他必要ナル事項ハ府縣知事ヨリ之ヲ大藏大臣ニ報告セシムルコト、ナセルハ既ニ敘述シタルカ如シト雖モ市町村若クハ水利組合ノ起債稟請書ニ添付スヘキ書類ニ關シテモ一定ノ標準ヲ設ケ綿密ナル調査ヲ遂クルニアラサレハ到底其目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ該稟請書ニハ公債並利子償還ノ財源、償還年次表、當該年度歲入出豫算表等ヲ添

付スヘキ旨明治二十六年十一月十八日ヲ以テ左ノ如ク府縣へ令達シタリ

訓令第六九二號 (明治二十六年十一月十八日)

市制町村制第六條及水利組合條例第四十一條ニ依リ募集スル公債ハ法文ノ示ス如ク市町村又ハ水利組合ノ財政上特ニ必要アル場合ニ限リ其他ハ務メテ之ヲ避クヘキハ勿論ノ處往々必要ナラサル負債ヲ起サントシ又ハ其財政ニ照シ過度ノ負債ヲ起サントスルモノ有之將來市町村ノ財政上不都合ヲ生スルノ恐レナキ能ハス依テ自今公債募集ノ議決ヲ爲シ許可稟請スルニ當テハ募集及償還ノ方法等ニ就キ精査調査ヲ遂ケ其事業ノ緩急負擔ノ堪否ニ付テハ詳細意見ヲ具陳シ尙ホ調査ノ参照トシテ募集ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ關スル議決書ハ勿論左ノ事項ヲモ無洩記載シ進達スヘキ儀ト心得ヘシ

右訓令ス

- 一 公債竝ニ利子償還ノ財源
但將來收入ヲ生スヘキ事業ノ爲メ公債ヲ起シ其收入ヲ以テ償還ニ充テントスルトキハ償還期限ノ終ルマテ毎
年收入ノ年次見込書添付スヘキハ勿論ナリトス
- 一 公債元利償還ノ年次表 (第一表)
- 一 當該年度歲入歳出豫算表 (第二表)
- 一 當該年度諸稅負擔一覽表
- 一 基本財産ノ有無竝ニ其額

負債償還年次表 (第一表)

年	度	償	還	元	金	利	子	(割	合)	計
同	同	何	年	年	度	度	度	度	度	度	度
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

諸稅負擔一覽表

(第二表)

稅目	金額	納稅者總數	平均一人當	人口	對一人當	平均	對一人當
直轄國稅	〇〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
府縣稅	〇〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
市町村稅	〇〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

總人口總戶數及納稅者ノ總數(納稅者ノ總數ハ一人ニシテ直接國稅府縣稅市町村稅ヲ納ムルモノモ或ハ)ヲ備考トシテ掲載スヘシ水利組合ニ於テ要スル負債ニ付テハ水利組合區域内ヨリ納ムヘキ諸稅目ヲ前表ニ準シ調製シ尙ホ左表ヲ添付スヘシ

費目	金額	附記
水利組合費	〇〇〇〇	普通水利組合ニ於テハ組合内ノ建設別地價及地價平均費相當ニ出費一人ノ平均負擔額水費補助組合ニ於テハ組合内家屋ノ總數土地ノ建設別費ニ出費一人ノ平均負擔額

而シテ地方債募集ニ際シ其起債額中ニ募集費若クハ利子ヲ組入レシムルトキハ負債額ノ増加ヲ來スハ勿論募集費ノ如キハ動モスレハ濫費ノ弊ニ陥リ易キモノナルヲ以テ歲計ノ許ス範圍内ニ於テハ可成的之レヲ負債ニ仰カシメサルハ監督上最モ必要ノ事項ナルヲ以テ明治二十九年九月二十九日爾後公債ヲ以テ事業ヲ經營セントスル場合ニ於テハ其募集費利子等ハ其歲入ヲ以テ支辨セラルヘキ旨各府縣へ通牒シタリ然ルニ雖ニ府縣へ令シ報告セシメタル起債若クハ償還ノ年月及其債額等ニ關シテハ未タ精確ナル調査ヲ遂クルコトヲ得ス又此報告ト雖モ單ニ内務大藏兩大臣ノ認可ヲ經タルモノ、ミニ係ルヲ以テ完全ナル調査ヲ爲サントセハ更ニ此際訓令ヲ發シ自今之レカ報告ヲ怠ラサシムルノ必要アルヲ以テ同年十一月二日大藏省連第二〇四一號ヲ以テ其旨ヲ各府縣へ令達セリ

シカ爲メ調査上無用ノ手數ヲ要スルヲ以テ償還ノ財源賦課ノ方法ヲ始メ府縣有若クハ郡有財産ノ有無竝其額等ニ至ル迄之レヲ記載シ償還年次表諸稅負擔一覽表ハ一定ノ書式ニ基キ總テ精數ナル調査ヲ經テ之レカ稟申ヲ取扱フヘキ旨明治三十一年三月十六日付ヲ以テ左ノ如ク府縣へ通牒シタリ

第五九三號 (明治三十一年三月十六日)

府 縣

府縣ニ於テ起債ヲナサンコトヲ議決シ許可稟請ヲナスニ當テハ起債及償還ノ方法ハ勿論償還ノ財源及其負擔ノ堪否等精數調査ヲ遂ケ起債ノ方法、利息ノ定率償還ノ方法ニ關スル議決書及參照トシテ別紙ノ事項ヲ無洩記載シ稟申スヘキ儀ト心得ヘシ

但郡債ノ場合ニ於テハ明治二十六年十一月十八日訓令ニ準シ取扱ヘシ
右訓示ス

(別紙)

- 一 償還ノ財源及之レカ賦課若クハ收入ノ方法
- 一 但本項ノ收入ニツキテハ償還期限ノ終マテ毎年収入ノ年次見込書ヲ添付スヘシ
- 一 償還年次表 (第一表)
- 一 當該年度諸稅負擔一覽表 (第二表)
- 一 府縣有若クハ郡有財産ノ有無竝其額

年 度	償 還 元 金		利 子 (割 合)		計
	何 年 度	同 年 度	何 年 度	同 年 度	
計	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

稅 目	額		納稅者總數ニ對スル平均一人當		總戶數ニ對スル平均一人當	
	直 接 稅	間 接 稅	市 町 村 稅	府 縣 稅	市 町 村 稅	府 縣 稅
計	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

總人口總戶數及納稅者ノ總數(納稅者ノ總數ハ一人ニシテ直接間接稅ヲ納ムルモノモ或ハ其ノ備考トシテ掲載スヘシ)内一稅又ハ二稅ヲ納ムルモノモ凡テ一人ニ算シタル總人口トシテ算スル

既ニ述ヘタル如ク未タ府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ明治二十三年法律第三號ニ依リ非常災害ニ由ル臨時土木費支辨ノ爲メ十餘年以下ノ償還期限ヲ以テ借入金ヲ爲スヲ得ルト雖モ地方行政ノ發達ニ伴ヒ府縣制實施ノ地方ト甚キ差異ヲ存スル能ハサル事情アルヲ以テ明治二十九年三月法律第六十二號ヲ以テ明治二十三年法律第三號ヲ廢止シ府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テ臨時土木費ヲ要シ地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ認可ヲ得三十箇年以内ノ償還期限ヲ定メテ公債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スヲ得ヘク其償還ノ初期ハ三十箇年以内トシ又右ノ借入金備荒儲蓄金ヨリ借入ル、ヲ得ルモノト爲セリ右法律第六十二號中地方債ニ關スルモノ左ノ如シ

法律第六十二號 (明治二十九年三月)

第一條 府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テ臨時土木費ヲ要シ地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得三十箇年以内ノ償還期限ヲ定メ公債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ償還ノ初期ハ三年以内トスヘシ

第二條 (略)

第三條 第一條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其ノ府縣ノ備荒儲蓄金ヨリ其ノ年度初現在高ノ三分ノ一ニテ借入ル、コトヲ得但シ本條ノ借入金ニ對シテモ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス前項ノ場合ニ於テ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ常設委員ヲシテ府縣會

ニ代テ議決ヲ爲サシムルコトヲ得常置委員ハ其ノ議決ヲ府縣會ニ報告スヘシ

第四條 第一條ノ認可ヲ得ムトスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經タル公債募集ノ方法又ハ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲモ併セテ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第六條 明治二十三年法律第三號及法律第七十四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

又既に記述セシカ如ク内地ニ在テハ明治二十三年以降市町村其他公共團體ニ對シ起債ノ制度ヲ設ケタリト雖モ沖繩縣北海道ノ如キハ自ラ内地ト情況ヲ異ニシ該制度ノ發達モ亦遲ク漸ク明治二十九年勅令第十九號沖繩縣區制三十年勅令第五十八號北海道區制同第五十九號北海道一級町村制同第六十號北海道二級町村制ニ於テ始メテ起債ニ關スル事項ヲ設ケタリ而シテ其規定ハ大體ニ於テ内地市町村ノ規定ト異ルコトナシ今左ニ關係ノ法令ヲ掲ケン

沖繩縣區制 (抄録) (明治二十九年三月)

第七十七條 區ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若クハ區ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ區住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ區債ヲ起スコトヲ得

區債ヲ起スニ付區會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘキモノトス其ノ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

區債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スルヲ以テ常例トス

區債ノ總額ハ毎年ノ利子額其ノ區經常支出既往三年(起債ノ都度其ノ前年度ヨリ起算ス)平均額ノ四分ノ一ヲ超過セサルヲ限度トス

區債ハ債券ヲ發行スルコトヲ得ス
豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經ヘシ

第九十二條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一 區債ヲ起シ或借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第七十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

北海道區制 (抄録) (明治三十年五月)

第八十條 區ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若クハ區ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ區住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ區債ヲ起スコトヲ得

區債ヲ起スニ付區會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘキモノトス其ノ變更ヲ要スルトキ又ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ニ關シ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

區債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スルヲ以テ常例トス

區債ノ總額ハ毎年ノ利子額其ノ區經常支出既往三年(起債ノ都度其ノ前年度ヨリ起算ス)平均額ノ二分ノ一ヲ超過セサルヲ限度トス

區ハ債券ヲ發行セサルヲ常例トス又如何ナル場合ニ於テモ無記名債券ヲ發行スルコトヲ得ス
豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經ヘシ

第九十五條 左ニ掲クル事件ハ拓殖務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一 區債ヲ起シ或借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第八十條末項ノ借入金ハ此限ニ在ラス

北海道一級町村制 (抄録) (明治三十年五月)

第八十二條 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若クハ町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘキモノトス其ノ變更ヲ要スルトキ又ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ニ關シ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

町村債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スルヲ以テ常例トス

町村債ノ總額ハ毎年ノ利子額其ノ町村經常支出既往三年(起債ノ都度其ノ前年度ヨリ起算ス)平均額ノ三分ノ一ヲ超過セサルヲ限度トス

町村ハ債券ヲ發行スルコトヲ得ス

豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第一百一條 左ニ掲クル事件ハ拓殖務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村債ヲ起シ並借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第八十二條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

北海道二級町村制 (抄録) (明治三十年五月)

(勅令第六十號)

第七十八條 町村ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ヲ償還スル爲ニ必要ナル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得其ノ他一級町村制第八十二條第二項乃至第五項ヲ適用ス

豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第九十四條 左ニ掲クル事件ハ拓殖務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村債ヲ起シ並借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第七十八條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

町村學校組合ノ起債ニ關シテハ明治二十七年三月二十三日内務省發議愛媛縣下學校組合ノ稟請ニ起因シ授業料滯納者處分ノ件ト共ニ内務大藏兩省ハ全然之カ解釋ヲ異ニシ再三往復ヲ累スルモ議容易ニ決セサルヲ以テ内務省ハ明治二十九年八月中途ニ之レカ裁定ヲ閣議ニ仰クノ止ムヲ得サルニ至リタリシカ爾後兩省ハ可成事ノ穩カナランコトヲ希圖シ大ニ其說ヲ取捨シ明治三十年一月二十六日付各府縣ヘノ通牒ニヨリ茲ニ其終局ヲ告クルコトヲ得タリ而シテ内務省ノ主張スル處ニヨレハ學校組合ナルモノハ明治二十三年法律第八十九號地方學事通則ニ基ツキ小學校令ノ規定ニヨリ設置セラル、モノニシテ該小學校ノ設立維持ニ關シ必要ナル事務ハ學事通則第三條ニ所謂教育事務ノ範圍内ニ包含セラル、モノナリ隨テ學校組合ニ於テハ其學校ノ設立維持ニ必要ナル場合ニ於テ町村又ハ他ノ町村組合ト均シク町村制ノ規定ニ據リ負債ヲ起スコトヲ得又授業料滯納者ニ對シ督促手數料ヲ徵シ並ニ滯納處分ヲ爲スノ權能ヲ有スルモノナリト云フニアレトモ大藏省ノ意見ニ依レバ負債ヲ起シ手數料ヲ徵シ滯納處分ヲ爲スカ如キハ直接ノ教育事務ニ非サルヲ以テ學事通則第三條ノ教育事務ニ包含セス故ニ該組合ノ設立維持ニ必要ナル費用ハ組合内ノ各町村ニ於テ之レヲ起債セシムルトセハ學校組

合其モノニ於テ債起セシムルノ必要ナシト云フニアリキ

又町村内ニ於ケル區ノ起債ニ關シテハ町村制中ニモ明文ノ據ルヘキモノナキヲ以テ明治二十九年九月十六日稟請ニ係ル千葉縣下六合村萩原區債ノ件ニ對シ内務省ハ速ニ大藏省ノ意見ヲ容レ町村ニ於ケル區ハ起債ノ權能ナキモノナリトノ斷定ヲ下シ該稟請書ハ明治三十年三月四日發議ニヨリ之レヲ却下シ爾來之レカ方針ヲ變スルコトナク以テ今日ニ至レリ地方債整理ノ爲メ從來大藏省國債局ニ設備シタル帳簿ハ其組織不完全ナルノミナラス其額ハ日ニ月ニ増加ノ傾ヲ呈シ調査上ノ手數ヲ要スルコト尠ナラサルニヨリ明治三十年一月中之レカ帳簿ノ改良ヲ圖リ又明治二十九年十一月ノ達ニ基ツキ各府縣ヨリ報告スル處ノ三年以内ノ借入金ニ對シテハ單ニ其未償還額ヲ府縣別ニ區分シ以テ其整理ヲ進捗セシメ度旨ヲ發議シ之レカ裁決ヲ得タリ然レトモ曩ニ府縣ヘノ合達ニ據リ報告セシムル所ノ地方債ハ其報告ノ書式ヲ一定セザリシカ爲メ其様式區々ニ涉リ記帳整理上ノ不便尠ナカラサルヲ以テ同年七月十三日ヲ以テ之レカ書式ヲ各府縣ヘ通牒シタリ

地方債ノ募集及償還ニ關シ市町村ニ於テ設定シタル條例中元利金ノ消滅時効ヲ規定スルモノアリト雖モ時効ノコトタル債權ノ得喪上重大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ現行法令ニ於テハ特ニ之レカ明文ヲ設ケ各一定ノ年限ヲ指示スルモノナルニヨリ該法令ニ反シタル時効ヲ市町村條例中ニ規定セシムルハ固ヨリ不穩當ノ處置ニシテ殊ニ長期時効ヲ定ムルカ如キハ全ク立法ノ精神ヲ無視シタル違法ノ規定ト謂ハサルヲ得ス故ニ此際從來ノ取扱ヲ變シ長期ノ規定ハ一切之レヲ刪除セシメ又短期ノモノト雖モ可成之レヲ規定セシメサルノ方針ニ改メ度旨明治三十年十一月中大藏省ヨリ發議シ遂ニ内務省ノ同意ヲ得タリ

斯クテ明治三十二年三月法律第六十四號及同六十五號ヲ以テ府縣制及郡制ヲ改正シ府縣及郡ノ起債ニ關スル規定モ亦改正ヲ加ヘラル而シテ其改正ノ要點ヲ舉レハ郡ハ其負債ヲ償還スル爲メニモ起債スルヲ得ル旨ヲ明定シ府縣債及郡債共ニ其償還年限ニ關スル從來ノ制限ヲ除キ又主務大臣ノ許可ヲ受クヘキ場合ヲ詳細ニ明定シ起債並ニ起債ノ方法利率及償還方法ヲ定メ若クハ變更スル場合ニハ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受クヘキモノトセリ改正府縣制及郡制中地方債ニ關スル規定左ノ如シ

府縣制 (抄録) (明治三十二年三月十五日)

(法律第六十四號)

第十七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲必要ナル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
 府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得
 第三百三十四條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 府縣債ヲ起シ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

郡 制 (抄録) (明治三十二年三月 法律第六十五號)

第九十五條 郡ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スニ付郡會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
 郡ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス郡參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得
 第一百十五條 郡債ヲ起シ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ之ヲ變更スルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ第九十五條末項ノ借入金ハ此限ニ在ラス

右ノ如ク府縣制第三百三十四條及郡制第一百十五條ノ規定ニ依リ府縣及郡ノ公債ニ關シテハ一時借入金ノ場合ヲ除キ特定ノ事項ニ付キ内務大臣兩大臣ノ許可ヲ要スルコト、ナセルモ少額ノ起債ヲ爲スニモ常ニ許可ヲ要スルモノトセハ却テ不便ヲ生スヘキヲ以テ之レカ例外ヲ設クルノ必要ヲ認メ明治三十二年六月勅令第三百十五號ヲ以テ府縣債ノ元本總額五萬圓郡債元本總額千圓ニ達スル迄ノ起債ハ内務大臣ノ許可ヲ要セス郡ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘキモノトセリ

勅令第三百十五號 (抄録) (明治三十二年六月二十八日)
 左ニ掲クル事項ハ主務大臣ノ許可ヲ要セス但シ郡ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
 七 府縣債ノ元本總額五萬圓郡債ノ元本總額千圓ニ達スルマテノ起債
 從來地方債ノ借入、償還ニ付テハ主務省ノ認可ヲ要スルモノト否トヲ問ハス總テ主務省ニ報告セシメ來リタリシモ市町村三年以内償還三十二年勅令第三百十五號ニ依ル寡額ノ府縣郡債ノ如キ不要認可債ニ付テハ繁文省略ノ趣旨ニ基キ一々報告ノ勞ヲ省キ地方廳ニ於テ之ヲ整理セシメ主務省ノ要求ニ應シ取纏メ報告セシムルコト、シ三十四年度ヨリ之ヲ施行セリ

又北海道ニ於テハ區及町村起債ノ制度施行セラル、ニ至リタルヲ以テ之カ監督上ノ必要ニ基キ起債票請ノ心得並償還ノ

報告方等ニ關シ左ノ如ク主務大臣ヨリ道廳長官ニ訓令ヲ發セリ

內務省訓第二七五號 (明治三十四年四月十七日)

北海道區制及北海道一級町村制第九十二條ニ依ル區町村起債ノ件ハ條文ノ示ス如ク容易ニ爲スヘキ事ニ無之候得共若
 財政上不得已必要アリ許可稟請ノ場合ハ事業ノ緩急、負擔ノ堪否及借入、償還ノ方法等精査調査ヲ遂ケ其意見ヲ具陳
 シ尙調査ノ參照トシテ區町村會ノ議決書ハ勿論左ノ事項取調進達セラルヘシ

右訓令ス

一 已往五箇年當該區町村一般經濟事項ノ變遷ニ關スル統計表
 一 區町村債及利子償還ノ財源
 但シ將來收入ヲ生スヘキ事業ノ爲メ區町村債ヲ起シ其ノ收入ヲ以テ償還ニ充テントスルトキハ償還期限ノ終
 リマテ毎年収入ノ年次見込書ヲ添付スヘキハ勿論トス

一 區町村債元利償還ノ年次表 (第一表)
 一 當該年度歲入歲出豫算表 (第一表)
 一 當該年度諸稅負擔一覽表 (第二表)
 一 既往三年(起債年度ノ前)ニ於ケル各年度經常費支出額
 一 基本財産ノ有無並ニ其價格總額

負債償還年次表 (第一表)

年 度	何 年 度	同 年 度	同 年 度
元 金	○	○	○
利 子 (割 合)	○	○	○
計	○	○	○

備考 既ニ負債アルトキハ同年度ニ於テ償還ノ分各欄内ニ朱ニテ別記ヲ要ス

諸稅負擔一覽表

(第二表)

稅目	金額	納稅者總數	平均一人當	總人口	平均一人當	總戶數	平均一戶當
直接國稅	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
北海道地方稅	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
區町村稅	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
備考							

總人口、總戶數及總納稅者ノ總數(納稅者ノ總數ハ一人ニシテ直接國稅北海道地方稅區町村稅ヲ納ムルモノモ或ハ二稅ノミヲ納ムルモノモ凡テ一人ニ算シタル總人員ヲ云フ)ノ備考トシテ掲載スヘシ

大藏省訓令第二十二號 (明治三十五年五月六日)

北海道

法令ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ經テ公共團體ニ於テ起債ヲ爲シタルトキ及之ヲ償還シタルトキハ左記様式ニ依リ其都度當省ニ報告スヘシ

但從來ノ負債ニシテ現在償還未了ノモノハ此際取纏メ報告スヘシ

認可年月日及號	借入年月日	借入額	利率	區(又ハ何)名
區(又ハ何)債借入報告				
合計				

認可年月日及號	償還年月日	元金償還額	利金支拂額	利率	利子計算期間	區(又ハ何)名
區(又ハ何)債償還報告						
合計						

然ルニ明治三十三年度ニ於テハ時世ノ進運、地方自治制ノ發達其他明治二十七八年戰役ノ結果等ノ爲メ地方債巨額ニ上リ其弊害同年度末ニ至リ漸ク經濟界ニ影響ヲ及ホシ金融梗塞利率奔騰シ市場沈滞スルニ至リシヲ以テ政府ハ一般ニ事業縮少經費節減ノ方針ヲ示スト同時ニ地方債ニ關シテハ特ニ地方長官ニ調諭シテ之カ緊縮ヲ促シタリ今左ニ其調諭ノ主ナルモノヲ掲ケン

內務省地甲第六二號 (明治三十四年七月三十一日)

市町村又ハ水利組合ノ起債許可稟請ニ就テハ精察ノ調査ヲ遂ケ其事業ノ緩急負擔ノ堪否ニ付詳細ノ意見ヲ具陳セラレヘキ事ハ去ル明治二十六年十一月中訓第六九二號ヲ以テ內務大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之候處近來市町村又ハ水利組合等ヨリ進運スル起債許可稟請書類中ニハ何等ノ意見ヲモ具陳セラレサルモノ往々有之然ルニ右等起債ノ件ニ關シテハ過日大臣ノ訓示ニ據テ總務長官ヨリモ親ク協議及ハレタル通リ目下起債ノ方法ニ依リ經營スル事柄ニ就テハ特別ノ事情アル場合ノ外ハ容易ニ詮議セラレヘキ筋ニ無之ニ付既ニ稟請中ニシテ再考ヲ要スル爲メ返却ノモノハ勿論將來許可稟請ヲ要スル場合ニ際シテハ篤ト御審査ノ上詳細ノ意見ヲ具陳シ進運相成候儀致度爲念及通牒候也

又明治三十五年四月地方官會議ノ際大藏大臣男爵會輔荒助モ左ノ口演ヲ爲シ地方債ノ緊縮ヲ促セリ其要旨左ノ如シ
地方債ニ就テハ昨夏既ニ諸君ニ説示シタル如ク本大臣ハ大ニ緊縮ヲ促スノ必要ヲ認メ小學校ノ設備ヲ遂クルカ爲メニ分ニ過キタル金額ヲ教育資金ヨリ借入ル、モノ天災地變ノ爲メニ避クヘカラサル費用ヲ借入ル、モノ等ノ外容易ニ之ヲ認可セサルノ方針ヲ取リタリ例ヘハ或地方ノ一村ニ於テ入會債行ノ爲メニ數百年來荒蕪ニ付シテ願ミサリシ原野百有餘町歩ニ造林事業ヲ起スカ爲メニ起債セントスルモノ又某縣ノ水利組合ニ於テ個人ノ用水ヲ占有スルヨリ生スル不便ヲ拯ハンカ爲メニ其ノ買收ノ費ヲ得ントスルモノ等ハ其民利ト關係スルコト頗ル深ク且將來ノ利益確實ナルヲ以テ

特ニ之レヲ認可シタリト雖モ其他或ハ道路ヲ開キ水路ヲ開通セントスルモノ或ハ新ニ實業學校ヲ設立セントスルモノ或ハ物産陳列場ヲ設ケントスルモノ等ハ其事ノ美ナルニ拘ハラズ目下ノ經濟事情ニ於テ是カ爲メニ負債ヲ起シ負擔ヲ後世ニ殘スノ得策ナラサルヲ認メテ盡ク之ヲ拒否セリ是方針ニ依リ審議ヲ遂ケ昨年中認可シタル地方債總額ハ參百八拾萬圓ニシテ之ヲ前年ノ起債認可額七百八拾五萬圓ニ比スレハ半額ニタモ達セス然ルニ尙ホ昨年末地方債總額ハ四千七拾萬圓ニ上リ之ヲ前年末ノ地方債總額參千五百七拾萬圓ニ比シテ四百九拾萬圓ノ増加ヲ見ル蓋シ昨年前以前ニ於テ認可ヲ得タル起債ヲ昨年ニ至リ實行シタルモノアル等ノ事情ナキニ非ルモ其主タル原因ハ舊債償還ノ甚タ遅々タルト殊ニ認可ヲ要セサル起債ノ増加シタルトニアリトス自今尙ホ一層地方財政ノ運用ヲ謹ミ其監督ヲ嚴ニシ認可ヲ要セサル地方債就中市町村三箇年以内債ノ如キハ特ニ一層ノ注意ヲ加ヘテ其整理ヲ圖ラレンコトヲ希望ス

斯ノ如ク中央政府ハ地方債ノ監督ヲ嚴ニシ容易ニ起債ヲ認可セザリシト雖モ從來已ニ認可ヲ得テ一部ノ事業ニ著手シ半途中止スル能ハサルモノニシテ而モ橫濱水道公債大阪築港公債ノ如キ大公債ニ付テハ經濟界ノ不振ニ因リ内國ニ於テ公債ヲ募集シ能ハサルカ爲メ海外ニ向ヒ種々ノ條件ヲ付シ之カ賣出ヲ試ムル者漸ク相生シ若シ之ヲ放任スルトキハ我國經濟上ノ信用ニモ關スルノ虞ナキニ非サルヲ以テ中央政府ハ地方長官ニ對シ之カ詳細ノ調査ヲ命シ且其取扱ノ方針ヲ內定シタリ今左ニ其通牒並内議案ヲ掲ケン

內務省祕甲第一四六號 (明治三十五年七月四日)

最近各地方公共團體ノ起債ニ關シ外國人ヨリ借入ニ付契約上種々ノ條件ヲ以テ區々ノ交渉ヲ爲スモノアルニヨリ其結果ハ忽チ外國市場ニ顯出シ從テ外國ニ對スル我國經濟ノ信用上ニ影響ヲ及ホスコト尠カラズ依テ自今右起債ニ關シ外國人ト交渉ヲ爲サントスルトキハ其交渉ニ關スル事項ヲ詳細取調ノ上豫メ內務大藏兩省へ御内議ノ御取扱相成度依命此段及通牒候也

(大藏省國庫課長發議) (明治三十五年八月八日決議)

地方公共團體外國ニ公債賣出ノ件ニ關スル調査事項左記ノ通り豫メ御內定置相成度尤モ爾餘ノ事項ト雖モ事ノ重大ニ涉ルモノハ其都度審議ヲ遂ケ經伺候コトニ取計致度此段相伺候也

調査事項

- 一 公債發行ノ場所ハ内國ニ限リ其自ラ取扱フト他ニ委託スルトヲ問ハス外國ニ於テ發行セシメサルコト
- 二 公債元利ヲ外國通貨ニ換算シ仕拂フノ條件ヲ付セントスルトキハ豫メ一定不動ノ換算率ヲ設ケス其仕拂期ニ於ケ

ル換算相場ニ依ラシムルコト

三 公債元利ノ仕拂ヒ方ヲ外國人又ハ外國法人ニ委託セシメサルコト

第二 地方債額ノ消長

自治制施行以前ニ於ケル地方債ハ其法令檢メテ不完全ニシテ區町村ノ起債ニ關シテハ明治九年布告第三百三十號ノ規定ニ據リ單ニ公私借ノ區別ヲ明ラカナラシメタルニ過キス又府縣ノ起債ニ關シテハ府縣會規則ノ解釋上年度内ノ借入ヲ許容シタルニ過キサルコトハ前述シタル如クナルヲ以テ其起債若クハ償還ニ至リテモ特ニ之レヲ報告セシムルノ規定ナク隨テ其債額ノ消長ヲ知了スルニ由ラシ依テ大藏省國債局長ハ明治二十五年四月中各府縣知事ニ照會ヲ發シ市制、町村制實施以前ニ於ケル各區町村ノ借入未償還額等ヲ報告セシメタリシト雖モ其調査周到ヲ缺キ精數ナル統計ヲ舉タルコト能ハサルヲ以テ今茲ニ市制、町村制ノ實施ヲ起點トシ爾來地方債額ノ消長ヲ述ヘンニ市制若クハ町村制ノ規定ニ基ツキ內務大藏兩大臣ノ認可ヲ經テ之レカ借入ヲ爲シタル市町村債ハ明治二十三年四月ヲ以テ始メトシ後幾ハクナラヌシテ府縣制、郡制ノ發布ヲ見ルニ至レリ然レトモ直ニ施行スルニ至ラザリシヲ以テ明治二十三年度ニ於テハ府縣制若クハ郡制ノ規定ニヨリ之レカ起債ヲ認可セラレタルモノナク府縣ハ單ニ同年一月法律第三號ノ規定ニ據リ臨時土木費ノ借入ヲ遂行シタルニ過キサルヲ以テ同年度末ノ起債額ハ僅カニ百五萬七千餘圓ノ少額ニ止マリシト雖モ翌二十四年度ニ至リテハ明治二十三年法律第四十六號ノ結果トシテ始メテ水利組合債ノ借入ヲ認可シ二十五年年度ニ至リテハ府縣制ノ規定ニヨリ漸ク之レカ認可ヲ與ヘタルト明治二十三年中認可ニ係ル東京市公債ノ募集トニヨリ更ラニ其債額ヲ増加シ二十六年年度末ノ如キハ其額九百拾六萬七千餘圓ニ達シ爾來多少ノ増減ナキニアラザリシト雖モ降テ明治三十年年度ニ至ルヤ地方事業ノ發達ハ勿論日本勸業銀行並ニ府縣農工銀行開設ノ結果トシテ著シク其負債額ヲ増加シ同年度末ニ於ケル債額ハ千四百拾五萬參千餘圓ニ及ヒ三十二年年度ノ如キハ參千九拾八萬餘圓ノ多キニ達シ明治三十五年年度ニ至リ實ニ五千百餘萬圓ノ巨額ニ昇レリ今地方債ノ消長ヲ示サン爲メ第一表ニ於テ各年度末地方債府縣別ヲ示シ第二表ニ於テ各年度末地方債目的別ヲ示シ第三表ニ於テ各地方債中債券ヲ發行シタルモノ、各年度末發行高ヲ舉ケ第四表ニ於テ右ノ外明治三十年年度以降市町村ニ於ケル三年以内公債及元本五萬圓以下ノ府縣債千圓以下ノ郡債ノ各年度末現在高ヲ示ス但シ明治三十二年年度以前ニ於テハ府縣郡債ヲ包含セス

鹿兒島縣

合計

一〇,五八六,六六四

二二,三三三,五七七

一,四〇〇,〇〇〇

九,一七〇,四八八

一〇,〇六三,九一四

一〇,〇三三,八二一

一〇,九二六,七九二

一四,一五三,四三三

一三,六二〇,五四三

一三,九八〇,一九〇

(第一表) (日)各年度末地方債府縣別表

廳名	三十三年度	三十四年度	三十五年度
北海道廳	七,九六〇,〇〇〇	七,八三四,八〇〇	七,八四四,二一〇
東京府	八三七,五一六	七四五,八四二	七〇八,八九三
京都府	一一,九五四,六八六	一五,七九三,三八一	一九,一八四,九三八
大阪府	八一三,一九一	八〇九,九三八	二,一七七,二一八
兵庫縣	三,二九七,二〇八	三,二九四,八七三	三,二七九,五〇四
神奈川縣	九七九,一四六	一,四九五,一五〇	二,一四七,七六〇
長崎縣	三,一〇四,九八一	三,二五六,八七八	二,五二三,三七五
新潟縣	八四〇,四五四	六八七,〇六八	六一一,七二〇
埼玉縣	一五三,九二九	一七三,六一二	一四二,六一二
茨城縣	二四二,〇六一	二五七,三九七	一七六,一八六
群馬縣	九八,六八〇	二一八,九九八	一八九,三八一
栃木縣	二九二,〇二〇	三五八,八五九	二一四,三六八
奈良縣	六四,一一七	五九,〇五五	四〇,五一三
三重縣	三五五,二五二	三三四,五七五	二六五,五九三
愛知縣	八七九,四四二	一,一三三,一四九	一,七四八,三五四
靜岡縣	八三,一三二	三二五,二九七	三六八,四五二

廳名	三十三年度	三十四年度	三十五年度
山梨縣	三〇三,〇〇一	三〇六,四三四	二七二,七八四
滋賀縣	三四二,四八一	二九五,〇七六	二五七,一三三
岐阜縣	三六〇,四六一	三六一,一八九	五五九,一七十一
長野縣	七〇,二二四	一六六,一九〇	一三八,七五六
宮城縣	二五二,四七五	三九七,四七九	二九九,七四三
福島縣	一九〇,一五〇	二五三,九六八	二八九,三二〇
岩手縣	一八三,九七五	四四四,四二二	五八三,二七五
青森縣	一二九,五八六	一二九,五八六	一一四,六〇〇
山形縣	一八八,八四九	一八八,二二四	二二三,二七三
秋田縣	七九,九三五	一〇九,八五八	九三,九三五
福井縣	三七二,〇一五	六九七,〇八五	五二一,〇八五
石川縣	四二四,二一九	六三六,四七八	五五〇,六四七
富山縣	四六二,五七五	一九三,五七九	一,四三二,三三九
島根縣	八,八七四	六〇,七四六	四二,八九四
鳥取縣	二六,三二二	一三,一二〇	二二,五五八
岡山縣	九八,八六八	一二〇,九四五	六六六,一五〇
廣島縣	三九四,五四〇	三九一,八五五	三九五,七三三
山口縣	八〇〇	九,八〇〇	一一,八二二
和歌山縣	一〇九,八五〇	一〇〇,六七〇	八二,六二〇
德島縣	五四,四四九	三六三,一九九	四二四,〇二七
香川縣	二五〇,五〇二	二四七,二四八	二五〇,七九六
愛媛縣	一一五,〇二五	二二二,九三四	二二七,三五八
高松縣	二六,三〇〇	九五,八四一	七九,九八八
福岡縣	四,八八〇	一九,八五〇	一一〇,七一七

年別	大分縣	佐賀縣	熊本縣	宮崎縣	鹿兒島縣	沖繩縣	合計
二十九年	二九六,二五二	三二,五六九	八五,〇〇〇	一一二,〇四五	一六八,六二九	〇	三七,一一〇,六五六
三十年	五七五,〇二四	四五,五六九	六八七,一二四	二三四,二四五	二八六,四七六	〇	四五,四三三,〇八六
三十一	六〇六,二二八	一八,九八〇	六九二,〇七四	二四四,五四五	二六九,六四三	〇	五二,一一五,二七四

(第二表) (イ)各年末地方債目的別一覽表

年別	教育費	衛生費	土木費	勸業費	舊債償還	計
二十九年	二〇四,七八七	八五,七三〇	一七,七三〇	八五,〇四五	一五〇,九二八	二八,二八二,二九九
三十年	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
三十一	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
三十二	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
三十三	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
三十四	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
三十五	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
三十六	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
三十七	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
三十八	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
三十九	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十一	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十二	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十三	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十四	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十五	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十六	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十七	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十八	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
四十九	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇
五十	二〇四,七九六	三七,五四〇	一〇,三五一,七〇一	七五,〇四五	一九〇,四四四	二〇,二〇四,四八〇

(第二表) (ロ)各年末地方債目的別一覽表

年別	教育費	衛生費	土木費	勸業費	舊債償還	計
三十三年	三六,四五六	八,六七四	二,八五九	三,六八一	二〇,八八九	三七,七二九
三十四	一六,二四六	一,八一三	一,八七九	一,三六五	二,三五〇	二三,〇七三
三十五年	一七,五七六	五,五八五	三,〇三六	四,七九四	三,一四七	二八,一三〇

(第三表) (イ)各年度末債券發行高表

府縣名	二十三年	二十四年	二十五年	二十六年	二十七年	二十八年	二十九年	三十年	三十一年	三十二年
東京府	〇	〇	一,九五七,〇〇〇	四,九五七,〇〇〇	四,九五七,〇〇〇	四,九五七,〇〇〇	四,九五七,〇〇〇	四,九五七,〇〇〇	五,一六〇,〇〇〇	七,九七〇,〇〇〇
京都府	一五〇,〇〇〇	一九二,四五〇	三,七四三,三三〇	三,七四三,三三〇	四,〇六二,〇〇〇	六,八七六,五五〇	七,三六二,〇〇〇	七,二八二,〇〇〇	七,二八二,〇〇〇	七,九七〇,〇〇〇
大阪府	〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	一,九七〇,〇〇〇	一,九七〇,〇〇〇	一,九七〇,〇〇〇	一,九七〇,〇〇〇	一,九七〇,〇〇〇	一,九七〇,〇〇〇	一,九七〇,〇〇〇
神奈川縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
兵庫縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
長崎縣	〇	〇	〇	一六,〇六三	一六,〇六三	一六,〇六三	一六,〇六三	一六,〇六三	一六,〇六三	一六,〇六三
新潟縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
静岡縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
山梨縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
滋賀縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
岐阜縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
福井縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
石川縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

總計	香川縣	廣島縣	岡山縣	富山縣
一五〇,〇〇〇	〇	〇	〇	〇
八六三,一二二	〇	〇	〇	〇
三,〇一九,二二六	〇	〇	〇	〇
七,四七四,九〇〇	〇	〇	〇	〇
七,五〇六,三三〇	〇	〇	〇	〇
七,八一三,三五〇	〇	〇	〇	〇
七,九二七,七〇〇	〇	〇	〇	〇
九,〇三〇,四九八	〇	〇	六六,〇〇〇	〇
一一,三三三,九五五	〇	三七六,八五〇	六六,〇〇〇	三〇,〇〇〇
一三,四三三,三〇〇	一〇〇,〇〇〇	三七五,八五〇	六二,七〇〇	三〇,〇〇〇

(第三表) (日) 各年度末債券發行高表

縣名	三十三年度	三十四年度	三十五年度
北海道廳	七,九六〇,〇〇〇	七,八三二,〇〇〇	七,八二六,〇〇〇
東京府	七,五二一,〇〇〇	六,五二八,〇〇〇	六〇八,九〇〇
京都府	一一,八一七,二〇〇	一五,二六一,一〇〇	一八,六一一,七〇〇
大阪府	五九〇,〇八五	六二六,一九一	二〇二八,〇〇〇
神奈川縣	二,九一〇,〇〇〇	二,九〇一,六六七	二,八三六,五六七
兵庫縣	九一九,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇	二,〇四五,五〇〇
長崎縣	八〇〇,〇〇〇	八〇〇,〇〇〇	一,七三〇,〇〇〇
新潟縣	〇	〇	〇
埼玉縣	〇	〇	〇
千葉縣	〇	〇	〇
茨城縣	〇	〇	〇
群馬縣	〇	〇	〇
栃木縣	〇	〇	〇
奈良縣	〇	〇	〇

縣名	三十三年度	三十四年度	三十五年度
三重縣	〇	三〇七,八〇〇	一,二二一,六五〇
愛知縣	〇	六,五〇〇	五,五〇〇
靜岡縣	〇	二七九,二五〇	二五〇,九〇〇
山梨縣	〇	一九八,九〇〇	一九八,九〇〇
滋賀縣	〇	二八三,三五〇	二一三,四五〇
岐阜縣	〇	〇	〇
長野縣	〇	〇	〇
宮城縣	〇	〇	〇
福島縣	〇	〇	〇
石川縣	〇	〇	〇
富山縣	〇	〇	〇
島根縣	〇	〇	〇
鳥取縣	〇	〇	〇
岡山縣	〇	〇	〇
廣島縣	〇	〇	〇
山口縣	〇	〇	〇
和歌山縣	〇	〇	〇
德島縣	〇	〇	〇
香川縣	〇	〇	〇

縣名	三十二年	三十一年	三十年
愛媛縣	〇	〇	〇
高知縣	〇	〇	〇
福岡縣	〇	〇	〇
大分縣	〇	〇	〇
佐賀縣	〇	〇	〇
熊本縣	〇	四二九、七五〇	〇
鹿兒島縣	〇	〇	一五〇、〇〇〇
沖繩縣	〇	〇	〇
合計	四〇〇、二四二、二七〇	三三三、二四〇、二五八	二七、八八八、一三五五

(第四表) (イ)各年度末不要認可地方債府縣別表

縣名	三十二年	三十一年	三十年
東京府	四四、三四二	一〇七、九二一	一四、一二五
京都府	二四一、一八七	二四七、四三六	二一八、一六七
大阪府	二七〇、四八〇	一一三、五七一	七四、〇九四
神奈川縣	三三四、一一九	一九六、九九五	二五〇、一〇八
兵庫縣	九八、三三〇	六四、六二二	三〇、七四五
長崎縣	四三九、五七七	三九一、七四五	三六八、七二八
新潟縣	一一、八九九	七、八六七	三、〇五〇
群馬縣	二一、〇七五	八、〇六一	五、二九一
合計	一、二八〇、一〇三	一、一五九、九二二	一、一五九、九二二

縣名	三十二年	三十一年	三十年
千葉縣	四八、一〇三	一一、五四七	一一、五六二
茨城縣	一一、六四七	一五九、五七五	七、〇七五
栃木縣	一五九、五七五	五三、七五八	三五、二〇一
群馬縣	五三、七五八	九六、八六五	九一、八六一
茨城縣	九六、八六五	二二三、四四三	四四、二〇七
山梨縣	二二三、四四三	二四、七八九	〇
山梨縣	二四、七八九	二九、六九二	〇
山梨縣	二九、六九二	八一、五三一	〇
山梨縣	八一、五三一	九一、六三二	〇
山梨縣	九一、六三二	一二七、六七一	五六、八五二
山梨縣	一二七、六七一	三六、二六五	九一、六一五
山梨縣	三六、二六五	三五、五七九	六〇〇
山梨縣	三五、五七九	三一、八五六	二六、八二五
山梨縣	三一、八五六	二、四五四	三四、三九三
山梨縣	二、四五四	一三三、二五一	二、四一九
山梨縣	一三三、二五一	九五、五七五	九三、七一五
山梨縣	九五、五七五	四四、一三八	八九、七七一
山梨縣	四四、一三八	二二、九八九	二一、六〇六
山梨縣	二二、九八九	八四、九三一	九六、八九三
山梨縣	八四、九三一	一〇一、六四二	六五、八〇八
山梨縣	一〇一、六四二	四一、〇九五	九〇、三七三
山梨縣	四一、〇九五	一四七、五三四	四〇、〇九三
山梨縣	一四七、五三四	二五、六八四	一〇九、五二六
山梨縣	二五、六八四	〇	二三一、〇七七

縣名	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年
山口縣	一三二,七〇五	一三八,五二八	一四三,七二一	
和歌山縣	一一,八三一	六,一八九	一〇,七九三	
愛媛縣	一三,五八七	一二,五〇五	一四,四九三	
高知縣	六,九二九	一七,二五三	二七,五九四	
徳島縣	三五,一七七	四七,五〇二	六四,五四〇	
香川縣	〇	二〇,〇九〇	二五,九〇五	
福岡縣	四四,九五二	五〇,五七八	五五,七一二	
大分縣	二四,八〇五	三九,一八七	四三,三四二	
佐賀縣	一七,七〇八	一九,五五八	二三,〇八七	
熊本縣	二二,三四八	三二,六〇五	六七,九三二	
熊崎縣	一〇,六三五	二〇,七一三	四〇,五八四	
宮崎縣	七,一九八	七,八三八	一三,七二三	
鹿兒島縣	九四,二八三	三,一六五,三三三	三,八三六,八一二	
合計				

(第四表) (乙)各年末不要認可地方債府縣別表

府縣名	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年
北海道廳	〇	〇	〇	〇
東京府	六五,四五二	八六,四四七	一一三,九四九	
京都府	八八,五六〇	七三,五一三	一一一,一二八	
大阪府	二六二,七六〇	四二五,四九六	一,六八三,二四二	
神奈川縣	四七四,〇六八	四三四,二九六	四七九,五〇五	
兵庫縣	三三一,四五二	六九一,六七〇	五六三,二一五	

縣名	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年
長崎縣	一四一,五八四	三三四,八一七	五二七,五二一	
新潟縣	五二七,九二八	三二八,七〇〇	四〇一,一八四	
埼玉縣	五九,四八八	一〇九,九〇三	一二七,六四三	
茨城縣	九八,二八九	一三三,六九三	一三七,八八〇	
群馬縣	四一,六〇〇	一二二,八七七	一六九,八二三	
栃木縣	一五九,五七五	一一七,七五三	一八七,五〇七	
奈良縣	八一,八五四	四二,八四〇	七五,七八七	
三重縣	一一〇,二二八	八七,九四五	五四,〇一一	
愛知縣	二二九,一一九	四二,六五七	九八,三六九	
靜岡縣	四七,八七三	一三九,四四二	一四八,四八四	
山梨縣	二九,六九二	一四九,八一〇	二一〇,八七五	
滋賀縣	六三,七一〇	一五一,九五七	一四四,一六五	
岐阜縣	一六五,二六三	一四三,五四四	一八七,二五〇	
長野縣	一一四,七二七	一五六,八七四	二二七,六一七	
宮城縣	四七,七二三	五〇六,九九九	五一〇,〇五六	
福島縣	二九,八一六	一八〇,八八三	一二六,二四一	
岩手縣	四九,一三八	一一四,五二二	一二七,〇二九	
青森縣	一一九	六七,二〇七	八六,二四一	
山形縣	一八〇,四九八	一一六,六一七	一五六,八八三	
秋田縣	一二三,五九三	一二九,〇六五	三五四,二八三	
福井縣	四五,一〇四	八〇,三七九	一三三,四二三	
石川縣	三六,三〇七	七九,九九八	一六二,七五八	
富山縣	一〇二,二三〇	一二八,五八四	一五四,四二七	

島根縣	七四、〇九一	九一、五九五	九三、五四一
島根縣	一五三、二八三	二二六、一五四	三三八、五四七
岡山縣	二四四、〇四二	三三二、八六五	四三四、九五七
廣島縣	四九、八三四	一三四、三九五	二〇〇、七七五
山口縣	一五五、一四六	二二五、九七八	二五一、一一七
和歌山縣	一三、〇二六	九四、八三五	八三、四一七
德島縣	八三、五〇六	一五一、六七五	一六四、六五八
香川縣	五五、四九七	一七七、四四五	二二一、一一〇
愛媛縣	一九、二六一	四七、八五四	一六三、五八三
高知縣	八五、五三〇	九八、八三七	一一二、四五七
福岡縣	五五、九三一	四〇七、六四三	五九九、五七八
大分縣	五〇、四二七	一〇九、四一三	一五四、六六八
佐賀縣	二七、八九五	四三、四七二	五八、二九八
熊本縣	六九、八九〇	七九、九三三	一一三、一九六
宮崎縣	六〇、二四六	九一、四五二	七四、八〇二
鹿兒島縣	二八、一五七	二九、七〇〇	四七、三九九
沖繩縣	〇	〇	〇
合計	五、〇一〇、四二五	七、五二〇、一六六	一〇、七二四、四九九

備考

一 本表ハ資料ノ都合ニ依リ曆年ニ依リ計算セリ

第九編 準備金

第九編 準備金

第一章 總說

準備金ノ制度ハ明治二年十月政府發行紙幣證券並ニ公債證券ヲ回收スル基本及國庫ノ豫備トシテ不用物品賣拂代其他正租雜稅外ノ諸雜入ヲ蓄積シ之ヲ積立金ト稱シタルニ起リ大藏省出納司之ヲ管理シ來リシカ明治五年六月該積立金ノ名稱ヲ改メ始メテ準備金ト爲シ準備金規則十二箇條ヲ設ケ之カ管理ノ法ヲ定メタリ其規則ノ前文ニ曰ク

經國理財ノ實況ニヨリ紙幣證券又ハ公債證券ヲ發行スル際ニ於テハ殊ニ豫備ノ眞貨ヲ貯蓄シ精確ノ方法ヲ以テ之カ費用ノ制ヲ設ケ以テ證券ノ兌換及紙幣公債證券等ノ運用ヲ回護スルハ實ニ大藏ノ要務ニシテ然モ目今至緊至重ノ件トス故ニ現時金庫中ニ存在スル各種ノ眞貨ヲ常用其外ノ項中ヨリ分取シ全ク其計算ヲ別チ便宜金銀地金ヲ購入シ又ハ其他ノ費用ニ供シテ漸ク其額ノ増殖ヲ勉メ以テ此要旨ヲ達センコトヲ謀リ爰ニ左ノ條件ヲ設立シテ其費用ノ方法及計算ノ順序ヲ定メ以テ常用トノ區別ヲ判ス云々

此ノ如キ趣意ニヨリ同規則ニ於テハ當時金庫中ニ現在シ新舊各種ノ眞貨ニ舊諸藩發行紙幣準備金ヲ加算シテ之ヲ準備金ト名ケ時ニ臨ミテ金銀地金舊貨幣等ヲ購入シテ貯藏シ或ハ之ヲ新貨ニ鑄造シ又ハ常用部ニ賣却シ或ハ紙幣公債證券ヲ購入シテ準備金ノ増殖ヲ謀リ政府發行證券ノ償還ニ供スルモノトシ何等ノ事故アルモ常用ニ費用シ又ハ他ニ流用スルヲ許サ、ルコト、セリ而

シテ右準備金規則ハ當時大藏省ニ於テ之ヲ制定シ太政官ニ上陳シタルニ止マルト雖モ準備金制度ノ基礎ハ同規則ニ依テ始メテ確立セルモノト謂フ可シ明治六年七月準備金管理ノ事務ヲ國債寮ニ移セリ然レトモ出納ノ事務ハ出納寮ヲシテ掌ラシム同年六月準備金計算規則ヲ定メ準備金ヲ分テ第一不動固有第二臨時收入第三活用運換第四利益増殖ノ四類ト爲シ第一類ハ壹千萬圓ノ本位金貨ヲ以テ定額トシ中六百八拾萬圓ハ兌換證券ノ交換ニ充テ他ニ參百貳拾萬圓ハ非常ノ豫備ニ供ヘ他ノ諸類ハ専ラ準備金ノ増殖費用ニ充テタリ明治八年五月準備金計算規則及同傳票規則ヲ改メ準備金ヲ三類ト爲シ(一)固有準備(二)國債銷却資金準備(三)活用轉換臨時收入利益増殖準備ニ分テ第一類ハ壹千萬圓ヲ定額トシ新紙幣發行ノ豫備トシ第二類ヲ以テ内外國債銷却ノ資ニ充テ第三類ハ専ラ利用増殖ニ供フ明治九年五月準備金取扱規則ヲ定メ從來ノ計算規則ニ更フ但シ其大體ニ於テハ敢テ異ナル所無シ

明治十年七月準備金取扱規則ヲ更正シ從來奉還祿石代金ヲ常用部ヨリ編入シテ國債償還ニ充テタルヲ止メ毎年度償還スヘキ國債元利ヲ常用部ヨリ編入スルノ制ト爲シ同年八月準備金運用規則二十八條ヲ定メ内外公債證券株券地券金銀銅料塊舊貨幣洋金銀及米穀等ノ購入販賣ニ關スル準則ヲ設ケケタリ斯クテ明治十一年七月準備金ノ組織ニ關スル規程ヲ更メ準備金條例及減債金條例ヲ設ケ準備金ハ紙幣發行ノ基金ニ充ツルモノトシ内金貨壹千萬圓ヲ基金トシテ貯蓄シ其他ハ運轉資本ニ供スルモノトシ毎年度常用決算殘額ハ準備金中へ繰入レ更ニ臨時ノ決議ヲ以テ繰入金ヲ爲スコト、セリ而シテ現在準備金ノ中貳千萬圓ヲ分割シテ減債基金ト爲シ専ラ内外國債償還ノ基金ト爲シ其運轉ハ諸公債證券購收買却ノ一途ニ止メ準備本部ノ運用ト區別シ減債部ヨリ

生セル收益金ヲ以テ常用部國債元利償還ノ補充ニ備フルコト、セリ而シテ明治十三年六月準備金ノ貸付ヲ廢止シ已ムヲ得サルモノハ太政官ノ允裁ヲ待ツコト、セリ

明治十四年四月太政官達第三十三號會計法ノ制定アルニ及ヒ政府ノ歲計ハ常用準備ノ二部ニ大別シ準備金ノ歲出入ハ本部減債ノ二部ニ區分シ別ニ定ムル所ノ規程ニ據リ大藏卿之ヲ管守スル旨ヲ約定セリ是ニ於テ同年八月從來ノ條例ヲ改メ準備金規則ヲ定メ準備本部ハ政府紙幣交換ノ豫備トシ減債部ハ常用部ニ於ケル國債償還ヲ補充スルノ基金トシ兩部ノ金額ハ彼此流用ヲ許ササルモノト爲セリ同年十二月準備金取扱順序ヲ設ケ準備金規則實施ニ關スル細則ヲ定ム而シテ同月準備金規則中ニ改正ヲ加ヘ準備本部ハ正貨又ハ地金ニ限ルモノトセリ茲テ明治十五年三月海外預ケ金規程ヲ制定シ又準備金假拂取扱順序ヲ定ム

明治十六年一月軍備擴張ノ計畫ヲ定メ準備金中ニ軍備部ヲ設キ同年四月準備金軍備部收支取扱方要領ヲ定メ明治十六年度以降常用部豫算ニ定メタル金額ヲ軍備部繰入金トシテ準備金ニ編入シテ蓄積シ申ラ陸海軍費ニ充テ收支ノ金額ハ常用部ニ於テ出納スルモノトセリ同年十二月準備金中更ニ豫備部ヲ増設シ明治十七年三月準備金豫備部收支取扱要領ヲ定メ常用支出ニ係ル通常貸付金及別段貸付金ノ返納金ヲ徵收シ常用部ノ出納ヲ經ルコト無ク直ニ豫備部ニ編入シテ蓄積シ臨時非常ノ用途ニ供シ竝ニ常用部歳入ニ先チ歳出ヲ要スル場合ニ一時常用部ニ貸付クルモノトセリ是ニ於テカ準備金ハ準備本部、減債部、軍備部、豫備部ノ四部ニ分ル、ニ至レリ

準備金設置以來政府ハ紙幣及證券回收ノ準備トシテ正貨ヲ貯蓄スルヲ本義トシ或ハ金銀銅ノ地金ヲ購收シテ正貨ヲ鑄造シ或ハ海外荷爲替取組ヲ爲サシムル等直接間接ヲ問ハス種々ノ方法ヲ

以テ正貨ノ蓄積ヲ企圖シタリト雖モ奈何セン當時政務ノ多端ナルト内外事變相踵テ臻レル爲メ
 之カ費途ニ資スルノ國帑巨額ヲ要セルヲ以テ政府紙幣ノ發行ハ漸次増加シ準備正貨ノ蓄積一之
 ト伴隨スル能ハス遂ニ紙幣ト正貨トノ差價日ニ月ニ加ハルノ狀況ヲ馴致セリ是ニ於テ政府ハ拮
 据之レカ救治ノ法ヲ講シ明治十四五年以降大ニ準備金運轉増殖ノ方法ヲ改良シ生絲製茶米穀其
 他諸物貨ノ海外輸出ヲ獎勵シ爲替取組規約及其徵收順序ヲ確實鞏固ナラシメ以テ紙幣ヲ正貨ニ
 替換收得スルニ勉メ以テ一方ニハ紙幣流通ノ額ヲ遞減シ一方ニハ準備正貨ヲ蓄積シタルヲ以テ
 明治十八年四月末日ニ於テハ其正貨蓄積高ハ殆ト四千萬圓トナリ政府發行紙幣ハ最高度ヨリ凡
 ソ五千有餘萬圓ヲ減却シ其流通額ハ八千九百萬餘圓トナレリ從テ紙幣ノ價格モ回復シ紙幣兌換
 ノ機會到レルヲ察シ同年五月十八日大藏卿松方正義ハ政府紙幣ニ關シ太政官ニ建議スル所アリ
 同年六月六日太政官布告第十四號ヲ以テ政府發行ノ紙幣ハ明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ヲ以テ
 交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ銷却スヘク交換ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務
 ヲ取扱ハシムル旨ヲ公布シ準備金ニ屬セシ正貨ヲ日本銀行ニ交付セリ是ニ於テ同月準備金ノ制
 度ヲ改正シ準備金本部減債部豫備部ノ區別ヲ廢シ準備金本部ノ一ニ併合セリ蓋シ紙幣交換ノ途
 已ニ定マリ其交換基金ト爲スヘキ正貨ハ準備本部減債部豫備部ノ三部ニ在ル正貨ヲ以テ之ニ充
 ツルコト、爲セルヲ以テナリ

明治十九年二月準備金ニ關スル事務ヲ出納局ノ管掌ニ屬セシメ同時ニ準備金取扱順序ヲ改正シ
 三月更ニ準備金收支順序ヲ改定ス而シテ同月從來ノ軍備擴張費ヲ軍備部ニ編入スルノ制ヲ廢止
 シ又準備金ニ收納シ來レル諸返納金ハ明治十九年度以降常用部ニ收入スルコト、セリ以上述ヘ

タル如ク政府紙幣兌換銷却ハ明治十九年一月以來實施セラレリタリト雖モ元來政府紙幣ハ兌換
 紙幣トシテ長ク通用セシムヘキモノニアラス漸次之ヲ交換シテ終ニ世上流通スル所ノモノハ兌
 換銀行券ノ一種ニ歸セシメサルヘカラス是レ曩ニ兌換銀行券條例ヲ制定セシ所以ナルヲ以テ日
 本銀行ニ附與セラレタル兌換銀行券發行ノ特權ヲ一層擴張シ且鞏固ナラシメ其發行券ノ幾分ヲ
 借上ケ以テ政府紙幣ヲ銷却スルノ方法ヲ畫シ明治二十一年七月兌換銀行券條例改正ノ議ヲ閣議
 ニ提出シテ允許ヲ得同年七月三十一日勅令第五十九號ヲ以テ兌換券條例ヲ改正シ同年五月末日
 ニ於ケル政府發行紙幣壹圓以上ノ流通額ニ對シ日本銀行ヨリ兌換銀行券貳千貳百萬圓ヲ借入レ
 之ニ國庫現在ノ準備正貨ヲ合セ壹圓以上ノ政府紙幣ヲ全ク銷却スルノ計畫ヲ立タリ而シテ斯ノ
 如ク政府紙幣ヲ全ク銷却スルニ付キ日本銀行ヨリ貳千貳百萬圓ノ借入ヲ要セシ所以ハ明治二十
 一年五月末日ニ於ケル政府發行紙幣ノ未償還額ハ五千貳百拾壹萬五千四百拾八圓七拾參錢貳厘
 ニシテ内八百參拾六萬參千七百四圓七拾參錢貳厘(明治二十一年五月末日ニ於ケル當時ノ調查ハ
 圓七拾參錢貳厘ナリ)見シト雖モ後ニ壹圓以上紙幣ト種類ハ五拾錢以下紙幣ナルヲ以テ二十三年度
 以降毎年總豫算ニ百萬圓ノ支消員額ヲ定メ歳入金ノ内ヨリ其資金ヲ支給シ補助銀貨ヲ鑄造シテ
 以テ五拾錢以下ノ紙幣ト交換シ殘リ壹圓以上紙幣四千參百七拾五萬四千四百拾四圓ハ當時準備
 金中正貨在高貳千七百七拾五萬四千四百拾四圓ヲ以テ之レヲ日本銀行ニ交付シ交換スルモノトセ
 ハ準備正貨ハ全ク貳千貳百萬圓ノ不足ヲ生スルヲ以テナリ

明治二十三年度以降ハ金銀地金ノ購收又ハ海外荷爲替取組其他ノ運轉ハ悉ク之ヲ止メ海外預ケ
 金等ノ各公使館領事館及正金銀行支店出張所等ニ寄託散在セルモノヲ蒐集シテ專ラ其整理ニ從

事シ同二十三年三月中ノ準備正貨現在數壹千參拾九萬貳千參百參拾壹圓五拾錢ノ内ヲ以テ當時流通ノ政府紙幣壹圓以上ノ紙幣參千貳百參拾九萬貳千參百參拾壹圓五拾錢ニ對シ參拾九萬貳千參百參拾壹圓五拾錢ハ已ニ交換實施ニ付シタリシカ同月二十八日法律第二十四號ヲ以テ紙幣交換基金特別會計法ヲ設ケ從來政府ニ於テ發行シタル紙幣ヲ廢止スルタメ紙幣交換基金ヲ置キ政府所有ノ準備金壹千萬圓ハ之レヲ紙幣交換基金ニ組入レ又政府ハ金貳千貳百萬圓ヲ限リ日本銀行ヨリ借入レ紙幣交換基金ニ組入ル、コト、セルヲ以テ三月末日準備金現在ノ正貨壹千萬圓ハ之レヲ紙幣交換基金特別會計部ニ移シ茲ニ明治二十三年三月三十一日限リ準備金制度ヲ廢止シ其出納ヲ完結セリ當時大藏大臣伯爵松方正義ノ準備金整理ニ關スル報告ヲ見ルニ準備金現在高ハ總テ千百參拾五萬五千貳百四拾圓四拾參錢參厘ニシテ此内現金在高千參拾九萬貳千參百參拾壹圓五拾錢貸付金及輸出米穀賣却未済ノ分等ニ係ル金額九拾六萬貳千九百八圓九拾參錢參厘ナリ然ルニ右現在金千參拾九萬貳千參百參拾壹圓五拾錢ハ政府發行壹圓以上紙幣ノ兌換基ニ充テ參拾九萬貳千參百參拾壹圓五拾錢ハ已ニ交換實施ニ付シ壹千萬圓ヲ以テ特別會計紙幣交換基金ニ組入レタルモノニシテ他ノ貸付金輸出米穀賣却未済ノ分ニ屬スル九拾六萬貳千九百八圓九拾參錢參厘ハ準備金部ヨリ控除シ之ヲ常用諸貸付金ノ部ヘ移シ準備金ハ爰ニ整理ヲ完結セルモノナリ

以上述ヘタル如ク準備金ノ制度ハ明治二年ニ其起源ヲ發シ明治二十三年特別會計ニ屬スル紙幣交換基金ヘ引繼クニ至レル迄制度ノ改廢殆ト數フルニ違アラス從テ準備金ヲ以テ經營セシ事項亦極メテ多ク殊ニ準備金増殖ノ目的ヲ以テ經營セシ事業ハ極メテ複雑ナルモノアリ而シテ是等

ノ事業ハ原則トシテ準備金規則ニ基キ之ヲ經營セリト雖モ時ニ或ハ太政官ノ允裁ヲ經テ常規以外ノ收支ヲ爲セシモノナキニアラス今準備金ヲ以テ經營セシ事業ノ主要ナルモノヲ摘載スレハ概ネ左ノ如シ

- 一 金銀地金ヲ購入シ漸次正貨ヲ蓄積セルコト
 - 二 公債證書ヲ購收シテ基金ノ増殖ヲ計リ併セテ國債ヲ償還スルノ基本ヲ増加セシコト
 - 三 日本銀行橫濱正金銀行及日本郵船會社等ノ株金募集ニ應シ其事業ヲ補助セシコト
 - 四 正貨ノ交換ヲナシテ其需要供給ノ標準ヲ計リ併セテ紙幣ノ價位ヲ維持セシコト
 - 五 貸金及預リ金ヲ爲セシコト
 - 六 海外輸出物ノ荷爲替ヲ以テ正貨ノ收得ヲ計リ併セテ輸出者ヲ獎勵セシコト
 - 七 米穀及昆布ヲ海外ヘ輸出シテ正貨ノ收得ヲ計リ併セテ之レカ販路ヲ開キシコト
 - 八 政府發行紙幣ヲ銀貨ヲ以テ兌換セシコト
- 斯ノ如ク準備金ハ制度ノ變遷甚タシカリシノミナラス之ヲ以テ經營セシ事業モ亦極メテ複雑ニシテ貨幣國債貿易金融其他諸般ノ事項ニ關スルコト多キヲ以テ本編ニ於テハ第二章ニ於テ準備金ノ制度ニ關スル沿革ヲ述ヘ第三章以下ノ各章ニ於テ準備金ヲ以テ經營セシ事業ノ主要ナルモノニ付キ其概要ヲ揭ケ最後ニ準備金收支ノ計數ヲ示スコト、セリ

第二章 準備金ノ制度

準備金ハ明治ノ初年ニ當リ政府財政ノ困難ニ際シテ平時ニ於テ資金ヲ蓄積スルノ必要ヲ悟リ且ツ紙幣證券及ヒ公債證書ノ回收ニ備フル爲メ漸次ニ蓄積セルモノニシテ初メ之ヲ積立金ト稱スリ明治二年十月始メテ該積立金ヲ置クヤ其原資額ハ岩鐵ノ沽却價金僅ニ四百六拾八圓五拾錢ニ過キサリシモ爾後運上、冥加、雜稅、不用物品及家屋倉庫ノ賣却價金、舊幕府貸付返納金、賍贖金及ヒ徒場力役金、量出米、舊藩楮幣準備金、舊藩殘金、舊藩貯蓄金、舊藩上納金、運轉諸益金其他種々ノ雜收入等ヲ以テ之ヲ増殖シ明治五年ニ至リ始メテ成文ノ規則ヲ定メタリ即チ此年六月大藏大輔井上馨ハ從來蓄積セル所ノ國庫中ノ正貨千貳拾參萬餘圓及紙幣九萬九千餘圓合計千百參拾參萬餘圓ヲ分割シテ基金ニ繰入レ之ヲ金庫準備金ト名ケ左ノ規則ヲ定メ以テ正院ニ上陳シタリ準備金規則左ノ如シ

創設準備金規則

經國理財ノ實況ニ依リ紙幣證券又ハ公債證書ヲ發行スル際ニ於テハ殊ニ豫備ノ眞貨ヲ貯蓄シ精確ノ方法ヲ以テ之カ費用ノ制ヲ設ケ以テ證券ノ兌換及紙幣公債證書等ノ運用ヲ回護スルハ實ニ大藏ノ要務ニシテ而モ目今至緊至重ノ件トス故ニ現時金庫中ニ存在スル各種ノ眞貨ヲ常用其外ノ項中ヨリ分取シ全ク其計算ヲ分チ便宜金銀地金ヲ購入シ又ハ其他ノ實用ニ供シテ漸ク其額ノ増殖ヲ勉メ以テ此要旨ヲ達セシメント謀リ爰ニ左ノ條件ヲ設立シテ其費用ノ方法及計算ノ順序ヲ定メ以テ常用トノ區別ヲ判スルコト左ノ如シ

第一條 金庫準備金ノ總額ハ別簿冊ニ細記スル新舊各種ノ眞貨ノ合計高タルヘシ
 第二條 舊藩發行紙幣ノ準備金ハ都テ領收ノ現額ヲ以テ此準備金ニ加算スヘシ
 第三條 此準備金ハ證券(三井組ニ取換ハセテ發行セル大藏省ノモノヲ云フ)ノ兌換ヲ負擔スヘキニ付人民ノ望ニ從ヒ庫中ヨリ出シテ證券ノ引換ヲナスヘシ

但租稅其外ノ公納ニ收入スル證券ハ其儘常用ニ繰込ミ別ニ引換ヲ要セサルヘシ

第四條 右兌換セシ證券及現時貯在ノ證券ハ便宜時價ヲ較計シテ金銀地金ノ購入ニ充ツヘシ
 第五條 此準備金ハ臨時ノ價格ヲ較計シテ専ラ金銀地金又ハ古金銀又ハ在來通貨ノ類又ハ洋銀類ヲ購入シ或ハ之ヲ精製シテ新貨ニ鑄造シ或ハ之ヲ常用ニ賣却シテ其増殖ヲ勉ムヘシ
 但其之ヲ常用ニ充ツルコトアルトモ全ク其時價ニ依リテ之ヲ賣却シ決シテ其計算ヲ混スヘカラス

第六條 此準備金ハ臨時紙幣公債證書等ノ購入ノ爲メ之レヲ費用スルコトアルヘシ

但此費用ハ全ク其増殖ヲ謀ル爲メニテ決シテ其紙幣公債ノ銷却ト混淆スヘカラス

第七條 此準備金ハ縱令何様ノ事故アルトモ決シテ常用ニ費用シ又ハ他ノ融通ニ供スヘカラス

但シ第四條第五條ノ處置ヲ爲スニ於テ一時融通ニ供スルハ此條ニ抵觸セサルヘシ
 第八條 此準備金ハ別ニ其計算其外ヲ詳記スル各種ノ簿冊ヲ設ケ毎年四度以上精細ノ計算ヲナシ其殖益ノ多寡其他ノ實況ヲ一目瞭然タラシムル爲メ簡明ノ報告書及計表ヲ作り之ヲ卿輔ニ呈スヘシ

但シ日々ノ有高及出納ノ次第ハ毎月簿冊面ノ定額ニ照ラシテ差引表ヲ作り之ヲ卿輔ニ呈スヘシ

第九條 此準備金ヨリ生スル各種ノ利益ハ都テ精算ノ節ニ於テ本額ニ加算合計スヘシ

但當初ヨリ殖益ノ多寡ハ別ニ簿冊ヲ作テ之ヲ記載シ其額ト其歲月トヲ詳明タラシムヘシ

第十條 此準備金ハ若シ費用ノ都合ニヨリテ各所ニ分置スルコトアルトモ其計算ヲ統一ニシテ決シテ常用ト混入セス尤モ一時ノ交替タリトモ他ノ定費ノ類ニ借用スヘカラス

第十一條 此準備金ハ大藏卿自ラ調印ノ書達ヲ以テ運用交換ヲ命スルニ非サレハ決シテ金庫ヲ出入スヘカラス

但其簿記計算及ヒ運用ノ順序ハ出納寮中別ニ右掛リヲ命シ從事セシムヘシ

第十二條 此條款中他日若シ要用ノ件アレハ卿輔ノ許可ニ從テ之ヲ更正増補スヘシ
 右之通確定候事

明治五年壬申六月

大藏大輔 井上馨	從五位上 野景範
從五位 澁澤榮一	大藏大丞 渡邊清
大藏大丞 岡本義方	四等出仕 鄉純造
大藏少丞 小野忍	大藏少丞 熊谷直光
紙幣頭 芳川顯正	出納頭 馬渡俊邁
統計頭 中村清行	検査權頭 伊集院兼寛

正算權頭 中 村 義 心

右ノ條款ヲ確定セシ保證トシテ本日各自ラ茲ニ記名調印致シ候也
此準備金ハ半歲ノ後即チ明治五年十二月ニ至リテハ増シテ千六百貳拾七萬圓餘ヲ算スルニ至レ
リ斯クテ翌明治六年一月二十五日大藏大輔井上馨ハ準備金ノ要務三件ヲ舉ケテ左ノ如ク正院ニ
稟請シ其裁可ヲ得タリ

準備金ノ儀ニ付曩日及具陳候處即今壹千六百萬圓餘ノ現高ニ有之抑斯金ノ儀ハ證券六百八拾
萬圓高兌換ノ資本ニシテ後來會計ノ都合ヲ度リ全ク歲入出外ニ於テ漸次増殖ノ法ヲ設ケ之レ
ヲ積テ幾千萬ノ多キニ至ラシメントス決シテ平常用度ノ缺ヲ補フ儲蓄ニアラス蓋シ其用タル
ヤ國家經濟上ニ於テ最モ注意スヘキ要務三アリ一ハ現今通用スル太政官札五千五百萬圓藩札
可引換之分凡貳千萬圓辛未廢藩後ヨリ當明治六年十二月迄歲出不足ノ分凡貳千萬圓ノ札ヲ發
行セサルコトヲ得ス右合凡九千五百萬圓ノ高ニ及ヘリ且造幣寮ニ於テ鑄造ノ新貨未タ參千萬
圓ノ上ニ至ラス尤右ノ内壹千萬圓ハ已ニ準備積金ノ爲メ流通ノ抑塞ヲナシ眞貨ト紙幣ト大ニ
平均ヲ失セリ故ニ人民日々眞貨ヲ好愛スルニ至ラハ直ニ右紙幣眞價トノ間差違ヲ生シ一時紙
幣ノ鬱塞ヲナスコトアリ一ハ貨幣流通ノ上或ハ貿易輸出ノ都合ニヨリ洋銀ト吾金貨トノ相場
等ニ付テ自ラ時々價位ノ輕重ヲ生スルコトアリ一ハ追日發遣スル公債證券買賣流通人民信用
ノ都合ニ依リテハ右相場如何相成候カ萬一相場下落ノ節ハ之ヲ購入スル策無クンハ公債證券
ノ重寶便利タルコト能ハサル等ニ付豫防ノ準備トシテ常ニ内外各貨幣及各紙幣證券等流通ノ
景況價位ノ輕重等熟視審按シ或ハ購入或ハ賣却臨機制變其通貨ヲ適當ノ位ニ置キ高低ナカラ

シムル等素ヨリ其施設ノ順序ハ豫メ期シ難シト雖モ之ヲ要スルニ府庫充實スルニアラサレハ
其方略モ亦行フヘカラス臣等此ニ見ルコトアリ慨然目途ヲ立テ方法ヲ定メ壬申六月僅ニ壹千
百參拾餘萬圓ヲ以テ準備ノ元金トシ漸ク増殖ヲナシ壹千六百餘萬圓ノ高ニ至リ追次貨幣鑄造
ヲナス等百念其功ヲ奏セント欲ス而シテ其費用ノ順序ハ尋常出納ト計算ヲ異ニシ確實ノ定規
ヲ作り各官之ニ列印シテ之ヲ遵行セントス殊ニ證券高六百八拾萬圓ノ如キ時々人民ノ請求ニ
應シ直ニ眞貨ト交換スルコトヲ負擔シ彼是之レヲ計較スルニ右準備ノ數各紙幣證券高ノ十ヶ
一ニモ及ハサレトモ現今且施シ且養ヒ以テ異日非常ノ用ニ充テ經國ノ大功ヲ裨補セントス仰
願クハ臣等在職中ニ限ラス百歲ノ後永ク此方法ニ從ヒ年々増殖ノ工夫ヲナシ以テ國運ヲ回護
シ内國貨幣流通ノ上人民ヲ保安スル基礎トナシ此ヲ平常費用ノ爲メ耗遣セサランコトヲ乞フ
若シ廟議ニ於テ臣等カ希望スル處ヲ以テ是トナシ玉ハ、國家ノ大幸申スニ及ハス候ニ付速ニ
允許ノ命ヲ蒙リ乍權上 主上ヲ奉始政府列官在印ノ御達書ヲ下シ賜ハリ度別冊相添此段相伺
候也 (別冊以テ錄ニ存セサ)

明治六年第一月

大藏大輔 井 上 馨

正 院

御 中

蓋シ右稟議ノ主旨ハ曩ニ定メタル準備金ニ關スル規定ハ僅ニ省内處務上ノ規程ニ止マルノ嫌ア
ルヲ以テ更ニ準備金制度ヲ永久ニ確定セシメンカ爲メ特ニ太政官ノ允裁ヲ求メタルモノ、如シ
準備金ニ關スル事務ハ初メ大藏省出納寮ニ於テ管掌シタリシカ明治六年七月始メテ國債寮ヲ設

ケ同年十二月二日國債寮職制及事務章程ヲ定ムルニ及ヒ準備金ニ關スル事務ヲ國債寮ニ移シ同時ニ大藏卿大隈重信ハ準備金計算規則竝ニ準備金傳票規則ヲ設ケ以テ據ル所アラシム但シ準備金ノ出納ハ依然出納寮ヲシテ取扱ハシムルコト、セリ右準備金計算規則ニ依レハ準備金ヲ分チテ(一)不動固有準備(二)臨時收入準備(三)活用運換準備(四)利益増殖準備ノ四類ト爲ス第一類準備金ハ壹千萬圓ヲ定額トシ此定額ヨリ超過スル有ルモ減少スル無キヲ要シ本位金貨ヲ以テ之ニ充テ定額内六百八拾萬圓ハ兌換證券ノ交換ニ參百貳拾萬圓ハ非常ノ豫備ト爲ス第二類ハ府縣其他ヨリ納付スル不用物品沽却代正租雜稅ニ屬セサルモノ及舊藩貸付ノ返納金ヲ以テ之ニ充テ此類ニ算入スル上納金ノ内本位金貨ハ第一類ニ轉入シ銀貨紙幣竝ニ古金銀洋銀料塊ノ類ハ一旦第三類ノ金貨ト交換シテ更ニ第一類ニ編入ス又舊藩楮幣ハ新紙幣ニ交換シ第三類ノ金貨ト交換シ更ニ第一類ニ編入スルモノトス第三類ハ第一類ノ定額壹千萬圓ニ下ラサレハ此類ノ活用運換ニ充ツルハ五百萬圓ニ下ラサルモノトシ此準備ハ活用運換ノ資本ニ充テ利益増殖ヲ計ルモノトス第四類ハ第三類ニ於テ造幣其他ノ事業ヨリ得ル所ノ純益ヲ收入スルモノニシテ其純益ハ本位金貨ニ換ヘ第一類ニ編入レ又第三類ノ資本損耗補償及出納寮トノ貸借利子ハ總テ之ヨリ支出スルモノトス而シテ準備金傳票規則ハ各類準備金ノ出納ノ手續ヲ定メタルモノナリ左ニ其全文ヲ掲ク

準備金計算規則

第一條 準備金計算法部分シテ四類トナス

第一類 不動固有準備ヲ計算ス

第二類 臨時收入準備ヲ計算ス

第三類 活用運換準備ヲ計算ス

第四類 利益増殖準備ヲ計算ス

以上全數準備金計算ノ法ヲ區別ス

第二條 第一類準備ハ壹千萬圓ヲ以テ定額トシ此數ヨリ超過スルコト有テ減少スルコトナキヲ要ス

第三條 第一類準備ハ本位金貨ヲ以テ之ニ充テ紙幣外國貨幣等此類中ニ算入ス可ラサル者トス

第四條 第一類準備金壹千萬圓ノ内六百八拾萬圓ハ兌換證券ヲ交換スルノ準備トス殘ル所ノ參百貳拾萬圓ハ非常ノ豫備トナス所ノ者ナリ

第五條 第一類準備ヲ貯藏スルハ明治六年新營スル所ノ本省中金庫ニ於テス日夜保險ノ警護怠ルコトアル可ラス

第六條 第一類準備ハ出納寮當用ニ於テ用度缺乏ノ日ト雖モ決シテ此部中ヨリ流用スルコトヲ得ス

第七條 第一類準備ニ加増スルモノハ第二類臨時上納金ノ内本位金貨ノ分竝ニ第四類逐次増殖スル利益ノ内金貨ニ換テ送致スルモノ是ナリ

第八條 第一類準備ヨリ支給スル者ハ第三類活用運換ノ資本金耗缺スルトキハ便宜處分スルコトヲ得ヘシ然レトモ定額壹千萬圓ヲ缺キ支給スルヲ得可ラス

第九條 第一類準備ハ脚輪以下關係ノ定員毎回臨時金庫ニ付テ検査スルコトアルヘシ

第十條 第一類準備金毎一月精算表ヲ作り毎三月合計シテ表ヲ製シ脚輔ニ呈スヘシ
以上第一類準備ノ計算ヲ明ニス

第十一條 第二類準備ハ府縣其他ヨリ不用品沽却代價上納ノ分其他正租雜稅歲入外ノ者竝ニ
明治六年三月第八十一號ニ公布セシ舊藩藩貸付金逐次返納ノ者ヲ以テス

第十二條 第二類準備ニ算入スル上納金ノ内本位金貨ハ之ヲ第一類ニ輸入スヘシ銀貨紙幣竝
古金銀洋貨地金ノ類ハ一旦之ヲ第三類ニ在ル金貨ト交易シ更ニ第一類ニ入ルヘシ又舊藩楮
幣ハ一旦紙幣寮ニ回シ新紙幣ト交換シ再ヒ第三類ニ送り金貨ト換ヘ更ニ第一類ニ入ルヘシ
皆毎月末ニ於テスヘシ股造ノ楮幣ハ從前ノ順序ヲ踐ミ紙幣寮ニ送致シ燒棄セシメ此代リ金
ヲ要スルコト無カルヘシ

第十三條 第二類準備毎一月精算表ヲ作り毎三月合計シテ表ヲ製シ脚輔ニ呈スヘシ
以上第二類準備ノ計算ヲ明ニス

第十四條 第三類準備定額ハ其一類準備壹千萬圓ニ下ラサレハ此活用運換ニ充ツル者ハ五百
萬圓ニ下ルヘカラサル者トス故ニ明治六年 月 日改算スル所ノ準備金全數ノ内第一類準
備定額壹千萬圓ヲ除クノ外一切皆此部中ニ算入スヘシ但別冊出納頭引繼目録ニ照合スヘシ

第十五條 第三類準備ハ活用運換ノ資本ニ充テ利益増殖ノ基礎タル者トス此活用運換ノ方多
端ナリト雖モ現今先ツ之ヲ目スルニ曰ク造幣資本金曰ク橫濱鐵道曰ク阪神鐵道曰ク官山八
幡(伊馬國銀山○佐渡國金銀山○陸中國銀山○二箇所)曰ク公債證書買取曰ク秩祿賞典米
買上曰ク古金銀地金買入等是ナリ偶洋銀賣買ノ事ヲナスコトアリト雖モ是唯偏重偏輕ヲ救

ヒ彼我ノ平準ヲ得ルノミニシテ相場上ノ細業ニ涉ルヲ要セス

第十六條 第三類準備ハ國債證書竝古金銀貨金銀銅ノ地金ヲ抵當ニシテ貸付スルコトアルヘ
シ然レトモ之ヲ貸ノ法ハ滿六箇月ヲ以テ一期トシ利足ハ月五厘(即チ一箇月)以上ナルヘシ
端月ハ三十日ノ割ヲ日分ニナシ抵當物件ハ時價ノ六七分ヲ以テ計算スヘシ但シ其詳細ノ如
キハ貸付内則ニ就テ見ルヘシ

第十七條 第三類準備ニ造幣寮ヨリ輸入スル金銀新貨ハ六年 月 日創設スル所ノ第三類準
備定額ニ照シ唯其額ニ超過スル分ハ悉ク本位金貨ヲ以テ第四類ヲ經テ終ニ第一類ニ送致ス
ルヲ以テ例トス

第十八條 第三類準備金活用運換ノ際造幣其他ノ事業ヨリ得ル所ノ利益ハ本位金貨ニ換ヘ悉
ク之ヲ第四類ニ移シ轉テ第一類ニ輸入スヘシ

第十九條 第三類準備ハ出納寮當用金額乏少用度難支トキハ此部中ヨリ一時流用スルコトア
ルヘシ之ヲ返還スルトキハ直ニ此部中ニ入レ利息ハ第四類ニ送致スヘシ

第二十條 第三類準備造幣其他ノ資本ニ充ツヘキ金員不足スルトキハ第一類ヨリ回辨スト雖
モ自然壹千萬圓ノ定額ニ缺クトキハ之ヲ出納寮ヨリ一時假借スルコトアルヘシ此返還利息
支給ノ法凡テ第十六條ノ如シ

第二十一條 第三類準備中ニ回入スル所ノ古金銀地金ハ速ニ造幣寮ニ送致シ久シク此部中ニ
安置スルヲ得可ラス

第二十二條 第三類準備毎一月精算表ヲ作り毎三月合計シテ表ヲ製シ脚輔ニ呈スヘシ

以上第三類準備ノ計算ヲ明ニス

第二十三條 第四類準備ハ第三類ニオキテ造幣其他ノ事業ニ就テ全ク得ル所ノ利益ヲ收入スルノ所トス萬一第三類活用運換ノ際損亡アリ多少其資本ヲ耗失スルトキ之ヲ贖フモ亦必此部中ヨリス

第二十四條 第四類準備ニ算入スル所得ノ利益金ハ總テ本位金貨ニ交換シ每一月第一類準備ニ送入スルヲ定規トスヘシ

第二十五條 第四類準備出納寮ト貸借ノ利息ハ皆互ニ此部中ヨリ出入スヘシ但利息ノ割賦ハ雙方共ニ一箇月五厘ト定ムヘシ

第二十六條 第四類準備每一月精算表ヲ作り毎三月合併表ヲ製スヘシ

以上第四類準備計算ヲ明ニス

準備金傳票規則

第一條 第一類ノ金額年數ノ内收支増減ノトキ毎ニ必ス傳票ノ順序ヲ經ルコト常ノ如クニシテ其現物出納ハ即出納寮ニ於テス

第二條 府縣其他ヨリ不用物品沽却代價ノ類正租雜稅外上納ノ分ニシテ第二類ニ收入スヘキモノハ主任ノ各寮局ヨリ國債寮ニ可納ノ旨ヲ指示シ尋テ之ヲ同寮ニ納ムレハ更ニ同寮ヨリ傳票ノ順序ヲナシ出納寮ニ送致スヘシ

第三條 第二條ニ掲クル品物代等ノ内賻金銀ハ價格ヲ表セス唯其種類ト其員數ヲ以テ傳票ニ付スヘシ賻札ハ一札傳票ニシテ紙幣寮ニ納メ燒却ニ歸スヘシ

第四條 第三類ヨリ造幣寮へ送送スル地金類ノ傳票ハ本年十一月一日出納寮ヨリ引繼キノ節腹書シタル價格ヲ再ヒ此拂傳票ニ識シ後日利益表ヲ作ル參酌ニ供スヘシ

第五條 第三類ヨリ阪神鐵道並八嶺山ニ支給スル拂傳票ハ常例ノ如クシ八嶺山ヨリ輸納スル金銀銅鉛ノ類ハ時價ヲ以テ其價格ヲ定メ此金員ヲ本行ニ掲ケ其物件並量目ヲ腹書スルヲ規則トス

第六條 第三類中ノ貨幣ヲ流用シ物件ヲ買取ルノトキ傳票ノ順序假令ハ金何萬圓ト本行ニ掲ケ此地金若干貫目ト腹書スヘシ又本部ニ儲蓄ノ物件ヲ沽却スルモ其金額ヲ本行ニシ其物件ノ數量ヲ腹書スヘシ

第七條 墨銀並外國各種ノ貨幣ヲ賣買交換スルニ方テハ必ス本日ノ相場ヲ以テ通貨ヲ本行ニ載セ墨銀等ヲ腹書スヘシ

第八條 第三類ノ活用運轉ノ際損益増減交々相生スヘク之ヲ精算スルノ法一件一條毎ニ差引ヲ遂クレハ却テ煩雜ヲ招キ且ツ額未遷延シテ整頓スルコト晚シ故ニ傳票上ニ於テ増減表ヲ作ルハ儲蓄ノ物件時々其實價ノ貴賤アルハ姑ラク問ハス唯本行ニ掲ケタル元價ヲ以テ出入兩項ヲ比較シ前月表ニ照合シ若干ノ増益若クハ若干ノ減損ヲ表面ニ明著シ第三類定額ニ超過スル者ヲ以テ利益トナシ直ニ之ヲ第四類ニ送致スヘシ但シ國債寮ニ於テハ一件一條ニ付テ終始ノ損益ヲ掲クヘキ簿冊ハ極メテ詳細ヲ要ス

第九條 第三類ヨリ第四類ニ回シ第四類ヨリ更ニ第一類ニ輸入スルトモ傳票ノ順序ハ常例ト異ナルコトナシ

第十條 毎月五日卿輔ノ目前ニ於テ出納頭、國債頭、記録頭、傳票課立會前月表ヲ照合シ毫差無ラシムルハ常例ノ如クナルヘシ

斯クテ明治七年一月十四日大藏卿大隈重信ハ準備金收支ノ種類ヲ區分シ之ヲ國債寮ニ達セリ其區分左ノ如シ

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 準備金收支種類左ノ通候條此段相違候 | |
| 一 橫濱鐵道汽車賃 | 一 遺金其外所用ノ名分無之獻金 |
| 一 電信料 | 一 居室器具船車牛馬等都ヲ不用品拂代金 |
| 一 舊藩藩貸付金返納 | 一 造幣寮益金 |
| 一 石高拜借年賦返納金 | 一 元金銀座場所土汰ケ金銀ノ冥加金 |
| 一 官宅家税及府下邸宅拂代金 | 一 大阪出納寮下掃除代金 |
| 一 官有地御拂下ケ代金 | 一 舊政府並舊藩藩園粗城詰米ノ類拂下代金 |
| 一 官林竝往還並木損木御拂代金 | 一 上納或ハ貸付石代上納ノ分共 |
| 一 舊藩縣準備金紙幣寮納ノ分 | 一 庫穀出納ノ節コボレ米掃集拂代並明俵拂 |
| 一 舊藩ニ於テ物産基金立金其他貸付金ノ類紙幣寮納ノ分 | 一 代東京府徒場囚獄用米ノ明俵並糠拂代金 |
| 一 貯蓄金通常準備金竝名分不分明ニテ從來在金ノ内藩札ヲ除ノ外一切ノ種類 | 一 壬申年迄ノ歳入延納致シ居此節ニ至リ上納申出候分正雜共 |
| 右準備金ヘ收入可致事 | 一 嶺山所得 |

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 一 舊公債百萬磅銷却 | 一 壬申年中迄ニ府縣ヘ可下渡諸費 |
| 一 新公債二百四十萬磅銷却 | 一 嶺山資金 |
| 一 家祿賞典奉還ノ向ヘ被下金 | 一 鐵道運轉費 |
| 一 内國債 | 一 電信局入費 |
| 右準備金ヨリ支出可致事 | |
| 右準備金收支種類ヲ定メタルヲ以テ國債寮ハ之ニ基キ其收支種類區分ノ細別ヲ定メ左ノ如ク爲セリ | |
| 一 舊藩藩貸付返納 | 一 在金ノ内藩札ヲ除ノ外一切ノ種類 |
| 一 石高拜借年賦返納金 | 一 遺金其外所用ノ名分無之獻金 |
| 一 官宅家税及府下邸宅拂代金 | 一 居室器具船車牛馬等都ヲ不用品拂代金 |
| 一 官有地御拂下ケ代金 | 一 元金銀座場所土汰ケ金銀ノ冥加金 |
| 一 官林竝往還並木損木御拂代金 | 一 大阪出納寮下掃除代金 |
| 一 舊藩縣準備金紙幣寮納ノ分 | 一 舊政府並舊藩藩園粗城詰米ノ類拂下代金上納或ハ貸付石代上納ノ分共 |
| 一 舊藩藩於テ物産基金立金其他貸付金ノ類紙幣寮納ノ分 | 一 庫穀出納ノ節コボレ米掃集拂代並明俵拂 |
| 一 貯蓄金通常準備金竝名分不分明ニ付從來 | 一 代東京府徒場囚獄用米ノ明俵並糠代 |
| 右第二類ヘ收入 | |
| 一 橫濱鐵道汽車賃 | 一 電信料 |

一 造幣寮益金	納申出候分正雜共
一 壬申年迄ノ歳入延納致シ居此節ニ至リ上	一 嶺山所得ノ金銀銅類悉皆
右第三類へ收入	
一 舊公債百萬磅銷却	一 嶺山資本金
一 新公債二百四十萬磅銷却	一 鐵道資本金
一 家祿賞典奉還ノ向へ被下金	一 鐵道運轉費
一 内國債	一 電信局入費
一 壬申年中迄府縣へ可下渡諸費	
右第三類ヨリ支出	
外ニ	
阪神鐵道入費	
造幣寮定額臨時費共	

右是迄ノ通準備金第三類ヨリ支出

斯クテ同年十二月二十九日諸貸付返納金額ハ準備金ノ收入ニ屬スルコト、爲セリ
 明治八年五月十五日準備金計算規則及同傳票規則ヲ改正ス蓋シ從來ノ準備金第三類流用運轉準備ハ其支出漸次ニ増額ヲ來シ第二類及第四類收入ノ分ヲモ繰廻シ運轉ノ資本ト爲スニ至リ交換上ノ手續繁雜ナルノミナラス計算上却テ錯雜ニ涉ルヲ以テ之ヲ改正スルノ必要アルニ由ルナリ
 改定準備金計算規則ニ依レハ準備金ヲ分テ(一)固有準備(二)内外國債銷却資金準備(三)活用運換臨時

收入利益増殖準備ノ三ト爲シ第一類ハ準備金定額壹千萬圓ハ新紙幣發行ノ豫備トシ他ニ流用ヲ許サス第二類ハ華士族奉還ノ賞典祿家祿以下ノ六種ヲ收入トシ外國舊公債元利金以下ノ六種ヲ支出トシ收入額ノ支出額ニ超過スル金額ハ便宜第三類ニ回付シテ流用運換スモノトス第三類ハ電信料以下三十二種ヲ收入トシ電報寮定額以下十三種ヲ支出ト爲ス又出納寮ノ當用金額缺乏セルトキハ一時流用シ若本類中缺乏ノトキハ當用金ヨリ繰換エ又豫メ洋銀ヲ貯藏シ官廳ノ需用アルトキハ時價ヲ以テ之ヲ交換スルモノトス改定準備金計算規則及同傳票規則左ノ如シ

準備金計算規則

- 第一條 準備金計算法部分シテ三類トス
- 第一類 固有準備ヲ計算ス
- 第二類 内外國債銷却資金準備ヲ計算ス
- 第三類 活用運換臨時收入利益増殖準備ヲ計算ス
- 第二條 第一類準備ハ壹千萬圓ヲ以テ定額トシ此數ヨリ減少スルコトナキヲ要ス
- 第三條 第一類準備ハ本位金貨ヲ以テ之ニ允テ銀銅紙幣外國貨幣等此類ニ算入ス可ラサルモノトス
- 第四條 第一類準備金壹千萬圓ハ新紙幣發行ノ豫備トナス
- 第五條 第一類準備ヲ貯藏スルハ明治六年新營スル所ノ本省中金庫ニ於テス日夜保險警護怠ルコトアルヘカラス
- 第六條 第一類準備ハ出納寮當用ニ於テ用度缺乏ノ日ト雖モ決シテ此部中ヨリ流通スルコト

ヲ得ス

第七條 第一類準備ハ卿輔以下關係ノ官員毎回臨時金庫ニ就テ検査スルコトアルヘシ

第八條 第二類準備ハ内外國債支消及鐵道汽車ノ費用ニ供セン爲テ充テ置處ノモノナリ然レトモ其拂ヘキ高ニ超過スル金額アルトキハ便宜ニ從ヒ之ヲ第三類ニ回入シテ活用運轉ニ供ス

第九條 第二類準備收入スル所ノモノ

華士族奉還スル所ノ賞典竝家祿高

舊藩知事及士族内國債支消ノ爲還納金毎年歳入ノ内常用ヨリ繰入金

外國新公債金

橫濱神戸汽車賃

舊藩竝人民ノ外債銷却ニ付償還スヘキ爲メ取立金

第十條 第二類準備支出スル所ノモノ

外國舊公債元利金

賞典竝家祿奉還資本金

同新公債元利金

鐵道寮定額

内國新舊公債元利金

汽車運轉費

第十一條 第二類準備中收入スル所ノ外國新公債金ハ家祿奉還資本金ニ充ルト云トモ不足ナルトキハ常用繰入金ノ内ヲ以テ之ヲ補充スルモノトス

第十二條 同斷收入スル所ノ橫濱神戸ノ汽車運轉費ハ外國舊公債ノ償却ニ充ルト雖モ不足ナルトキハ賞典家祿奉還高及舊藩人民外債ノ爲取立金ヲ以テ之ヲ補償スルモノトス

第十三條 第二類準備支出スル所ノ内國新舊公債ハ常用ヨリ繰入金及舊知事士族内債ノ爲還納金ヲ以テ償却スルモノトス

第十四條 同斷支出スル所ノ賞典家祿資本金ハ外國新公債ヲ以テ之ニ充ルト雖モ猶不足ナルヲ以テ常用繰入金ヲ以テ之ヲ補足スルモノトス

第十五條 同斷支出スル所ノ鐵道寮定額橫神汽車運轉費ハ外國舊公債金ヲ以テ之ニ充ツヘシト云モ方今金額ナキヲ以テ賞典家祿奉還高及常用繰入金ノ内ヲ以テ之ヲ補足スルモノトス

第十六條 第二類準備中外債償却ノ爲メ洋銀ヲ必要トスルトキハ之ヲ買上ケ又ハ第三類中ヨリ之ヲ交換スルヲ以テ通例トス

第十七條 第三類準備ハ活用運轉ノ資本金増殖ノ基礎トス固ヨリ定額ナシト雖モ活用運轉ノ都合ニヨリ過多ナルトキハ金貨ヲ以テ第一類ヘ繰入新紙幣ノ豫備トス

第十八條 第三類準備收入スル所ノモノ

電信料

官宅家稅及府下邸宅拂代

石高拜借年賦返納金

舊藩物産基金

官方竝舊藩貸付金返納

舊藩札準備金

礦山所得ノ金銀銅ノ類

遺金其外所用ノ名分無之獻金居室器具船車

造幣寮益金

牛馬等都テ不用品拂代

長崎縣下高島石炭坑拂代年賦上納金

下掃除代

官林竝並木損木拂代

貯蓄金通常準備竝名分不分明ニテ從來ノ在

金

庫穀出納ノ節コボレ米掃集米竝明俵拂代

舊政府竝舊藩藩園糧城詰米ノ類拂下代金或

ハ貸付石代上納ノ分

三井組ニテ引換兌換證券

買上公債證券竝利益金

東京府懲役場明俵竝糠拂代

明治六年以前歳入延納金

三池炭山收入金竝長崎神戶製作所活字所共

收入金

京橋以南煉化石建築家屋拂代年賦上納金

火災其外小屋掛料竝農具代等救助貸下金年

第十九條 第三類準備支出スル所ノモノ

電信寮定額

礦山本寮出張所トモ定額

鐵山開鑿費

製作寮定額

京橋以南煉化石建築架入費繰換金

賦返納

同濟會社拜借金月賦返納其他驛遞寮納ノ分

賍贖金ノ内貯金ノ分

官地竝借屋敷料藏敷料

不通用内外貨幣取揚等ノ分

官有地御拂下代金竝河岸場拜借料其他地理

寮納ノ分

元勸業資本ヨリ貸下年賦返納金

交換古金銀竝買上地金ノ類

官金拜借年賦返納金

準備貸下金利息

三池炭山入費

公債證券買上代

地金買上代

造幣寮定額

地金銀分析精製費及運輸費等ノ類

舊貨幣交換元金

兌換證券引換元金

明治六年以前官省府縣下ケ渡諸費竝請取後
レ貸下ケ金ノ類

第二十條 第三類準備ハ國債證券竝古金銀貨銀行紙幣金銀銅ノ地金ヲ抵當ニシテ貸付スルコ

トアルヘシ然レトモ之ヲ貸ノ法ハ滿六箇月ヲ以テ一期トシテ利息ハ月五厘(即チ一箇月)以上

ナルヘシ滿月ハ三十日ノ割ヲ日分ニ爲抵當物件ハ時價ノ相場ヲ以テ計算スヘシ

第二十一條 第三類準備ハ出納寮當用金額乏少用度難支トキハ此部中ヨリ一時流通シ又此部

中缺乏ノトキハ當用金ヨリ假借スルコトアルヘシ此利息收支ノ法凡テ第十五條ノ如シト云

モ唯抵當ヲ要セス

第二十二條 第三類中豫メ洋銀ヲ貯ヘ置諸官省寮課ヨリ求需アルトキハ相場ヲ以テ之ヲ交換

スルヲ例トス

第二十三條 第三類準備中ニ回入スル所ノ古金銀地金ハ速ニ造幣寮ヘ送致シ改鑄ニ付ス官省

札兌換證券舊藩楮幣ハ紙幣寮ヘ回シ新紙幣ニ換ヘ久シク此部中ニ置事ヲ得可ラス

第二十四條 第一第二第三準備ヲ區分シ毎一月精算表ヲ作り每半年合算シテ表ヲ製シ聊輔ニ

呈スヘシ

第二十五條 第三類準備收支ノ際増殖減損ハ一ト廉毎ニ之ヲ精算シ前月表ニ照シ若干ノ増加

若干ノ減損ヲ表面ニ明著シ聊輔ニ呈スヘシ

以上

準備金傳票規則